

鹿兒島県史料

旧記雜録拾遺
諸氏系譜一

題
字

鎌 鹿
田 児
要 島
人 知
事

解題

これまでに『旧記雑録』を追録からはじめて、前編・後編・附録と刊行し、昨年度はその拾遺家わけ一として、未収録の文書の多い彌寝文書・二階堂文書・島津家文書の中の他家文書を編集刊行した。今年度は同じくその拾遺として「新編島津氏世録正統系圖」と並んで藩記録所が編集した「新編島津氏世録支流系圖」(以下「支流系圖」と略称を用いる)の一部を諸氏系譜一として刊行する。

既刊の『旧記雑録』に掲載した附録全三〇巻中、巻二十六から巻三十までは古今御支族列として、島津氏一門庶家の系譜を取録している。これは今回刊行する「支流系圖」を編者の伊地知季通が抄録したものである。

ただ附録記載の順は、必ずしも「支流系圖」の配列順とはなっていない。すなわち附録では巻二十六に山田・伊集院・若狹島津・知覧・宇宿・阿蘇谷・町田・越前島津・伊作・薩州家の各氏をあげているが、「支流系圖」の順は伊集院・新納・樺山・川上・北郷・石坂・若狹島津・越前島津・知覧・宇宿・山田・阿蘇谷・町田等各氏がつづいている。本巻でとりあげるのは、伊集院・新納・樺山の三氏のみであるが、附録では新納氏は巻二十七・二十八に樺山氏は巻二十八・二十九に収録されている。附録の方では伊集院・樺山・新納氏とも系図と記事が主で、文書の掲出はきわめて少ないが、「支流系圖」では伊集院氏が七六点、新納氏が一二六点、樺山氏が一三四点と文書が収録されている。恐らく季通は附録に抄録するに際して文書は省略し、それらは前編・後編・附録の編年、家わけ史料編に記載したのであろう。

収載記事の最終年号と事項は「支流系圖」の方では、日州佐土原城主島津忠興の庶流久富家の系図で、正徳五年六月二日久府相続であり、その前が喜入氏系図の正徳四年七月三日の十二代久峯の家督相続となっている。附録では巻三十末尾

の川上氏忠村一流系図で親純の末子善八誕生の記事に、享保八年九月二十四日とあり、親方の三子親房が享保九年正月二十五日太守継豊に拜謁した旨の記事、四子彦左衛門誕生の記事に、享保八年十一月二十八日とあるなど例外的に享保年間の記事をみるが、他はすべて正徳年間までとなっている。このことは「支流系圖」の最終記事は正徳年間までであり、当然附録の記事も同様であったのに季通が後の史料により追補を加えたものとみるべきであろう。

「支流系圖」収載記事の最終年号が正徳年間であることの意味を次に明らかにしよう。

「御治世年表」正徳三年の条に「一御氏族之家支流迄茂家譜系統当年被仰付候」とあり、別にまた「一足輕並諸座附又ハ諸士之家来又ハ寺門前町浦在郷之内、御家御氏族之跡与申伝候由ニ御直別等之家号、又ハ御家之字名乗来候者有之由候、向後左ニ相記候家号又ハ御家之字名乗申間敷候、

川上 佐多 新納 樺山 北郷 桂 喜入 町田 伊集院 亀山 山田 碓山 大島 義岡 迫水 阿蘇谷 相馬
石坂

御直別又ハ伊集院・町田ナト之家中慥成者ハ其家筋之嫡家之嫡子迄ハ被遊御免候、他家へ参候得ハ無御免候、末略ス、但七月廿五日ニ被仰渡候」とあって、この年島津氏支族のしかるべき家の名を名乗ることのできる範囲を定め、濫用をいましめる方針が打出されたことを知る。(これをうけた各支族では家毎に名字の使用に制約を設けている。)

そもそも『旧記雜録』前・後編等の基礎資料となった島津氏家譜、「島津氏世錄正統系圖」の編纂がはじめられたのは、江戸幕府が全国統一後の安定期に入って大名諸家より系図文書を提出させ、「寛永諸家系図伝」の編集を企図したのに触発されたといつてよいであろう。封建体制下の秩序の確立は幕府にとつてもまた薩摩藩、島津家にとつても緊要な課題であった。正保二年、文書奉行平田純正は島津光久の命をうけて家譜の編集に着手、十余年後の明暦三年、ひとまず初祖忠

久より十八代家久の初世慶長六年までの分一四冊を完成、恩賞をうけている。さらに家久の死去に至る統編の分七十
九冊、支流系譜五十二家分九十六冊（後年完成の冊数）の編纂に当たったが、純正自身は寛文二年業半ばにして病死、仕事
は次の記録奉行がうけついで完成したのである。すなわち『旧記雑録』追録六、齊宣譜初巻中に「寛陽公時、以平田清
右衛門純正爲文書奉行、命撰島津家譜、於得佛公（忠久）以來至慈眼公（家久）初世凡十八世、正統系譜百十四冊、公中世以後至薨、正統
系譜統編七十九冊、支流系譜五十二家九十六冊編纂成焉」とある。また「三州御治世要覽」明和八年条に「一正徳三年巳、
御氏族之家支流迄、家譜系統被仰付候、以來至只今及五十九年、其家之子孫系統絶有之候ニ付、此節系統被仰付旨、卯十
一月被仰渡」とある。

東京大学史料編纂所の目録によれば、

「1、源姓越前島津正統家譜 一帙 六冊（支流の一） 2、新編島津氏世録支流系圖 七帙 九〇冊（一）（支流の二）
一帙 伊集院九冊（二）（支流の三）一帙 新納七 樺山五（三）（支流の四）一帙 川上五 北郷四 石坂一（四）（支流の
五）一帙 若狭島津一冊 越前島津一 知覧一 宇宿一 宮里一 山田五 阿蘇谷一 町田二 阿多一（五）（支流の六）
一帙 和泉一 佐多一 伊作三 恒吉・石見二家一冊 若松一 西二 忠良三（六）（支流の七）一帙 龜山附藤野一 忠
將一 忠興一 尚久二 歳久二 家久二 忠朗・久儔二家一冊 久明・忠清・忠廣・久記・久房五家一冊（七）（支流の
八）一帙 伊作一 始良一 相馬一 薩州用久一 大田一 大野一 吉利一 寺山一 西川一 豊州家季久一 平山一
大島一 迫水附吉満一 吉岡一 志和池一 友久一 桂一 喜入四」となっている。すなわち前述齊宣譜に九十六冊とあ
るのは、越前島津正統家譜六冊を加えた数であることがわかる。しかし同書は元文年間に越前島津家が再興されてから新
に編纂されたもので「支流系圖」とは本来別途のものともみなければならぬ。とすれば「支流系圖」は全九〇冊に修成さ

れたもので、その時期も記載の内容からみて、正徳年間以後間もないころとみるべきであろう。(「支流系圖」中に越前島津一冊があり、越前島津正統家譜はそれをもとに再興後の家譜を後補修成したものである。)

さて、『旧記雜録』が「島津氏世録正統系圖」に依拠している部分が多いことは、これまでに度々ふれてきたところであるが、それは同じく藩記録所の編纂にかかる「支流系圖」についてもいえることである。「支流系圖」も「正統系圖」と同様に系図と記事、文書からなるが、家ごとにその内容の濃密度に差異がある。領内諸家の古文書等の収集整備は、正保以降元禄年間前後を中心に意欲的に推進されたが、それらを素材として「正統系圖」も「支流系圖」も作成されていたのである。今回刊行する諸家のうち、樺山家の場合を例にとり「旧記雜録」、「正統系圖」、「支流系圖」等の関係を明かにしてみよう。伊地知季安・季通父子の自筆分を多く含む「旧記雜録」原本(東京大学史料編纂所蔵本)をみるとその所在を示す項に「樺山文書」と朱書のある季安筆写文書と「正文在樺山源三郎久清」、たとえば「樺山氏七代信久譜中ニ在リ」等の季通筆写文書(多くは季安筆のものに季通が補訂を加えたもの)とがあることを知る。季安には別に天保八年の書写本「樺山文書全」があり、同文書は樺山家文書の原本(「伝家亀鏡」として初代資久から十五代久辰までの文書が十七巻に集成されている。巻十三の一巻を欠く。)を抄写したものと考えられ、それをさらに転写したものが「旧記雜録」に記載されたのであろう。因に「伝家亀鏡」所載文書二八一点中二〇七点「旧記雜録」に記載されており、「樺山文書」所載文書一六〇点中一五一点が「旧記雜録」に記載されている。したがってはじめ「旧記雜録」用の文書として季安が準備した文書は二八一点↓一六〇点↓一五一点で、残りの四六点は季通が新に追補した分となる。それなら季通は「伝家亀鏡」からあらためて採録したのであろうか。否である。先述したように季通は何々譜中からとっているものであり、「正文在樺山源三郎久清」の如く所在を明記している。これこそ「支流系圖」の記載そのものである。譜とは「支流系圖」

をさすこと疑いない。季通が「支流系圖」を涉獵し、大幅にこれによって補訂を加え「旧記雜録」を編纂したことは明らかである。「支流系圖」中、資春一流樺山伊賀守一流系図、久興のところ、「天正八年庚辰誕生母都之城家臣新納武藏女」とあるのに貼紙を付し、考証の末「武藏ハ忠藏ノ誤ナルヘシ、天正八年比ハ武藏守忠元ノ時代ニモ當レリ、後考ニ供ス」とあるが、筆はまさに季通のものでこれからみても、季通が「支流系圖」を詳細に調べていることがわからう。

さて所蔵者としてみえる源三郎久清とは、樺山氏十八代で系図には寛永十二年六月三日生、元禄四年十二月十八日死とある。とすればその所蔵文書をもとに作成された「伝家亀鏡」の年代も自ら明らかであろう。その最終年月日の文書は寛永十六年八月二日付の重物目録となっている。そして「伝家亀鏡」をもとに「支流系圖」が編集され、季安は「伝家亀鏡」から抄写して「樺山文書」を作成、季通は「支流系圖」により補正を加えて「旧記雜録」前編・後編・附録等に同文書を収載したのである。

新納氏については「正文在新納三河忠徳入道楚弓」、「正文在新納喜右衛門久盛」、「正文在新納次郎四郎忠饒」とあるうち、系図で楚弓は永祿十一年二月二十七日生、明暦三年八月二十一日死とある。久盛は元和五年六月十四日生、宝永二年六月十六日死とある。忠饒は寛永十六年二月二十五日生、万治三年五月十二日病死とある。

とすれば「支流系圖」のもとになった新納氏系図の集成は明暦三年以前に行われていたことにならう。順番はまず正統をあげ、つぎに庶流に移る。その記載は正統の七代忠武の二男忠郷、八代忠勝の二男忠常家をあげ、ついで初代時久の庶長子久有家、二代実久の庶長子久吉家、二男久頼家をあげ、ついで久頼の子忠泰の四男孝晴家、五男忠成家、忠泰の子忠親の二男信久家、三男久明家をあげ、ついで二代実久の四男氏豊家、三代忠臣の二男忠匡家、五男の忠時家、ついで四代忠治の三男是久の子友義の子忠澄家、同じく忠祐家、忠光家、忠載家、そして忠澄の子康久嫡男家をあげ、最後に所出不

明の新納八兵衛武上一流系図を掲出している。右の様に一定の順序によって記載していることがわかる。同様のことは樺山氏についてもいえよう。

まず正統の初代資久から二十一代久堅まで掲出され、ついで庶流に移り、十三代久高の二男久盈家が、次に二代音久の二男與久家、與久六世孫久明弟久宗家、同じく與久二男資春家、資春二男久任家、資春三男伊賀守家、伊賀守四世孫久加の子越中守・忠泰家、次に四代孝久二男音平家、終りに七代信久二男豊萬丸家の系図が掲出されている。すなわち正統の次に正統のもっとも近い時代の庶家をあげ、次に時代の古い順に正統から分出した庶流系図を掲出していることがわかる。

伊集院氏の場合について付言すれば、「支流系圖」では嫡流について、庶流では五代忠国の代から分出した猪鹿倉、日置、麦生田、大重、黒葛原、今給黎、土橋、四本氏等の系図をあげ、ついで六代久氏の代から分出した入佐、大田、南郷、松下等の系図が掲載されている。天保九年四月、伊集院兼誼編纂の『伊集院一流惣系図』（鹿児島県史料拾遺Ⅴ）の掲出順もほぼこれと同じであるが、その冒頭に掲載されている寛文十一年五月二十四日の伊集院長右衛門口上覚によれば、島津宗家から養子が入って嫡流の変動した事情をすることができると述べている。

また同じく伊集院兼誼編の「纂修伊集院系譜」（東京大学史料編纂所蔵、旧島津家編輯所蔵本）嘉永五年七月の兼誼の序文に「伊集院の末流ながら其家筋に生れたれハ、代々の系洛来歴如何なるやと年々跡心を尽し見るに随ひ比較して系統綴ひ立、当時旧記に名有伊地知季安に頼けれハ、諸家の文書、寺院の寄進状迄も懇に書入送られぬ、猶其□にも遺れるを拾ひ旧記をも書添一冊と成し置ぬ、嫡宗家の系図も見す、私に草稿を調事宗家の咎めやあらん、あなかしこ、他の人に見ずへからすとかたく誠め置也」とあることからみても、系譜の作成には支流諸家も深い関心をよせながらも慎重に対処していたことを知る。

全体の配列についても、一定の基準があるようにうかがえる。伊集院氏が最初に来たのは、同氏が支族ながら庶流を多く分出している大支族であり、室町時代総州・奥州家と並ぶ実力を有した家であり、伊作（相州）家が奥州家に代って島津本宗家となる際には、その老臣として大功をたてたことがとくに重視された所以ではないかと推測される。以下新納・樺山・北郷・川上氏は四代忠宗・五代貞久の子を初祖としており、新納・樺山氏とも中世末から近世初めにかけて、島津氏の三州統一、支配権確立に殊功があった。若狭・越前島津氏はそれぞれ初代忠久の弟、子を初祖としており、山田・町田氏は二代忠時の子を初祖としており、和泉・佐多氏はまた四代忠宗の子を初祖としている。それらがまずはじめの一群で、次に三代久経の子久長から出た伊作氏とその一族が一群をなす。そしてその後には総州島津家をはじめ、八代久豊から出た薩州・豊州・大島・志和知家、九代忠国から出た桂・迫水・喜入氏等の一群が掲出されているのであり、自ら順序だった配列になっていることがわかるのである。もちろんそれは「支流系圖」が編纂された正徳年間前後の藩史局の意識を示しているものと思われる、『旧記雑録』附録中の支族列の配列は、明治初年における史家伊地知季通の意識を示すものといっただよいであろう。

以上述べた如く「支流系圖」は正徳頃までに、島津氏正統より分出したとみなされ、庶流としての格式のみとめられ諸家をその重要度と分出の時代別によって、大略順序だてて集めたものであることが推定できた。一体島津氏は、鎌倉初期以降の長い南九州の覇者としての歴史を背景に、多数の支族を分出するとともに南九州の他姓の豪族を家臣化し、併せて縁戚養子関係を結び、近世薩藩の上級家士はほとんど島津氏同族といっただよい状態となっている。しかしながら系図として集成する場合、これら他姓のものは、同族といっただよい排除されたのであり、それら（種子島氏等）については、正徳以降分出の島津氏庶流とともに今後別にとりあげねばなるまい。

次に併載した「諸郷地頭系図」について一言述べておこう。同書は東京大学史料編纂所々蔵、島津家文書中にあり、幕末の薩藩記録奉行伊地知季安の自筆本である。表題はなく小口に「諸郷地頭系図全」の墨書がある。最近集成された東京大学史料編纂所の旧島津家所蔵文書の整理目録には、記載内容からして「薩摩藩諸郷地頭記」の名称が与えられている。しかし同書の諸郷地頭の歴代名簿は、明治十五年頃編纂された「鹿兒島県地誌」の資料編ともいふべき「地誌備考」の諸郷の記載の中に「地頭系図」として一部は載録されている。そして鹿兒島県立図書館所蔵の「地誌備考」中「地頭系図」とあるその注書は、伊地知季通の筆跡とみられるものが少なくない。そしてその内容は上述の季安筆跡本の抄録と思われる。「鹿兒島県地誌」、「地誌備考」の編纂に季通は多大に関与しているから、季通は「地頭系図」という名称で、季安がかつて書写編集しておいた本書を郷毎の記述に大いに活用したものとみてよいであろう。そして季通がこの郷毎の歴代の地頭名と在任期間列挙の記載を「地頭系図」の名称でよんでいたことがわかる。今回諸氏系譜に付載するに当って従来通り「諸郷地頭系図」の題名を付した所以である。

さて本書の内容は、薩藩領内諸郷（外城ともいう、天明四年に郷と改称）の中で私領を除き地頭の置かれる直轄領（地頭所・公領）の歴代の地頭（在任期間等を記す）名の列記であり、いろは順で郷別に掲載している。すべて郷毎に丁のはじめから記載しており、恐らく別々の写を後からいろは順に合冊したものであろう。郷名の肩に記された郡名、下に記された地頭職高は、何れも後筆であとから別の資料によって補記されたものと思われる。また筆跡は同じ季安のものといっても楷書体、草書体等様々に入組んでおり前後統一されていない。恐らく郷毎でもはじめ写した分にあとから補筆した分（主として朱を用いる）が加わっている。大体惣高、狩夫等の記載は初筆であるが、地頭職高は朱で後筆、年代の後の方

は後筆のものが多くようである。年代のもっとも新しいのは指宿について新納駿河久仰、嘉永七年寅月よりとある記事であらう。この嘉永六年頃の地頭氏名が各郷とも一番新しいといえよう。

薩藩領の郷数は「元治元年萬留」によれば一一三郷であり、内訳は地頭所（公領）九十二・私領二十一である。本冊の外城名（郷名）は、いろは順に列挙すると次の如くであり、

い 指宿 伊作 飯野

は 羽月

ほ 坊泊 本城

と 東郷

ち 中郷 帖佐（平松）

お 大村 大口 踊 大始良 大根占 大崎

か 川辺 蒲生 加久藤 紙屋 鹿屋 勝岡 加世田

よ 横川 吉松 吉田 諸県郡 吉田

た 高城 高江 高尾野 谷山 田布施 高原 高崎 高岡 田代 高隈 庄内 高城 財部

そ 曾木 曾於郡

つ 鶴田 恒吉

な 長島

む 穆佐

う 牛根 内之浦
の 野田 野尻
く 申木野 隈之城 久志秋目 栗野 倉岡 申良
や 山川 河辺郡 川内 山田 山崎 山野 始羅郡 山田 山之口
ま 馬越 馬関田 松山
ふ 福山
こ 飯島 国分 小林 郡山 小根占 高山
え 頼娃
あ 阿久根 阿多 綾 始良
さ 佐多 桜島
き 清水
ゆ 湯之尾
み 溝辺 水引
し 重富 敷根 志布志
ひ 日当山 樋脇
も 百次 百引
す 須木 末吉

計九十一郷となる。しかし紙屋は後に野尻に属し重富は帖佐平松に属するので差引八十九郷となる。ここに三郷不足しているが、それは出水・市来・伊集院である。何れも、い^いの項で頭初にくるべきであるが、書写したものが脱落して合冊の際欠けたのであろう。ただ出水は「出水郡地誌備考」中に地頭系図が抄録されており、市来・伊集院は県立図書館本と一連の磯尚古集成館本の「日置郡地誌備考」中に地頭系図が抄録されており、不完全ながら復原できる。本史料集では後尾に付載し補うこととした。なお本冊の終りに喜入・今和泉・知覧の簡単な記載があるが、これらは何れも薩摩国の私領十三の内に入っている。(他に永吉・吉利・日置・平佐・入来・佐志・宮之城・黒木・蘭牟田・鹿籠がある。)大隅国では市成・加治木・重富・垂水・新城・花岡・種子島の七があり、日向国に都城一があり、あわせて私領は二十一、公領九十二で一三郷である。これにより本冊は薩藩の外城(郷)の中の地頭所(公領)をほぼ網羅して、近世初期から幕末嘉永年間に至る各郷の地頭名及びその在任期間を書上げ集成した史料といえ、薩藩史研究の重要資料と評価できよう。何分季安自筆の追補修正を重ねた未定稿本であるため、異本との校合の際等に付したと思われる独特の整理記号や用語等もあって、判断しづらい部分もあるが、つとめて稿本の体を残して刊行した。従来地方史誌等では季通の「地誌備考」所掲の「地頭系図」が利用されていたが、今後はその原本である季安の「諸郷地頭系図」によりさらに詳細な諸郷の歴代地頭一覧が紹介されることになるであろう。

(五味克夫)

例言

- 一 本書は、東京大学史料編纂所所蔵の島津家本「新編島津氏世録支流系図」、「諸郷地頭系図」（伊地知季安自筆原本）を底本とし、「鹿児島県史料旧記雑録拾遺 諸氏系譜一」として刊行するものである。
- 一 「新編島津氏世録支流系図」は、全九〇冊のうち、「伊集院氏」・「新納氏」・「樺山氏」の計二十一冊を、「諸郷地頭系図」は、欠落部分を補充して掲載した。なお、東京大学史料編纂所では、「薩摩藩諸郷地頭記」と改められている。
- 一 文書・記録・記事はすべて、底本の順序に従って掲載し、文書には通し番号を文首に付した。但し、内容が数種にわたる場合には枝番号を付した。
- 一 本文の後に文書目録を掲げた。
- 一 収載された文書を、原文書や影写本等によって修正または補充する場合は次のようにした。
 - ア 修正される箇所は「 \square 」で囲み、その右側に修正字句を記した。
 - イ 補充部分は ∇ で示し、挿入には \triangleleft の記号を使用した。
 - ウ 修正や補充に使用した典拠史料の略記号は別記凡例に示した。
- 一 刊行にあたって文書の体裁を、おおよそ次のように統一した。
 - ア 文書の所在などを示す原注は一字下げて首部におき、この原注や文書中の異筆・補筆は、原則として「 \square

(墨書)、『』(朱書)で囲んだ。尚、煩瑣にわたるものは、これを省略した。

イ 合点は、頭または右肩に「　」(墨)、「　」(朱)で示した。

ウ 文書の年月日・差出書・宛所の位置などは、底本の体裁にあわせてある程度の統一をした。

エ 書状の封じ目は、底本にあわせて「　」・「　」・「　」を併用した。

オ 文書・記録・記事には、適宜に読点「、」および並列点「・」を付した。

一 原文の磨滅虫損は、字数を推して□又は□を以て示し、墨抹等により解読困難な字は■又は■を以て示した。

一 見せ消は、その文字の左側に「と」および並列点「・」を付した。

一 頭注や行間の書きこみは、底本の体裁にあわせたが、頭注の長い場合はその位置を示し、関連箇所文末にまとめた。

一 編者の付した注は、原注と区別するために()で囲んだ。

一 原文中の返り点や送り仮名などは原則として省略し、仮名文字に付されていた底本の原注は、一部を残して省略した。

一 欠字・平出・台頭などは、原則として底本の体裁に従った。

一 変体仮名は、現行の平仮名に改めたが江、茂、者、与など一部はそのまま用いた。

一 漢字は原則として底本の用字に従ったが、異・略・俗体文字のうち、次のようなものはそのまま用いた。

井(菩薩) 刁(寅) 斡(料) 卩(部)

一 当時一般に使用された用字のうち、次のようなものはそのまま用いた。

陳(陣) 諏方(訪) 覺(鹿兒) 太輔(大) 玄番(蕃) 覺語(悟) 案堵(安) 由断(油) 倭哥
(和歌)

一 「新編島津氏世録支流系図」「諸郷地頭系図」についての特筆すべき事項については、別に凡例を設けた。

旧記雜錄拾遺諸氏系譜一 目次

解題	一
例言	一一
目次	一五
新編島津氏世録支流系図	
凡例	
新編島津氏世録支流系図	伊集院氏一〇九
伊集院氏一流第一	一
伊集院氏一流第二	三〇
伊集院氏一流第三	八〇
伊集院氏一流第四	一一二
伊集院氏一流第五	一七三
伊集院氏一流第六	二二一
伊集院氏一流第七	二五九
伊集院氏一流第八	三〇五

伊集院氏一流第九	三四〇
新編島津氏世録支流系図 新納氏一〇七	
新納氏一流第一	三八五
新納氏一流第二	三九八
新納氏一流第三	四三三
新納氏一流第四	四七四
新納氏一流第五	五〇五
新納氏一流第六	五一七
新納氏一流第七	五二六
新編島津氏世録支流系図 樺山氏一〇五	
樺山氏一流第一	五五一
樺山氏一流第二	五七〇
樺山氏一流第三	五九一
樺山氏一流第四	六三〇
樺山氏一流第五	六六一
文書目録	七〇七

諸郷地頭系図

凡例

諸鄉地頭系図……………七一九

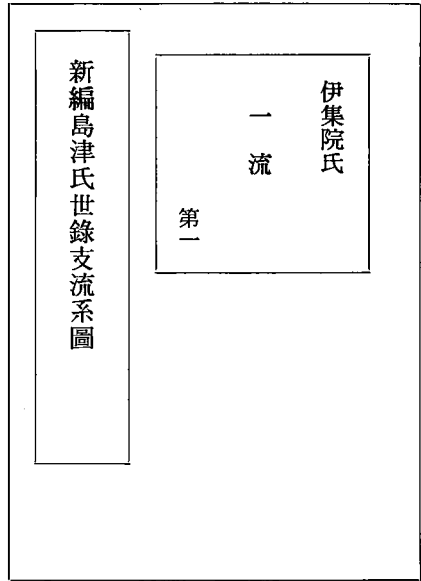
目録……………八二一

〔新編島津氏世録支流系図〕

凡 例

- 一 修正や補充にあたっての典拠史料は次の略記号で示した。
 - 旧記雑録同一文書 ㊦
 - 伊集院家文書（鹿児島県立図書館所蔵本） ㊧
 - 伝家亀鏡 ㊨
 - 新納文書 ㊩
- 一 文書・記事の冒頭部にある「○」印は、底本の体裁に従った。
- 一 系図の罫線は、原本では朱書である。

(表紙)



伊集院氏系圖第一

忠經

五郎 常陸守

○二代太守大隅守忠時七男也、

宗長

號給黎、彦三郎 左京進

忠繼

三郎兵衛尉

忠光

號町田、五郎太郎

△俊忠

侍從房

雖爲聖家、天性其心猛豪、而欲冒伊集院號以還俗、然而不遂其志而卒、年四十二、

△久兼

彌五郎 圖書助 初號伊集院、法名道貫、

1 『正文在伊集院廣濟寺』

○伊集院寺脇内圓福寺阿弥陀堂免蘭壹所并小山下田
三反事、件蘭芋桑代地利物、爲檢斷加徵米等、阿
弥陀堂仁所奉免除也但於大犯者、仍狀如件、

正和三年三月十五日

沙弥

(本文書ハ「旧記雜録前編」一一七三号文書ト同文ナリ)



『正文在高岡衆指宿左近兵衛忠真』

○薩摩國指宿郡司彦次郎入〔道成〕榮申、山口三郎入道

了一跡〔兼同カ〕國指宿郡秋富各内中河并获〔欠〕事以下

抑留事、御牒案〔御教カ〕并〔欠〕書如此、早任被仰下候旨、

急速可參洛之旨、矢上左衛門五郎相其相觸了一跡

輩、可被執進請文、若不叙用者、載起請之詞、可

被注進由、仍執達如件、

建武二年五月廿五日

〔貞久〕沙弥〔花押〕

伊集院弥五郎入道殿

〔本文書ハ、旧記雜錄前編一〕一七三五号文書ト同文ナリ

○追亡父之志當代冒伊集院號者也、町田者雖爲亡父

之兄可爲庶子、其故伊集院忽名、而町田其内一村

之名也、給黎不準町田隔別之儀也、太守貞久公

觀應元年三月廿一日賜自筆證書云云、尊氏將軍

家判形亦有之、

△久親

五郎太郎 法名道智、

△忠親

助三郎 法名道助、

蒙古催艤艦寄筑前州來、日域諸將群聚當州防禦之際、以大十文字太刀、斬獲蒙古、施譽名於天下者也、

助久

左兵衛尉

『正文在廣濟寺』

○伊集院寺脇内圓福寺阿弥陀堂免榦平藺壹所并小山

下田三段事、件藺芋桑代地利物公事檢斷加徵米等、

阿弥陀堂仁所奉免除也、但於大犯者除之、仍狀如

件、

建武貳年十一月廿七日

〔伊集院〕助久〔花押〕

(本文書ハ「旧記雜録前編一」一七五二号文書ト同文ナリ)

女子

山田式部孫五郎初室、

『△』忠國

圖書助 長門守 法名道忍、號無等、

『正文在伊集院廣濟寺』

○奉寄進

薩摩國滿家院小山田・中俣内水田伍町并園九箇所
野島 加之限永代於圓勝寺所奉寄進也、仍狀如件、

貞治貳年五月六日

〔伊集院〕 久 (花押)

〔伊集院類久〕 沙弥道應 (花押)

〔伊集院久氏〕 沙弥觀了 (花押)

〔伊集院忠國〕 沙弥道忍 (花押)

圓勝寺都寺御寮

(本文書ハ「旧記雜録前編二」一三八号文書ト同文ナリ)

『正文在清水衆野田主馬』

○嶋津長門入道々忍雖令合躰、彼道忍依屬凶徒、被

馳參御方之條、尤以神妙、殊可有忠賞、弥可被抽

貞節之狀、如件、

(三条泰季)

正平四年九月廿日

野田左衛門次郎殿

『上包』

野田左衛門次郎殿

左『欠』將

(本文書ハ「旧記雜録前編一」二二九九号文書ト同文ナリ)

石原

久實

門貫



『案文在山田七郎右衛門久通』

○讓渡

薩摩國伊集院内門貫村田畠山野等事、四至本證
文分明也、

右、件田畠山野等者、道助相傳知行無相違、而子
息兵衛三郎仁、限永代所讓渡也、随相副鎮西御下
知以下本證文等早、於關東御公事等者、任先例、
可令勤仕之、如此面々讓置之處、若自何子共中も
致違乱者、不可有子孫之儀、仍爲後代之讓狀如
件、

嘉曆四年卯月十三日

沙弥道助

嫡子忠國

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一五二一号文書ト同文ナリ)

道珍

今村

女子

忠貞

又太郎 號伊鹿倉、他腹、子孫記別紙、

△久氏

大隅守 法名觀了、號大道、

○寄田園於圓通庵、其書記左、

『正文在伊集院圓通庵』

(滿家院中俣)

○ミつへのるんなかのまた名内のすいてんしもしん

かい七反并ゆの木のまろ三反、以上壹丁内、ほり

のうちその一所、御ちきやうあるへきよし申さる

へく候、あなかしく、

『正平十五』

二月十一日

(伊集院)
道忍(花押)

大隅守殿

『上書ニ有之』

中俣圓通庵ニ自無等讓狀

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二六九号文書ト同文ナリ)

相良氏領肥後州・八代・葦北・球麻、誇武威以與伊東氏合心共謀、而逼日州已入真幸・北郷・野野三谷於手裡、圍樺山氏・北郷氏之在都城、太守氏久公欲渠等之救窮困、應安六年癸丑正月、率軍衆先陣末吉所運籌策也、澁谷右馬助者兼日堅壻之約、由是遣价使達久氏曰、吾亦屬于國中一揆、將赴庄內攻都城者有近日、所冀發向以前欲遂一會面云云、久氏報曰、我之太守氏久、在夫境手于戈、無晝無夜勞軍務矣、如予之曹亦帶兵器率騎步、欲往其地太守之增軍勢、於一面佳會者、必向戰場互可以實見首云云、使者反命、則右馬助謂、返答旨趣所以深羞也、三月一日進蓑原、兵刃既接終日挑戰之際、右馬助遂戰死、如嚮之所言、果而實見於澁谷之首、右馬助者、守一言捨一命備首於實見、久氏者、其壻既雖戰死、令女子薙髮禪衣、而爲圓通庵住持、右馬助之吊後世頓證菩提、不怠晝夜讀經、哀哉、

8

『正文在伊集院廣濟寺』

○竜泉庵之知行分田畠山野、開山懷聞和尚廣濟寺方丈景周藏主被讓与申候上者、重代御知行不可有子細候、仍爲後日之狀如件、

應安六年八月十七日

(伊集院久氏)

沙弥觀了(花押)

(伊集院類久)
沙弥道應(花押)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」二五六号文書ト同文ナリ)

9

『正文在伊集院圓通庵』

○ゆつりたてまつる

さつまの國ミつゑのゐんのうち、かまか原村事のうちさん、かの所におひてハ、くわんれうちきやうたりといへとも、その心さしあるによつて、犬太郎母ニこのあひたゆつりたてまつるところなり、他のさまたけなく知行あるへく候、たゞし一期の後ハ、犬太郎丸かはからひたるへく候、よて爲後日ゆつり狀くたんのことし、

おうあん七ねんきのへ十一月廿二日

(伊集院久氏)
沙弥觀了(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二二七二号文書ト同文ナリ)

○鎮西探題今川伊豫入道有所界之狀曰、

○當參尤神妙、弥可被致忠節之狀如件、

應安八年三月廿七日

(今川了俊)
沙弥(花押)

嶋津大隅守殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二二八八号文書ト同文ナリ)

『寫在藤野久右衛門久昉』

氏久心替以後、可致忠節之由、被捧請文候、仍所
差遣今川兵部大輔也、屬彼手可被抽戰功狀如件、

永和二年五月廿五日

沙弥
御判

伊集院大隅入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二二九九号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○讓与

南郷之内こくれうの門水田一町三段の内あまミタニ
反加定、

并居屋敷園一所之事

右、件の田園等之事、觀了重代相傳の所領たる

間、心さしをもつて『欠』

一期の程、たの

さまたけなくちきやうあるへく候、いさゝかかの

在所ニおいて、いらんわつらひを事すへからす候、

仍爲後日狀如件、

應永二年六月十八日

(伊集院久氏)
沙弥觀了(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二五四六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○ゆつりたてまつる

(南郷)

なんかうのうちほうくわうその一所の事、くわん

れうゑいたいさうてんのしよりやうなり、しかれ

ハ心さしあるによて『此間字不見』 なかくさうて

んの地として知行あるへく候、仍爲後日ゆつり狀
如件、

應永二年十一月廿日
きのとの
あのとし (伊集院久氏 沙弥觀了) (花押)

『上書ニ有之』
ほうくわうそのきしんしやう

(本文書ハ「旧記雜録前編二」五五三号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○奉寄進

南郷内田園等事、水田坪付在所と井園五ヶ所号
名、一所はね田園、一所田中園、一所たゝら口、
一所ほうくわう園、一所原園、

右、件所領者、觀了爲重代相傳所領之間、奉寄進
圓通軒早、限永代可有知行候、於于子と孫と不可
有他妨候、仍爲後日狀如件、

應永二丙五年十一月二日
(伊集院久氏 觀了) (花押)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」五九三号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○奉寄進

南郷内中園門付水田九反廿部并中園一ヶ所・小
畠一所事、

右、件所領者、觀了爲重代相傳所領之間、奉寄進
圓通軒早、限永代可有知行候、於于子と孫と可有
他妨候、仍爲後日狀如件、

應永二年十一月二日
(伊集院久氏 觀了) (花押)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」五九四号文書ト同文ナリ)

— 久影

號日置、美作守 子孫記別紙、

— 義久

號麥生田、兵庫助 子孫記別紙、

— 忠秀

號大重、彌三郎

○於加治木土器園遂戰死矣、子孫記別紙、

俊久

號黑葛原、初依鎮 伊豫守 子孫記別紙、

南仲和尙

伊集院廣濟寺開山、

忠治

信濃守

久俊

長門守 法名賀山、子孫記別紙、

今給黎之祖、謂之於伊集院給黎也、

『正文在廣濟寺』

○奉記進(マ)

薩摩國給黎院下長吉之内鈴源兵衛公新か塩屋、早任先

例、可有御知行候、

仍記進狀如件、(マ)

永享六年九月廿日 沙弥天用(花押)

伊集院光濟寺(マ)

『上書』

嶋津長門守殿(久俊)

御件判

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六二号文書ト同文ナリ)

女子

太守氏久公藤中、法名敬外大姉、

久春

號東、筑前守

眞梁

石屋大和尙 福昌寺開山、

○貞和元年乙酉七月十七日誕生、

○延文五年庚子薙髮、十六歲、

○應永元年甲戌 太守元久公于時三建立於福昌禪寺、

而爲石屋於開山于時年、五十也

應永三十年癸卯五月十一日、於丹波永澤寺遷化、

年七十九、

忠治

號吉俊、備前守 他腹、

三阿

他腹、

久光

號土橋、大和守 他腹、子孫記別紙、

久義

號飛松、相模守 法名道禮、他腹、子孫記別紙、

爲吉

號四本、他腹、

久教

初忠照 讚岐守 他腹、子孫記別紙、

女子

○結婚于澁谷右馬助、雖然未行嫁之際、應安六年三月、屬國中之一揆、於庄內養原右馬助遂戰死、由

17

是剃髮禪衣、而爲圓通庵住持、弔右馬助之後世者

也、

景助

次郎三郎 他腹、

景久

早世、

△賴久

藏人頭 彈正少弼

○太守氏久公之爲婿、娶少女於愚室也、

○ 契約

右、意趣者、雖爲天下轉變、於私御大事之時者、

身之大綱存、相互見繼被見繼可申候、此条爲申

候者、

日本國大小神祇、殊八幡大菩薩 諏訪上下大明神

御討お可罷蒙候、

應永六年十二月卅日

【本文書ハ「旧記雜錄前編」二六三九号文書ト同文ナリ】

彈正少弼伊集院賴久（花押）

【正文在伊集院圓通庵】

奉寄進

薩摩國伊集院内飯田村椀木壹町・樋脇腰イ五段小・河田五一字不見并二菌壹所奉寄進圓通庵ニ處也者、無他妨

任先例、永代可有御知行候、若違亂煩輩賴久不可有子孫之儀、仍寄進狀如件、

應永七年八月十八日 伊集院賴久（花押）

【上書】

圓通庵寄進狀飯田二町

【本文書ハ「旧記雜錄前編」二六六一号文書ト同文ナリ】

【正文在廣濟寺】

○薩摩國伊集院内柿本門五段・同岩屋谷五段事、

右、彼所領者、任道忍之讓、依有志、崇悟書記仁

【本文書ハ「旧記雜錄前編」二六九六号文書ト同文ナリ】

應永九年十二月廿七日 伊集院賴久（花押）

【正文在伊集院廣濟寺】

○薩摩國伊集院廣濟寺御領事、

西山參町并古城山野在之、無等寄進、高別府貳町山野在之、月庭寄進、

滿家滿家貳町小山田、無等寄進、中俣貳町、無等寄進、

下土橋四段、無等寄進、寺前田八段、大道寄進、

大窪鎮守田九段賴久寄進、松脇五段、久勝寄進、

麥生田所々在之、有久寄進、寺脇貳町南仲自領、

彼田菌等雖爲無等・大道寄進、狀爲後日賴久加判了、於于寺領致違亂輩者、賴久不可有子孫之儀候、仍後證寄進狀如件、

應永十一年甲申八月廿二日 伊集院賴久（花押）

廣濟寺 照久初名爲久（花押）

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」七三〇号文書ト同文ナリ〕

○太守陸奥守元久公、屢有參洛之命、由是應永十四年丁亥、使賴久先 太守上洛以爲宅地經營之計策、且有命曰、宜憑赤松殿經營焉、故上京師、則達太守旨趣於赤松殿、于時赤松殿先携賴久於營中、令得拜謁 將軍家矣、其後選人之勝其任者、令之成華第創造之功也、此外忠功之至、誰敢爲寡乎哉、

『正文在廣濟寺』

○奉寄進

薩摩國伊集院持丸名内邊牟木門水田一町八段十并郡新開一町四段事

右、彼田地者賴久雖爲本領、依有志廣濟寺仁奉寄進之處也、但滿家院所と御寺領歸付之時者、此在所無等塔頭延慶庵仁可寄進申候、若又於此所領違

亂煩申者候者、賴久不可爲子孫候、仍寄進之狀如件、

應永十五年四月十三日 賴久(花押)

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」七七二号文書ト同文ナリ〕

『正文在岸浦清右衛門兼政』

○日向國柏原之内伊作方知行分七町坪付有別紙爲新所宛行者也、任先例、可有知行狀如件、

應永十九年十一月十五日 (伊集院賴久) 道應(花押)

岸浦殿

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」八八九号文書ト同文ナリ〕

『正文在廣濟寺』

○奉寄進

薩摩國伊集院直木内坂上門水田六段并蘭三ヶ所事

右、彼田地者道應雖爲 本領、依有志、崇悟西堂

仁限永代奉讓之處也、若於此所領違亂煩申者候
者、道應不可爲子孫候、仍爲後日讓狀如件、

應永廿五年十二月十三日 道應(花押)

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二九七五号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院廣濟寺』

○奉寄進

薩摩國日置新御領内仁賀田三段・同箇一ヶ所事

右、彼所領者、自道忍靈樹庵崇利比丘尼雖讓得、

重依有志、崇悟西堂仁奉寄進候處也、彼比丘尼一

期之後、爲寺領可有御知行候、若於此所領違亂煩

申者候者、道應不可爲子孫候、仍爲後日寄進候狀

如件、

應永廿五年十二月十三日 道應(頼久)
(花押)

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二九七六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○奉寄進

薩摩國滿家院郡山名之内常葉門付水田一町一反・

蘭山野用作分ミそゝい五反・河山三反・迫田三

反、都合二町二反事

右、件の所領者道應爲重代相傳所領間、限永代奉

寄進圓通庵處也、然者無他妨、任先例、可有知行

候、於此所成違亂輩者、道應不可有子孫之儀候、

仍爲後證寄進狀如件、

應永廿七年二月三日 道應(頼久)
(花押)

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二九八九号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○たまりの箇一所・馬場箇一所、合三ヶ所事

右、件の田箇等者、道應重代相傳之爲所領間、限

永代奉寄進圓通庵處也、然者無他妨、任先例、可

有知行候、於此所成違亂輩者、道應不可有子孫之

儀候、仍爲後日寄進狀如件、

應永廿七年二月三日
(伊集院頼久)
道應 (花押)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」九九〇号文書ト同文ナリ)

『正文在藤野休右衛門久防』

○三ヶ國人と多分於御方御志候之由、度々依被承候、罷下可申談之由被仰候『欠』、今日二日、球广郡人吉ニ下着候了、就其一向憑存候、一途急速御張行候者可目出候、依御返事合戰之次第、重可申談候、兼又面々御中被進候狀案文進候、隨御左右正文をハ可進候、委細承候者頼存候、恐々謹言、

六月二日

(貼紙)
「一色右馬頭カ」
満範

伊集院殿
(久氏)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」三四二号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院廣濟寺』

○奉寄進

薩广國滿家院内寂照庵之遺路田島等之事

右、依有志、廣濟寺之長老崇悟西堂ニゆつりあたへ申候、但長老と申談、子細ありて、了圓都寺之寮之しゆり新として、限永代寄進申候也、此在所において、一言之いらんわつらいお申候するものは、道應か子孫たるへからす候、仍爲後日如件、

應永廿九年八月十八日
(伊集院頼久)
道應 (花押)

(本文書ハ「旧記雜録前編二」一〇二号文書ト同文ナリ)

○法名道應、號大用、

久勝

號大田、伊豫守

『正文在廣濟寺』

○奉寄進田島之事

薩摩國伊集院大田名内松脇伍段并進月庵跡之齒一ヶ所者、右、彼在所者、爲養父母了念禪門・眞光

禪尼之追膳、限永代奉寄進廣濟禪寺、因賴久加判之上者、所可停止萬雜公事也、特於久勝子と孫と不可致違亂、仍寄進狀如件、
廣濟寺衣鉢侍者禪師

應永三年丙子十二月廿六日

藤原久勝 (花押)
「加判」
藤原賴久 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」五七六号文書ト同文ナリ)

「久イ」
忠氏

號南郷、遠江守 子孫記別紙、

忠兼

號松下、治部左衛門尉 大隅守 法名了永、

○子孫記別紙、

女子

正語上座

「德イ」
孝久

助三郎 他腹、丸田之元祖也、子孫記別紙、

女子

太守久豐公後之簾中也、此女子產男子、稱出羽

守有久、大島之元祖也、

「△」熙久

初爲久 大隅守

30

『正文在廣濟寺』

○薩州伊集院寺脇名内圓福寺開山息山和尙讓与、先師南仲以爲師資之相續、因之先孝無等(忠國)以自筆證文、相加田島等讓于南仲、々々任彼狀讓於某崇悟、是專先考之遺愛、而先師之相紹也、依有志不殘寺領一ヶ処所讓小師聖春、凡寺院之繁興者、能紹法運禪道爲最、而不論土地之多少、仍就室設禪床、以坐爲勤寺曰、伴道余本意也、始先考重開山道行起圓福、臥開創圓勝一基、後(改)圓勝作廣濟、々々

以故息山爲開山初祖矣、開山忌四月十一日、南仲十二月十九日、無等十月十日、月庭正月八日、每月以四ヶ日齊次諷誦、大悲呪一返不可怠者也、一爲聖春後詔者、不擇自他之門派、爲寺家以修理造營可爲任人、而法眷中談合可定、不可以私好爲本、思之思之、

正長二年己酉八月二十二日 住定山桃隱(花押)

(伊集院) 熙久(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一〇九三号文書ト同文ナリ)

『正文在田代縫殿清長』

○大隅國串良院之内、上条十町并岩弘十八町、爲祈所宛行處也、然者早任先例、領知不可有相違狀如件、

永享五年卯月廿九日

(伊集院) 爲久(花押)

田代彦太郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一三七号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○薩摩國伊集院石谷之内、たかひ一町二反并屋敷一所、限永代奉寄進圓通庵候處也、早任先例、可有知行之狀如件、

永享六年卯月十六日 (伊集院) 熙久(花押)

圓通庵寄進狀

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一四七号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院廣濟寺』

○薩國折原名内、今寺并林園山内辻各々堂地・同草水等田畠并山野之事、坪付在別紙、彼三ヶ寺者、有屋田有久、廣濟寺仁寄進たりとゆへとも、子息清久退出候上者爲缺所候間、あらためて歸付申候処也、於爲久子と孫といらんわつらいなく可有御知行候、仍爲後證狀如件、

永亨六年六月廿六日 (享) 爲久 (花押)
廣濟寺衆鉢侍者禪師

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六〇号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○薩广國日置之靈德寺者、奉願興仙之建立也、最初南仲和尚を開山祖と定処、尔來廣濟寺之末寺たる事百余年、雖然、寛忠自興仙 四代退出候上者、爲缺処候間、重任先例、桃隱西堂讓与申候也、於熙久子と孫と無相違可有勤行候、於寺家檢斷再雜務等之事免除申候処也、仍寄進狀如件、

(伊集院) 熙久 (花押)

永亨六年甲寅十月五日 (享)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六三号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○圓福寺寺領田島等之事、任無等并(忠國)道應寄進狀、重(頼久)

寄進申處也、於于熙久子と孫と無相違可有御知行候、仍後證一筆如件、

永亨六年丁卯十月廿九日

(伊集院) 熙久 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六四号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院圓通庵』

○又右道道應寄進在所共、熙久爲重代相傳所領候之間、愚判お相副奉寄進處也、於此在所違亂候する仁ハ、熙久不可爲子孫候、仍無相違可有知行狀如件、

永亨六年十二月十五日 (伊集院) 熙久 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六六号文書ト同文ナリ)
伊城山 圓通庵 寄進狀

『正文在廣濟寺』

○當寺山林之松杉剪伐、堅禁制之狀如件、

永享十一年二月初五日

(伊集院) 照久 (花押)

廣濟寺侍衣禪師

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一二三二号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○一日、妙圓寺御使節御出、御意趣の通其時こそ承分て候へ、根元山王・諏訪の寄進と存候て、とかく申候つる御物語ニこそ、委細存知仕て候へ、いそぎ御知行可目出候、満家へもやかて此謂可申遣候事候、恐く謹言、

(伊集院) 照久 (花押)

小春五日
廣濟寺
新府之御方へ

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一二九三号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○東堂之御一期の後ハ、順職之ことくに寺家向之

事、可申談候、其の間ハ、如何にも御堪忍可目出候、心事以面拜可令申候、恐惶謹言、

極月廿九日

(伊集院) 照久 (花押)

廣濟寺へ

まいる

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一二九五号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○圓福寺住持職之事申定上者、田島山林等不違一所可有知行者也、聊不可有他妨、特於彼在所成違亂煩之輩、不可爲照久之子孫也、仍爲後證之狀如件、

嘉吉元年辛酉十二月十三日

(伊集院) 大隅守照久 (花押)

廣濟寺住持眞超長老

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一二七六号文書ト同文ナリ)

『正文在廣濟寺』

○廣濟寺諸末寺諸塔頭之事、延慶寺・寶壽寺・靈徳寺・龍泉庵・如く院・聚星軒・無量壽院・收得軒彼諸末寺諸塔頭之事者、自開山南仲和尚・中興桃隱和尚以來爲廣濟寺之末寺上者、自今以後末寺而可爲本寺之御計、去年以老者共堅雖申定、爲後證重調此狀收寺家、若此外雖有文書、不可用兎角之儀、殊於彼諸在所成違亂煩背此證狀之旨輩、不可爲熙久子孫之狀如件、

嘉吉三年八月廿八日

(伊集院)
熙久(花押)

眞超長老

(本文書へ、「旧記雜錄前編」二二一九号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院廣濟寺』

○熊令啓候、就其者圓福寺の事、於度く承候之間、凡可任御意由申候、雖然以面御物語如申候、忠書(起)起・春籠主此兩人ニ被仰付候する事者、不可然候(感)よし申候き、於于今も其分候、只夫より御覺悟こ

そ可目出存候へ、猶く忠書(起)起へ被仰付候へは、春籠主之恨もあるへく候之間、如此候、令啓候、外見あるましく候、恐く謹言、

九月廿七日

(伊集院)
熙久(花押)

侍者之御中

廣濟寺へ

まいる

(本文書へ、「旧記雜錄前編」二二九四号文書ト同文ナリ)

『正文在申木野頂峯院』

○敬白 冠嶽權現

奉寄進

薩摩國伊集院大田之内一町、次栗毛馬一牽、

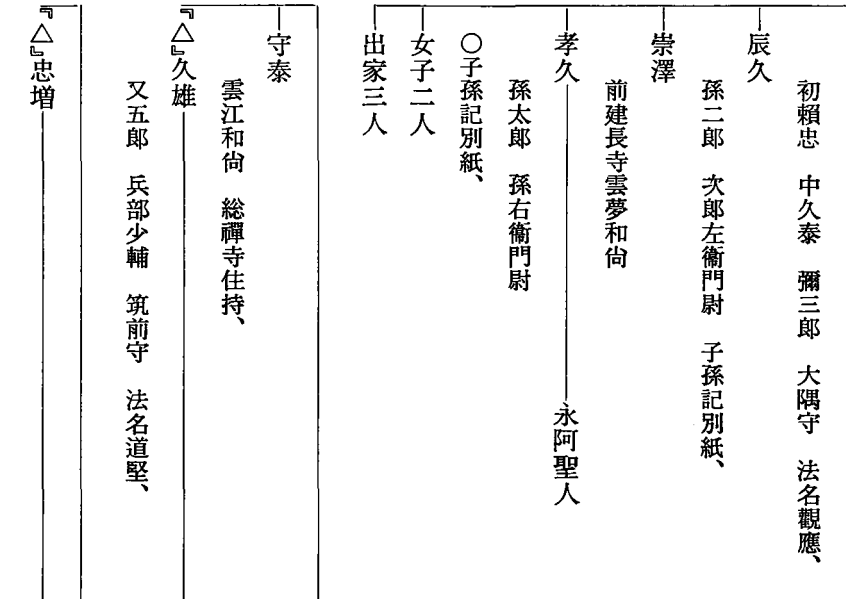
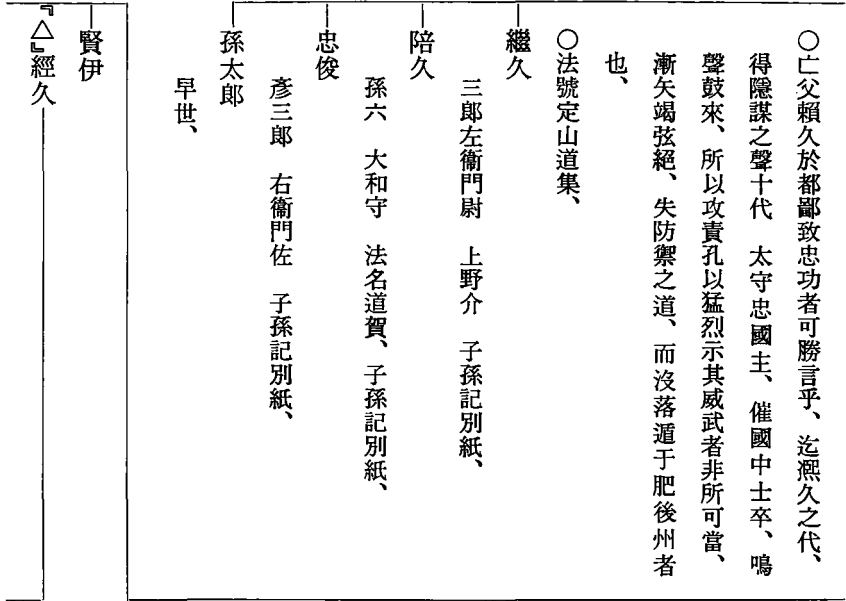
奉寄所也、

右、意趣者、敢悉退治爲本覆立願如件、

長祿三年八月六日

伊集院熙久(花押)

(本文書へ、「旧記雜錄前編」二一三七八号文書ト同文ナリ)



兵部少輔 法名道珎、

△忠能

兵部少輔 筑前守 法名道圓、

△久族

初久洪 源助 源左衛門尉 遠江守

○寬永五年戊辰、筑前守忠能、禪家督及系圖於久族、所以爲後嗣也、實伊集院肥前守久信入道元巢長子也、

○久族無實子之可繼家統、故請

太守之連子以爲繼子、丁此之時、太守使大老當家家督及以 太守連子、爲繼子之事於告伊集院門族中、在其證書記左、

以上

○一書申入候、仍伊集院御名字家督事、松千世殿御

定之様子、御名字中へ可申渡之由 御意候間、如其申觸候、各目出度存候由被申上候条、致披露候、貴老被成其意得、各へ被仰談尤候、恐々謹言、

三月三日

喜入攝津守
忠政(花押)
下野守
久元(花押)

伊集院遠江守殿

(久族)
參御宿所

(本文書へ、旧記雜錄後編五二二九〇号文書ト同文ナリ)

○寬永十年癸酉十月十五日死飯野、享年七十、法号久翁全昌庵主、

久近

治部少輔

○雖爲忠能實子、已禪家督於久族、故爲弟者也、

久賀

彌左衛門尉 谷山之土也、

○子孫記別紙、

△松千代丸

○養子實 太守中納言家久公之九男也、以寬永二年乙丑六月十三日生、母牧源兵衛胤親女家久公之妾也、
 ○松千代丸相續於當家有年于茲矣、依 公命去當家而為鎌田出雲守政統之養嗣、

△久朝

初久立 龜千代丸 源助 十右衛門

○寬永四年丁卯十二月十八日誕生於櫻島、母同松千代丸、

○久朝者 太守家久公十二男也、兄松千代丸姑雖相續當家、繇 公命遂辭去、為鎌田政統之養子、於是久朝奉 公命為後嗣連續家統、

○久朝被補五番組・六番組之與頭、其年月不詳、
 ○正保四年十一月三日、 太守光久公於武州王子村張行犬追物而被奉備

大樹家光卿之 台覽時、 光久賜駿馬一疋於久朝、

列射手而射犬二疋、此日賜饗應於射手之輩、同月

十六日 光久登 營奉 台命、使射手輩於御白書

院奉拜謁 台顔、既而久朝拜領時服六襲、二月二

日 光久率射手者而上便殿奉拜謁 儲君時、久朝

御小袖三領頂戴、射手輩賜暇雖歸國、久朝隨 貴

命直奉仕、翌年七月下旬還覺府、

○慶安元年九月、 太守光久公於 城下張行御代始

之犬追物、此時久朝列射手、

○承應二年癸巳孟秋、琉球國王慶使國頭王子奉賀

將軍宣下時、久朝警衛王子到于江府、王子抵奉拜

謁

將軍家、久朝亦拜 台顔、頂戴時服、已而詣日光山

東照宮拜禮事了、則奉 公命以王子還覺府、

○同三年九月

台頭後光明院崩御、久朝奉吊使命、同年十一月到洛泉

涌寺及 禁裏 近衛家其外務畢、達吊使之赴於板

倉重知、既而還國、

○寬文六年被補小林地頭職、

○同年間任御誥役・横目頭等、

○轉補山田州・阿多・帖佐・申良・指宿・顯娃・財

部等之地頭職、其年月日不詳焉、

○元祿十七年即寶永元年甲申二月十五日卒、享年七十八、

法號壽峰院無參玄量大禪定門、

久弘

龜壽丸 源助 刑部

○正保四年丁亥七月朔日誕生、母顯娃主膳久國女、

○明曆三年正月十五日、太守光久公手自加首服於

龜壽丸、號源助久弘、伊勢貞昭役理髮、獻品拜賜

禮儀如家格、

○寬文十年十一月三日、覺府稻荷大明神之祭祀、久

弘奉命爲流鏑馬射手且勤馬長、

○延寶三年四月、光久公爲述職赴江府、久弘爲番

頭先 公發覺府、五月六日到江都、

○同年十一月二十一日、綱貴公著御覺城、弟阿多

義堯奉禮使命到大坂之時罹病不能赴江都、故久弘

爲義堯之代勤禮使時改名於刑部、同十二月二十五

日奉拜 台頭、同月二十九日應 召登 城、頂戴

時服四領、翌年從 高駕還覺府、

○同八年十二月十四日、爲

台德院殿五十年忌回 御吊使、同九年正月三日到

江都、同二十五日詣增上寺奉獻御香奠、而奉拜

靈牌、三月十六日歸覺島、

○元祿元年十二月二十五日、奉父久朝隱居久弘宜家

督之 命、因翌年正月十五日獻太刀一腰・三種二

荷奉謝賜家督之辱、

○自先祖代就家、每歲正月三日於對面所獻御太刀、

頂戴 御盃、

○元祿二年二月朔日、被補財部地頭職、

○同年間任五番組・六番組之番頭・與頭等、

○同十年丁丑五月五日卒、享年五十一、瑞雲院心安
自徵大居士、

久照

初忠清 又義堯 松助 源十郎 十左衛門

新八 越中 遠江

○慶安二年己丑五月八日誕生、母同前、

○明曆三年正月十五日、兄與久弘、同日 太守光

久公忝御手自加首服於松助、號源十郎忠清、新

納久詮爲理髮、獻品拜賜同久弘例、

○寬文五年奉 公命、忠清爲阿多伴助忠朝之後

嗣、而嫁養祖父內膳忠榮之末女、相續彼家、而

號十左衛門義堯、

○同年義堯被補三番組之與頭・番頭、時賜薩州吉

田之地頭職、其月日不詳、

○同九年己酉三月二十二日、 太守公發覺府令赴

江都、義堯勤番頭從 高駕、翌年六月十一日又

扈從歸覺島、

○延寶三年十一月二十一日、 綱貴公著御覺城、

義堯奉禮使命到大坂之時、罹病不能赴江都而歸

本邦、繇是兄久弘時在江府奉命爲義堯之代務禮使、

○義堯暫雖相續阿多家後改號 畠山有故延寶五年辭去彼

家復本家、爲久弘弟別樹家、

○貞享二年二月二十七日、島津久竹以五代友喜、

久照奉可司薩・隅・日三州之田地之奉命、忝賜

新恩之地三百斛、

○同年十月朔日、奉 命久照巡見薩・隅・日之外城、

○同年十月十五日、被補指宿地頭職、因茲翌三年

正月十五日獻太刀馬代而奉謝之、

○同四年六月十四日、久照依願免許田地地方之御

役、

○同五年十一月十二日、久照補 光久御隱居方之

御詰役、是肝屬久兼以桂忠休・黑葛原忠道傳

公命、

○光久公製作一房之藤之丸紋所、以賜久照、

○元祿元年十二月二十九日、御用番島津久輝以高橋種周・新納久盛傳 公命、時兩氏書 貴命之赴以告久照曰、所奉願年頭太刀久照如一世踵川上久重後可獻之、至子孫者可爲打込云、

○同二年十月朔日、光久公賜名於遠江、同二日獻太刀一腰・青銅百匹奉謝之、

○御家老島津忠守者爲 御下屋敷方之總轄時、奉公命赴江府、因種子島久時奉 公命、以平山忠知傳 貴命於久照曰、忠守族中代之可司細大、久照謹領諾之、

○光久公・延久公御筆之掛物其外恩賞數品、

○元祿七年十一月二十九日、光久公逝去時、於玉龍山福昌寺行御葬禮、此時久照窺命切髮、供奉 御葬場、

○光久公御逝去之後久照奉訴免御役時、公命曰、相當 光久公三回忌之間許御役云云、於是元祿九年執行御法會之後、久照上言曰、何有蒙命令、

須是務、雖然病未快之間、今暫願許之、則來丑年中被許之置、寅年至 太守公歸國之節可被命久照之勤懋事、其中專可療久照之疾病之 高命、種子島久時以伊地知重知堅傳之、雖然久照不幸而同十一年六月十五日遂卒、享年五十、法號虛白院殿不遷元常大居士、葬興國寺、

女子

喜入又兵衛久亮妻、

女子

阿久里 用之助久富妻、

○久照以阿久里爲養女、實久照之兄伊集院刑部久弘之第二女也、

久富

初兼治 後久寬 又久可 郷左衛門 用之助

織部

○延寶三年乙卯三月二十五日誕生、母島津筑前久

賴女、

- 貞享二年乙丑二月朔日、太守光久公御手自加首服於鄉左衛門、號用之助兼治、佐多豐前久達役理髮、既而獻品拜賜如實父久兼家之嘉例、
- 久照無實子、故元祿五年十二月四日奉 公命兼治爲久照之養子相續當家、號久寬、實肝屬主殿久兼之二男、
- 先是久照養兄久弘之女爲子、故以久寬爲智養子、
- 元祿六年十月九日久寬爲久照之智養子、於是獻御太刀・馬代二種一荷而奉謝之、
- 同十二年三月二十八日、種子島久時奉 公命、以大野久明傳云、久寬宜相續繼目、因同四月四日獻進家例、以奉謝之、
- 同年三月晦日久寬被補五番組之番頭、喜入久亮以大野久明傳 高命、
- 同年四月四日、久寬被補馬關田地頭職、種子島久時以野村廣貫傳 高命、

- 同十七年二月五日、家嫡久朝訴久寬之年頭太刀進上之事、因同月十三日御家老以相良長規傳公命曰、久寬其踵川上久重・新納忠倚後、可獻山田有英前云云、
- 寶永三年二月十五日、久可寬初久任御用人役、於席可著坐同役之上云云、
- 同年三月九日、久可任五番組頭、
- 同六年八月十六日、久富前久許組頭轉任御側御用人役、座席奉可爲先格之 貴命、佐多久達傳之、久富就平岡之品奉謝之、則於 御休息間奉拜 尊顏退去、
- 同年八月二十五日、久富轉任高城薩州地頭職、
- 正徳元年八月二十一日、徵久富於御家老座、轉任寺社奉行御役且顯娃地頭職、
- 同八月二十三日、久富任六番組之與頭、
- 同年九月二十一日、久富所進上之八朔之中紙、到後年亦就久富之家奉可獻之旨、

○同年十月朔日、以久富之家格 命寄合、肝屬兼柄傳 貴命、

○同三年三月二十五日、如當家之家督者、實名可用久字旨奉 貴命、肝屬兼柄傳達之、且當家二男以下以俊字可用實名、是依家嫡之傳也、

○家嫡忠覺賜藤十文字之紋以爲定故、得家嫡之許當家之嫡子亦用藤十文字、於二男者不許之、

○同年九月二十八日、徵久富於御近習番所上之間、改用之助賜名於織部有御折紙、名越右膳恆渡大御目傳附格

公命、

○同年十一月三日、久當奉 命爲來年首之使節發覺府赴江都、

久方

松千代 十藏

○元祿九年丙子九月十七日誕生、母久照女實刑部久弘之二女也、

○寶永二年十二月二十八日、太守吉貴公御手自加

首服於松千代、號十藏久方、島津久明役理髮、獻品賜物同父久富例、

○同日 太守公以島津仲休賜加冠之 御黑印於久方、

女子 比志島兵次郎國憲妻、

久次

鄉左衛門 夭亡、

○元祿十二年己卯七月二十日誕生、母同、

女子

母同前、

俊苗

初久次 千吉

○元祿十六年癸未二月五日誕生、母同前、

俊房

初久次 幾久之助

○寶永元年甲申五月二十七日誕生、母同前、

久根

龜千代丸

○寬文六年丙午十二月二十七日誕生、母鎌田刑部左

衛門政固女、

○延寶二年甲寅十月二十二日卒、享年九、法名幻了

覺夢居士、

女子

島津内記久文後之妻、

○母同前、

女子

○母同前、

○爲遠江久照之養女、而後嫁久照之養子用之助久寬、

△久矩

初久重 後忠覺 長壽丸 源助 伊賀 十右衛

門 藏人

○延寶八年庚申正月十二日誕生、母同前、

○元祿五年十二月二十八日、 太守綱貴公忝御手自

加首服於長壽丸、號源助久重、肝屬主殿久兼役理髮、進獻拜賜同父久弘之元服之例、

○同十二年二月十八日、久重獻上太刀・馬代三種二

荷 綱貴公、奉謝繼目相續之忝、市來次郎左衛門

家賢執奏之、

○同年三月四日、久重補二番組之組頭・番頭、而依

願轉補六番組之與頭・番頭、

○同三月二十七日、久重被補隅州財部地頭職、

○同年四月十四日、奉賀 綱貴公五十算、久重以松

契週年題詠一首和歌奉獻焉、

○同十四年十一月十四日、久重家從古昔所傳之紋十

文字也、其模樣小異、猶以奉訴爲定紋傳子孫於

太守綱貴公、則 命曰、是紋爲 御家之御陣幕・

御船幕之御紋也、因不許之乃 公工製藤十文字、

以賜久重爲定紋、

○同十五年正月十四日、依舊式、於吉野闊大狩時、

久重率六番組之諸士、正行儀采達 綱貴公之聽、

同月十六日徵島津久記・同久音・久重時三人六・及番組頭

新納忠倚・伊集院久富御老中列坐、而種子島久時傳 公命曰、此度御關狩六番組之諸士替餘組、正

行儀者偏因與頭教令宣加御褒詞、是能諸士守御條書旨之故如斯、乃招諸士而久重宅、願傳 高命之

趣、則以伊集院久饒來述 公命曰、願雖爲尤不可及招諸士、惟於久重宅可傳小頭、於是招小頭於久重宅傳 貴命之忝、

○同十六年十月二十一日、網貴公改賜源助名於伊賀、

○寶永二年十月七日、忠覺蒙爲來年首之使節可赴于江都之 公命、

○同十月九日、忠覺因 貴命改名於十右衛門、

○同日補財部地頭職、

○同年十一月三日、忠覺持來年首之使節、發覺城同十二月朔日到江府、

○同三年正月二日、忠覺登武 營幣禮了、則於土屋

政直・小笠原長重第被授回答之奉書、既而忠覺同年二月二日發江都、同三月十六日還鹿府稟始末之事、

○同四年十二月十六日、忠覺任御勘定奉行、

○同五年三月十一日、忠覺任寺社奉行御役、

○同七年八月十五日、太守吉貴公感忠覺之今般南

泉院之 御宮建立、且當役勤勞、於御座間之下坐賜 謁頂戴 御帷子一領・御上下一具、

○正德元年八月二十一日、忠覺任大御目附役、

○同二年二月二日、以白錄(銀力)二十五貫目賜忠覺、是依可赴江府也、

○同年三月十八日、忠覺繇願賜名於藏人、

○同年四月十一日、忠覺發覺府、同五月二十二日、到江都代北鄉久嘉、勤仕芝之御家老座、

○同三年四月十一日、就

將軍宣下忠覺務 太守吉貴公之使節、同月二十三日、忠覺於江府神田之御旅策、奉拜謁 近衛家熙

卿、有獻有賜、

○同年五月朔日、於芝御家老坐島津久明傳 公命之

赴於忠覺曰、自今避忠字以久字可爲實名、如當家

二男以下者、以俊字可爲通字、賜折紙、已而、同

日改忠覺於久矩、

○同年七月九日、久矩詣島居伊賀太守忠救主第奉謁

見、時有獻有賜、

○同月二十一日、久矩代島津木工久武發江府、同九

月朔日歸鹿兒島、

—久武

初忠位 十太郎 源助

○元祿十四年辛巳七月二十四日誕生、母島津大藏久明

女、

○正德元年十一月二十八日、 太守吉貴公御手自加首

服於十太郎、號源助忠位、肝屬兼柄役理髮、獻品拜

賜 御盃頂戴、同父久矩、

○同日、 太守公以島津仲休賜加冠之 御判物於忠位、

○同日、 儲君忠休公亦獻御太刀・馬代、奉謝之、御取

次島津久置、

—女子

俊峯

初忠量 萬次郎

○元祿十六年癸未十二月五日誕生、母同前、

(表紙)

伊集院氏

一流

第二

新編島津氏世錄支流系圖

伊集院氏支流「猪イ」伊鹿倉系圖

忠貞

號伊賀倉、又太郎 法名道圓、
○伊集院長門守忠國家四代家督他腹之長男也、

久矩

又太郎 左近將監 法名道哲、

久宣

勝太郎 豐前守

○延德二年庚戌八月三日死、法號真叟道如、

女子

了圓

真如院 小僧都

忠知

久太郎 左近將監

○永正四年丁卯二月十八日死、法號春山淨林、

了海

了圓僧都弟子也、

女子

平田某妻、法名妙春、

忠因

源四郎 筑後守

○天文十九年庚戌正月二十九日死、法號寒嶽存松、

忠香

左近將監 早世、法號活叟道機、

忠長

將監 豐前守 齋名良月、法名緣學良因、

時久

山城守 法名淨屋、

○薩州加世田士也、

女子

加世田士川越丹後重俊妻、

久知

三左衛門

○寛永四年丁卯九月十六日誕生、母薩州大口土赤

崎段兵衛女、

○時久依無實子爲猶子、實加世田士春成大膳久成

之二男也、

○元祿四年辛未三月四日死、法名孝順、

女子

鹿兒島士伊鹿倉爲右衛門忠清妻、

○母薩州伊作士丸山内膳女、

俊安

初久明 德千代 與兵衛 三左衛門

○明曆元年丙申正月十三日誕生、母同前、

俊賢

初久賢 十次郎 刑部左衛門勝藏

○萬治元年戊戌九月十八日誕生、母同前、

○爲加世田士春成刑部左衛門久行之養子、

女子

加世田士市來助右衛門家綱妻、母同前、

— 女子

加世田士是枝勘兵衛義流妻、

○母加世田士吉峯宗右衛門宗利女、

— 女子

加世田士吉峯藤之允妻、

○母同前、

— 俊

龜松

○元祿十六年癸未四月朔日誕生、母伊作士小山與左

衛門重記女、

— 女子

○母同前、

— 俊

鐵之助

○寶永六年己丑九月三日誕生、母同前、

— 女子

豐丸主殿助宗正妻、

— 忠兼

織部丞

○弘治二年丙辰八月十七日、於大崎勢箇島遂戰死、

法號竹庵良憲、此時肝付士卒亦數百人戰死也、

— 忠年

安千代 源四郎 喜右衛門 豐前

○此代爲北郷家之臣、子孫在于都之城、

○元和三年丁巳七月十九日死、年六十五、法號正翁

良傳、

— 忠重

源三郎 勘解由次官

○隅州横川之士也、

○寬永十九年正月十日死、法名虎本文龍、

— 女子

横川士是枝長左衛門義房妻、

○母橋口石見安春女、

忠憑

初忠堯 勘十郎 加太夫 清右衛門

○元和七年辛酉六月十二日誕生、母同前、

○此代從横川移于薩州加世田、

○元祿九年丙子四月三日死、年七十六、法名喜叟

常慶、

忠清

千太郎 太左衛門 玄與 猪右衛門

○寛永二十年癸未十二月十二日誕生、母仁禮六左

衛門頼重女、

○元祿四年春蒙 太守綱實公之恩免爲鹿兒島士、

○寶永五年戊子正月十四日死、年六十六、法名月

窓清雲居士、

忠程

初忠明 市右衛門 勘左衛門 ○横川士也、

○忠憑從横川移加世田、故横川士跡將及斷絶、

以是受高屋敷而爲養子、實横川士林四郎兵衛

重良之男子也、

○元祿四年辛未十月八日死、法名得翁壽察居士、

俊房

初忠紹 休次郎 市兵衛 采女 孫市

○慶安四年辛卯正月二十三日誕生、母横川士山

口民部左衛門篤行女、

俊方

初忠實 市藏 勘左衛門

○延寶元年癸丑六月三日誕生、母横川士石野田

喜左衛門宗貞女、

俊經

初忠尙 又忠春 新四郎 市右衛門

○延寶七年己未五月二十九日誕生、母同前、

女子

○母横川土時任舟右衛門秀清女、

俊峯

勘四郎

○正徳元年辛卯四月二十四日誕生、母同前、

女子

初嫁野津與八兵衛賴安、懷妊之時離別而生忠知、

後爲野村次郎右衛門統貞之妻、

○母加世田土伊鹿倉三左衛門久知女、

女子

有川仲右衛門貞能妻、○母同前、

俊温

初忠知 三助 猪左衛門 清右衛門

○貞享四年丁卯正月十七日誕生、母忠清嫡女、

○忠清依無男子爲養子、實野津與八兵衛賴安之男也、

俊並

千太郎

○正徳元年辛卯六月二十五日誕生、母高崎權之助能

逸女、

女子

野村治部少輔利綱妻、

忠秀

安千代 勝太郎 左近

○母都之城家臣野邊駿河盛綱女、

○寛永二年乙丑六月十九日死、年四十四、法名然譽

天宗、

忠昌

初忠房 松壽 五市郎 肥前

○文祿元年壬辰七月十三日誕生、母同前、
○寛永元年甲子四月九日死、法名猛翁宗心、

—女子

都之城家臣平山新兵衛武貞妻、

○母都之城家臣荒河大炊儀定女、

—忠明

宮松 五市郎 貞右衛門

○元和八年壬戌二月二十六日誕生、母同前、

○萬治元年十月二十三日、得家督十右衛門久朝之

赦免、爲伊集院之號也、

—松壽

早世、法名幻蓮、

○母北郷加賀三久家臣小杉六郎兵衛賴信女、

—俊綿

初忠知 又忠翁 泰菊 長左衛門 次右衛門

○承應三年甲午九月十八日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之命、措伊集院號如元稱伊鹿倉、

—女子

○母同前、天亡、

—女子

都之城家臣知覽兵太行孝妻、

○母都之城家臣佐藤萬左衛門信良女、

—俊盈

初忠利 五太夫 新兵衛 貞右衛門

○延寶四年丙辰六月十三日誕生、母同前、

○與兄俊綿同復伊鹿倉、

—俊明

孫太郎

○寶永二年乙酉六月二十日誕生、母都之城家臣山

下小兵衛盛尙女、

—女子

○母同前、

女子

垂水家臣宮迫木工左衛門重近妻、

○母都之城家臣丸田勝右衛門女、

俊彌

初忠宣 五市 五納右衛門 甚五右衛門

○天和三年癸巳正月元日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊明

宮次

○寶永二年乙酉六月二十二日誕生、母都之城家臣福

留賀右衛門經朋女、

俊宗

半助

○寶永六年己丑六月十八日誕生、母同前、

久近

宮千代 源藏

○母都之城家臣鶴田飛驒貞昌女、

○寬永二年乙丑六月十九日早世、十九、法號月桂憲

散、

忠洪

虎安 長十郎 清左衛門

○慶長十九年甲寅十二月九日誕生、母同前、

○承應二年六月十日、得家督源助久朝之赦免爲伊集

院之號也、

○寬文元年辛丑閏八月十九日死、法名然譽相廓居士、

女子

都之城家臣相馬仲右衛門久賢妻、

○母都之城家臣神田橋筑右衛門助朋女、

忠陳

虎助 喜右衛門

○寬永十九年壬午九月二十日誕生、母同前、

○元祿十四年辛巳四月二十二日死、法名松屋壽貞居士、

女子

傳左衛門俊名妻、

○母都之城家臣坂本喜右衛門女、

俊名

初久知 熊之助 傳左衛門

○寬文七年丁未正月八日誕生、母都之城家臣谷山了

兵衛秀親女、

○忠陳無男子故爲智養子、實都之城家臣相馬仲右衛門久賢之二男也、

○正德三年之夏受家嫡藏人久矩之令、當家之實名自今以后避久忠字改俊字、庶族同之、同四年之夏措

伊集院號復本氏伊鹿倉、是亦因家嫡之傳也、

忠里

傳彌

○元祿二年己巳正月十七日誕生、母都之城家臣伊集

院喜右衛門忠陳女、

○爲都之城家臣相馬藤左衛門忠堯之養子、

伊集院氏支流日置系圖 古垣及春成附之

久影

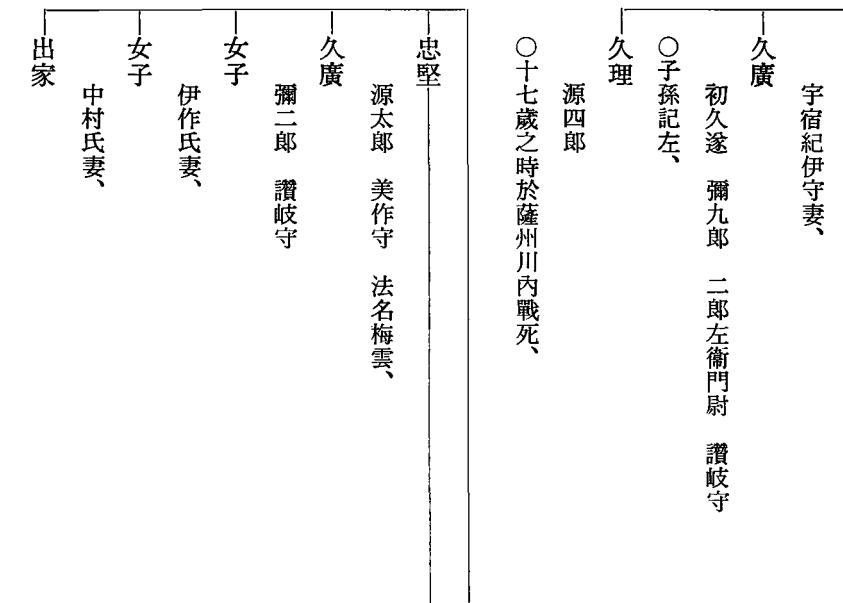
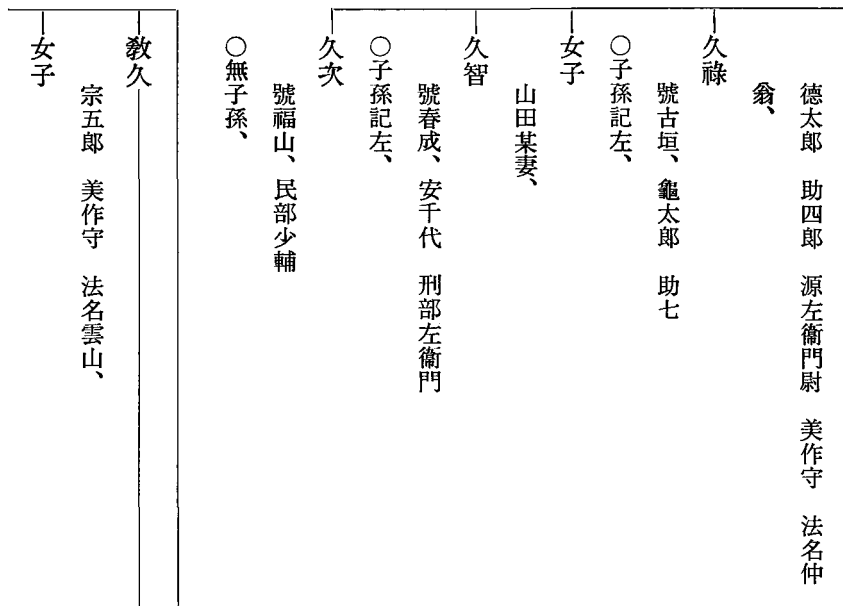
號日置、美作守 法名興山、

○伊集院長門守忠國 四代家督 三男也、

女子

麥生田助五郎忠充妻、

忠嗣



大集寺

忠豐

五郎 美作守 法名興山、

久滿

千代松 新四郎

女子

兵部妻、

女子

加治木六郎妻、

久儀

宗太郎 助左衛門尉

女子

島津豊後守妻、

忠鑑

五郎 助四郎 美作守 法名朴中、

久遂

千代五郎 美作守 法名賢翁、

女子

平山越後守妻、

忠頭

初久達 或忠鎮 治部少輔 周防介 法名日實、

○子孫記左、

久義

與市郎 兵部少輔 兵庫頭

○子孫記左、

女子

島津河内守妻、

久岑

四郎左衛門 伊勢守

○永祿元年戊午十月二十三日於日州志布志討死、法

名梁山、

—女子

羽島某妻、

—久能

出羽守

○爲平田氏之猶子、

—久俊

安千代 刑部少輔

—久範

千代太郎 四郎左衛門

○永祿元年戊午三月十九日、於隅州恆吉宮个原討死、

法名昭屋、

—久職

初忠鏡 源次郎 源右衛門

○爲北郷次郎左衛門之後嗣、

—女子

島津中務少輔妻、

—久貞

助次郎 早世、

—女子

平田新左衛門妻、

—久綱

助五郎 早世、

—忠饒

源右衛門 美作守

○慶長三年戊戌七月二十八日死、法名享翁、

—忠張

滿次郎 太郎次郎 才助 源右衛門 弓左衛門

○子孫薩州川邊士也、

○法名雄安祖英、

<p>俊信</p>	<p>○寬永十九年壬午六月十七日誕生、 ○寶永六年己丑六月九日死、法名正眼、 盲者也、</p>	<p>文學 郷左衛門 早世、</p>	<p>忠敏 德千代 彌五郎 兵右衛門 ○子孫薩州山田土也、 ○法名傑山白英、 女子 源三郎 虎徳 天亡、</p>
-----------	---	----------------------------	--

<p>豐俊 初忠著 藤左衛門</p>	<p>○母同前、 川邊士勝目諸右衛門泰延妻、</p>	<p>忠置 滿右衛門 源右衛門 ○寬永十二年乙亥誕生、母川邊士内倉權左衛門宗資 女、 ○寶永三年丙戌六月二十日死、法名孝山玄忠、 女子</p>	<p>俊盈 分右衛門 ○延寶六年戊午六月二十三日誕生、母妾、 清左衛門 ○元祿四年辛未二月九日誕生、母同前、</p>
------------------------	--------------------------------	---	--

○寬永十七年庚辰三月五日誕生、母川邊土木原大膳
家正女、

○忠置依無後嗣爲養子連續於當家、實川邊士長井郷
左衛門實旋之三男也、

女子

川邊士池田軍兵衛兼次妻、

○母川邊士宮原八兵衛景次女、

房俊

初忠竺一郷右衛門

○延寶元年癸丑七月三日誕生、母同前、

○正徳三年之夏受家嫡伊集院藏人久矩之令、當家之
實名自今以后避久忠字改俊字、庶族同之、

方俊

初忠展 小藏 嘉右衛門

俊福

助太郎

○元祿十二年己卯正月二日誕生、母川邊士菊野仲兵
衛景休女、

俊美

後藤左衛門

○寶永元年甲申十二月二十八日誕生、母同前、

古垣助七久祿一流系圖

久祿

號古垣、龜太郎 助七

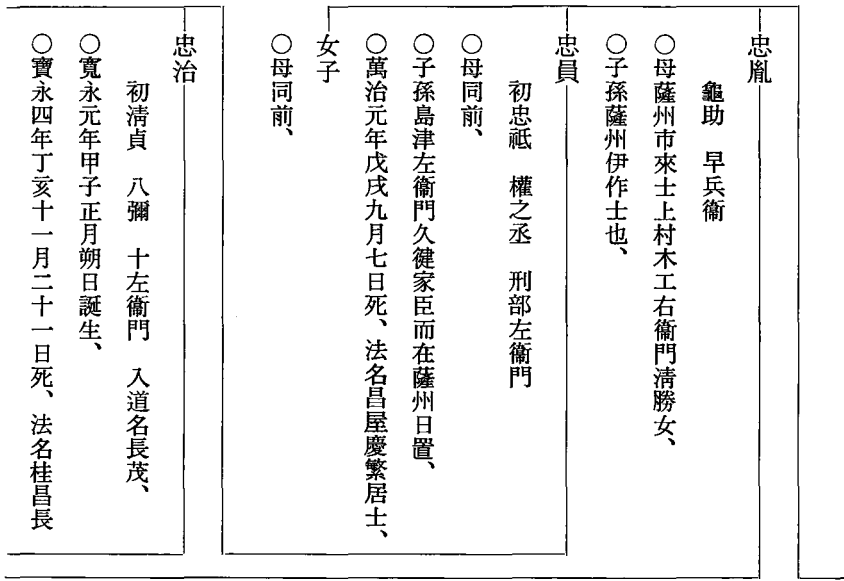
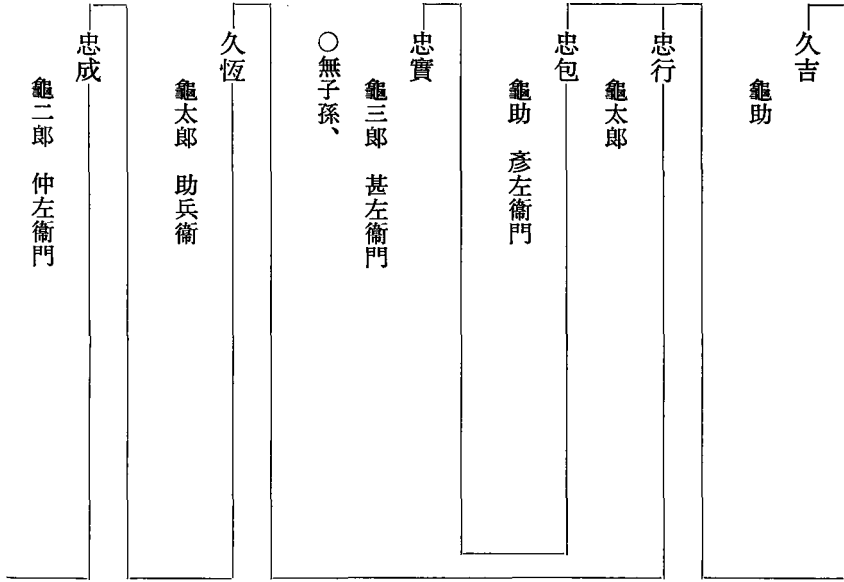
○日置家元祖美作守久影之二男、

久時

龜二郎 龜助 下總 法號雲岳、

久安

龜太郎 兵部左衛門



茂居士、

清盈

初忠晴 左内 新右衛門 織部

○寛永十五年戊寅八月十日誕生、

○爲上村氏之猶子、

女子

薩州東郷士三原監物妻、

俊春

初忠親 又忠花 龜二郎 次兵衛 刑部左

衛門 爲兵衛

○承應三年甲午三月十二日誕生、母伊作土富山

藤兵衛義光女、

俊純

初忠倫 久次郎 長右衛門 玄哲紹益

○萬治元年戊戌十二月十二日誕生、母同前、

俊喬

初忠原 八彌 權七 助七

○寛文四年甲辰八月二十二日誕生、母同前、

女子

鹿兒島士床浪孝左衛門種行妻、

○母同前、

女子

○母日置家臣吉留久右衛門利譽女、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

俊昌

初忠置 權七

○寶永二年乙酉七月二十五日誕生、母同前、

俊

久二郎

○寶永五年戊子四月十五日誕生、母同前、

女子

鹿兒島岩元平内常貞妻、

○母薩州阿多土岩元主水常實女、

女子

天亡、

○母同前、

俊敦

長七 玄益

○元祿十二年己卯四月八日誕生、母同前、

女子

島津内記久貫家臣鍋倉木工兵衛重信妻、

○母日置家臣田代堅右衛門助廣女、

忠實

初忠弘 龜松 次兵衛 與納右衛門 十兵

衛

○天和元年辛酉五月二十日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰四月五日死、法名機方宗心居士、

俊方

初忠景 次助 正兵衛 兵四郎

○元祿元年戊辰二月二十二日誕生、母同前、

俊

次兵衛

○寶永六年己丑五月二十三日誕生、母日置家臣上

村權右衛門清春女、

忠春

龜助 仲右衛門

○慶長十七年壬子八月八日誕生、

○延寶六年戊午九月七日死、法名用岳祖體居士、

俊村

初忠清 龜助 傳左衛門

○寬永十四年丁丑七月六日誕生、母禰寢右近重長

家臣前田對馬國次女、

忠次

長次郎

○正保三年丙戌三月十五日誕生、母同前、

○寬文六年丙午十二月二十三日死、法名如水香阿

居士、

女子

薩州伊集院士森山權兵衛重賢妻、

○母同前、

女子

伊作土村田好左衛門經賢妻、

○母島津中務久輝家臣長野與右衛門祐知女、

女子

伊作土折田藤内年昌妻、

○母同前、

俊安

初忠顯 龜千代 仁兵衛

○寬文十年庚戌六月十九日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊明

初久富 龜右衛門 政右衛門

○元祿九年丙子三月二日誕生、母伊作土松崎千兵衛

時照女、

久明

助七

○元祿十一年戊寅四月九日誕生、母同前、

○爲伊作土吉永茂左衛門政福之養子、

俊門

<p>初忠義 神助</p> <p>○寶永二年乙酉八月朔日誕生、母同前、</p> <p>女子</p> <p>○母同前、</p>	<p>忠助</p> <p>龜太郎 下總 道號虛心、</p>	<p>忠持</p> <p>民部少輔 道號古澗、</p> <p>女子</p>	<p>忠張</p> <p>龜次郎 大炊介 法名涼雲、</p> <p>忠眞</p> <p>助七郎 下總 法名玉仲、</p>
--	-------------------------------	---------------------------------------	--

<p>忠重</p> <p>大炊 法名照屋、</p>	<p>忠晴</p> <p>大炊介 齋名紹齋、</p> <p>○忠晴爲島津薩摩守義虎之家老、文祿二年秀吉公沒收出水、而後爲伊集院幸侃之臣、</p> <p>○肥後州水俣之地下人等離散而來出水、此時秀吉公賜御朱印於忠晴、有正文、</p> <p>○忠晴有歌道之志、故 近衛龍山公自書詠歌大概而賜之、有正文、</p> <p>○薩摩州與肥後州爭境界論獅子島、忠晴引萬葉集倭歌云、</p> <p>隼人のさつまの瀬戸をくもるなす</p> <p>遠くもわれすけふみつるかな</p> <p>以是爲證、故獅子島屬薩摩州云爾、</p> <p>○法名壽嶽昌椿、</p>
---------------------------	---

女子

島津義虎家臣猿渡某妻、

忠與

與兵衛 下總 四郎右衛門 齋名玄碩、

○慶長四年己亥伊集院源次郎忠真寵城時、忠與爲

野野美谷城主、

○忠真滅亡之後爲北郷二郎忠能臣、子孫在都之城、

○法名巨叟、

忠張

八郎兵衛

○爲東某伊集院忠真家臣之養子、

久之

彦四郎 休兵衛

○母都之城家臣末弘十郎左衛門入道洞雪女、

○寛文二年壬寅四月十七日死、法名涼屋、

女子

天亡、

俊門

初忠兼 虎千代 四郎助 權兵衛 四郎右衛

門 堅右衛門

○慶安三年庚寅正月十二日誕生、母都之城家臣神

田橋甚左衛門助張女、

女子

忠意妻、

○母都之城家臣堤八兵衛可定女、

女子

○母同前、

忠意

百千代 六郎右衛門

○延寶元年癸丑十二月六日誕生、

○實都之城家臣大館九右衛門晴秀之二男也、忠兼無男子、故嫁忠兼之嫡女爲猶子、雖然後違變而辭去於當家、

女子

○母忠兼女、

女子

忠成

民部少輔

忠廣

大炊介

○子孫斷絶矣、

不知所自出
古垣新四郎一流系圖

忠

新四郎

○子孫薩州谷山土也、

忠尙

伊賀

○寛永五年戊辰六月二十一日死、法名大圓道奕居士、

忠賑

權左衛門

○寛文三年癸卯正月二十七日死、法名無禪大虛居士、

忠貞

勘右衛門

○爲薩州指宿士四本勘解由忠重之養子、

○延寶四年丙辰三月十一日死、法名自性常心信士、

忠村

竹右衛門

○元和三年丁巳十二月十九日誕生、

○寛文八年戊申五月朔日死、法名關翁宗玉居士、

俊文

初忠則 勘左衛門

○寛永二十年癸未五月二十五日誕生、母谷山土是

枝存良院沢賢女、

女子

谷山土堀六太夫興道妻、

○母薩州伊作土有川主計貞徳女、

女子

鹿兒島土伊集院仲兵衛徧爲妻、

○母同前、

俊益

初忠通 武右衛門

○延寶六年戊午十二月二十四日誕生、母同前、

忠次

小八郎

○天和二年壬戌十一月十九日誕生、母同前、

○爲谷山土赤崎利助貞俊之養子、

女子

○母伊作土有馬市左衛門純貞女、

俊易

次郎助

○寶永六年己丑八月二十五日誕生、母同前、

忠次

采女

○母谷山土溝口郷右衛門吉次女、

○明曆三年丁酉九月二十六日死、法名秋屋月清上座、

女子

鹿兒島土江夏五左衛門妻、

○母同前、

俊雲

初忠顯 十之丞 内膳 權左衛門 權右衛門

源助 源七兵衛

○正保五年戊子六月十九日誕生、母同前、

俊存

初忠以 龜松 藤次兵衛

○延寶三年乙卯十一月十一日誕生、母谷山土寺師六

之丞宗次女、

女子

鹿兒島土池田仲右衛門兼直妻、

○母同前、

忠次

清九郎 三郎左衛門

○貞享三年丙寅五月十日誕生、母同前、

○爲谷山土平井勘右衛門政照之養子、

俊喜

初忠次 萬兵衛

○元祿十二年己卯三月八日誕生、母同前、

俊房

初忠次 龜松

○元祿十六年癸未十月二十四日誕生、母薩州川邊土

岩下伴右衛門家守女、

俊秀

初忠次 新藏

○正徳二年壬辰二月五日誕生、母同前、

春成刑部少輔久智一流系圖

久智

號春成、安千代 刑部左衛門

○日置家元祖美作守久影之三男、

久春

兵部少輔

久清

兵部少輔

久恆

刑部左衛門

○子孫薩州出水士也、

久包

若狹守

忠純

長門 入道名一仲、

○子孫薩州吉田士也、

忠益

孫兵衛

○子孫薩州出水士也、

久昌

源右衛門

久重

長右衛門

○爲出水士安藤仁右衛門智養子、

忠房

孫兵衛

○寛永七年庚午四月誕生 母出水士安藤仁右衛門女、

○伯父久昌無嗣子故爲養子、實安藤長右衛門之二男也、

○元祿二年己巳八月二十八日死、法名心月妙圓居士、

○元祿二年己巳八月二十八日死、法名心月妙圓居士、

○元祿二年己巳八月二十八日死、法名心月妙圓居士、

俊本

初忠寄 松千代 孫左衛門 孫兵衛

○承應二年癸巳六月八日誕生、母出水土兒玉

源助綱晴女、

綱寬

菊助 長右衛門

○明曆四年即萬治元年戊戌四月十六日誕生、母同

前、

○爲出水土兒玉源助綱晴之養子、

女子

出水土小田原八兵衛秀安妻、

○母同前、

俊宣

初忠堯 隼人 太左衛門

○元祿九年丙子七月十八日誕生、母忠房女、

○俊本無實子故爲養子、實出水土小田原八兵衛
秀安之嫡子也、

忠次

內藏人

○於豐後州戰死、年二十、法名百翁貞心居士、

忠道

長門

女子

日州飯野士黒木播摩妻、

○母鹿兒島士細田武藏女、

忠林

主税

○母同前、

○延寶四年丙辰八月二十四日死、年九十六、法

名淨室宗清居士、

忠張

覺右衛門

○慶長十九年甲寅十月二日誕生、母寺師讚岐女、

○元祿六年癸酉十一月十日死、年八十、法名天

水清寒居士、

俊將

初忠近 助六 市左衛門

○寛永十七年庚辰正月十二日誕生、母鹿兒島士

永吉加左衛門女、

兼則

松助 平八

○母同前、

○爲吉田士津曲加兵衛兼秀之養子、

俊由

初久治 覺左衛門

○寛文四年甲辰六月二十七日誕生、母隅州帖佐

士中村勝右衛門重宗女、

俊盈

納右衛門

○寛文十二年壬子正月二十九日誕生、母同前、

景氏

初忠長 松右衛門

○延寶二年甲寅九月五日誕生、母同前、

○爲吉田士大庭權兵衛之養子、

女子

隅州蒲生士桑畑八兵衛重恆妻、

○母同前、

俊易

初忠寄 甚藏

○貞享四年丁卯五月五日誕生、母同前、

俊賞

初忠文 勘兵衛

○元祿十三年庚辰四月二十八日誕生、母薩州郡
山土桑原滿右衛門常氏女、

俊親

市之丞

○寶永元年甲申十月二十四日誕生、母同前、

女子

蒲生土渡邊甚左衛門將芳妻、

○母蒲生土川原林伊兵衛重道女、

俊榮

初忠公 清右衛門

○元祿八年乙亥三月二十五日誕生、母同前、

俊名

初忠雄 助右衛門

○元祿十五年壬午十二月二十五日誕生、母同前、

女子

○母同前、

忠辰

助三郎

久辰

初忠朗 助三郎 助七 刑部左衛門

○法名蘭畦春芳居士、

久次

右衛門 兵部少輔

○法名月浦雪水大禪伯、

女子

鹿兒島土竹内仲左衛門實昌之母也、

忠泰

初久次 右衛門

○法名圓室宗方居士、

久明

初忠由 又久通 德千代 佐藤次 吉兵衛

○寬永五年戊辰六月十六日誕生、母蒲生土伊地知

氏女、

○忠泰依無實子爲猶子、實出水土麥生田善左衛門

忠辰之二男也、

○寶永四年丁亥七月二十一日死、法名寶山良珠居

士、

女子

出水土田實伊兵衛重延妻、

○母出水土宗像長左衛門氏榮女、

久知

初久富 德千代 納右衛門

○寬文三年癸卯八月四日誕生、母同前、

○元祿十四年辛巳四月二十三日死、法名蘭庭樹香

居士、

俊常

初久昵 又忠記 龜助 大炊 善左衛門

○寬文八年戊申八月五日誕生、母同前、

○爲出水土麥生田刑部左衛門忠尙之養子、

久次

源六 源兵衛

○貞享二年乙丑十一月朔日誕生、母出水土池松源右

衛門時長女、

○元祿十七年即寶永元年甲申二月八日死、法名花春玄桃居

士、

俊盈

初久次 善八

○元祿八年乙亥六月十五日誕生、母同前、

○兄久次早世、故相續當家、

久正

兵庫助

○我所由頼之宗主相模守忠良公、治國家有閑暇則嗜
敷島道、由是以伊呂波四十七字冠每首頭有四十七
吟詠也、當時之花本稱宗養法師、忠良公俾久正爲
使節帶件詠歌赴京都矣、既到于洛陽獻詠歌於宗養、
則每首書佳言於其側以見昇于予、且復賜書簡於久
正、爲家珍深藏櫃所以遺子孫也、

○永祿二年六月十六日、日州飢肥之於長慶寺與伊東
氏合戰之時、奈良原氏・梶原氏・久正共三人遂戰
死矣、翌日從敵方射贈矢書有歌曰、

梓弓はるなり兵庫うたるれば

矢筈の紋も絶るならはら

○法名利山春公上座、

久辰

安千代 助三郎

○永祿四年七月十二日、於廻對肝屬之兵、右馬頭忠
將戰死之時、久辰亦戰死、法名不凋秀公上座、

久千

藤六 讚岐

○法名源忠是心、

女子

○母宮原和泉常景女、

久加

加左衛門 早世、

○母同前、

休六

○母同前、

○於高麗病死、

久成

十郎三郎 大膳亮

○母同前、

○子孫薩州加世田土也、

○法名春翁泰陽、

久供

利兵衛 大炊左衛門 讚岐

○天正三年乙亥誕生、

○子孫薩州加世田土也、

○元和四年戊午三月十四日死、法名竹山、

久加

利助 利兵衛

○元和元年乙卯六月十五日誕生、母薩州田布施土

藤并能登女、

○元祿十一年戊寅七月二十六日死、法名雪船、

久持

松助 助右衛門

○正保元年甲申正月六日誕生、母加世田土加納五（部分ハ伊集院一流懸系図ニテ補フ）

郎左衛門武貞女、

○元祿九年丙子五月八日死、法名月江、

女子

加世田土字多作右衛門貞盈妻、

○母同前、

女子

加世田土相徳重右衛門延綱妻、

○母同前、

俊武

初久品 又久逸 利助 六兵衛 七郎右衛

門

○寛文三年癸卯十一月十一日誕生、母同前、

女子

○母加世田土田實源右衛門安重女、

女子

○母同前、

久次

松助

○寛文十一年辛亥二月二十日誕生、母加世田土川野

松坂坊通重女、

○爲加世田土宇多作右衛門貞盈之養子、

女子

薩州阿多土山田喜之助眞興妻、

○母同前、

女子

加世田土池田權左衛門盛次妻、

○母同前、

女子

加世田土西郷傳左衛門武次妻、

俊

六郎 利兵衛

○貞享三年丙寅閏三月二十九日誕生、母同前、

久行

龜次郎 仲兵衛 刑部左衛門

○寛永元年甲子誕生、母薩州大口土赤崎段兵衛女、

○延寶二年甲寅十月八日於武州江戸死、法名昌繁常

久、

久知

熊千代 三左衛門

○寛永四年丁卯九月十六日誕生、母同前、

○爲加世田土伊賀倉山城時久之養子、

久喜

乙助 仁兵衛 治左衛門

○寛永七年庚午誕生、母同前、

○爲加世田土指宿加賀之養子、

久次

五助 治部右衛門 諸右衛門

○寬永十六年己卯誕生、母同前、

○爲加世田士土持左京綱正之養子、

女子

薩州坊泊土鹿島七右衛門國治妻、

○母加世田士大迫次郎左衛門重家女、

女子

加世田士仁禮右京頼弘妻、

○母同前、

俊賢

初久賢 十次郎 刑部左衛門 勝藏

○萬治元年戊戌九月十八日誕生、母伊作士丸山内膳

女、

○久行依無男子爲猶子、實加世田士伊賀倉三左衛門

二男也、

俊重

初久重 安千代 十郎左衛門

○貞享元年甲子七月十八日誕生、母坊泊土鹿島七右

衛門國治女、

久廣

日置讚岐守久廣一流系圖

初久遂 彌九郎 二郎左衛門尉 讚岐守

○日置家二代源左衛門尉忠嗣之二男、

久弘

彌三郎 淡路守

久成

藤七 早世、

久武

吉兵衛

○母米良氏女、

○元和六年四月二十一日於武州江戸死、法名樹山一
柏居士、

彌平

○爲野村善右衛門吉綱之養子、

女子

號兵部郷、

久喜

吉兵衛

○十二月二十七日^{不傳}年號死、法名梅室浮季居士、

久以

茂兵衛

僧

號南的、鹿兒島武能學寺開山、

久隆

伴左衛門

○母福永久兵衛助次女、

○慶安元年戊子七月死、法名罷庵道休居士、

久重

吉右衛門

○寛永二年乙丑誕生、母同前、

○貞享二年乙丑正月十四日死、法名量庵宗無居士、

女子

稭父勘助重能妻、

俊映

初久映 友右衛門

○寛文三年癸卯八月十七日誕生、母七島中島郡司樋川
太左衛門盛次女、

俊憲

初久憲 次右衛門 茂兵衛

○寛文七年丁未八月二十九日誕生、母同前、

俊林

傳助 茂左衛門

○元祿四年辛未三月二十九日誕生、母島津市太夫久

雄家臣楡木九郎左衛門重信女、

俊

傳次郎

○元祿十六年癸未五月三日誕生、母同前、

女子

○母染川太郎左衛門實正女、

忠頭

日置周防介忠頭一流系圖

初久達 或忠鎮 治部少輔 周防介

○日置家七代美作守忠鑑之二男、

忠充

周防守 治部少輔 狩野之助

○忠頭依無嗣子爲猶子、實新納新右衛門之二男也、

○於日州飢肥新山戰死、

女子

柏原備中公倍妻、

忠春

治部少輔 越後守

○忠充依無嗣子爲猶子、實新納新右衛門忠識之二男

也、

○子孫島津兵庫久住家臣、而住加治木、

○元和七年辛酉七月二十二日死、法名心月春宗居士、

忠昌

藤左衛門 越後守

○寛文十一年辛亥五月二十六日死、法名花岩宗榮居士、

忠陳

善右衛門

○文祿四年乙未六月二十二日誕生、母狩野之助忠充女而嫁柏原備中公倍、故忠充使忠陳（ツマ）養育之胃

日置氏、以爲忠昌之次弟、實柏原備中公倍之二男也、

○子孫島津内膳久兵家臣而住黒木、

○延寶六年戊午二月初日死、法名桃林宗圓居士、

忠祥

初忠長 彌左衛門 善右衛門

○元和六庚申誕生、母豐州家臣伊地知隱岐重正女、
○元祿十一年戊寅五月二日死、法名智久性海居士、

忠清

善兵衛

○元和九年癸亥誕生、母同前、
○正徳二年壬辰七月十三日死、法名月溪忠清居士、

忠行

與左衛門

○母同前、

○元祿十三年庚辰九月二十日死、法名松山窓柏居士、

俊松

初忠尙 善左衛門

○慶安元年戊子十二月八日誕生、母同前、
○島津帶刀仲休家臣也、

女子

入來院主馬重矩家臣宮里宗兵衛正益妻、

○母薩州山崎士鯨島兵右衛門宗清女、

俊似

初忠智 平四郎

○寛文五年乙巳七月二十四日誕生、母同前、

林右衛門

○寛文六年丙午六月十一日誕生、

○爲島津帶刀仲休家臣時任五左衛門養子、

女子

入來院主馬重矩家臣萩原助右衛門妻、

○母同家臣東郷兵右衛門重盈女、

俊斯

善助

○元祿七年甲戌二月二日誕生、母同前、

俊草

三之助

○元祿十四年辛巳正月七日誕生、母同前、

女子

豐州家臣堀口傳右衛門貞盈妻、

○母島津圖書久通家臣有馬主計正信女、

善彌

早世、

○延寶元年癸丑三月十三日誕生、母同前、

女子

薩州樋脇士松下市右衛門妻、

○母豐州家臣前田猪之助女、

女子

隅州蒲生士前田源八妻、

○母同前、

俊枚

善右衛門 善兵衛

○寛文七年丁未七月二十七日誕生、母同前、

<p>俊親</p> <p>初忠順 又忠澄 助七郎 七右衛門 越右衛</p>	<p>俊參</p> <p>五郎八 助八</p> <p>○元祿五年壬申九月九日誕生、母豊州家家臣小野 圓學院義清女、</p> <p>俊靜</p> <p>彌左衛門</p> <p>○元祿十年丁丑二月九日誕生、母同前、</p> <p>俊像</p> <p>十右衛門 助右衛門</p> <p>○寶永二年乙酉九月十八日誕生、母同前、</p> <p>女子</p> <p>川上將監久將家臣野呂伴左衛門妻、</p> <p>○母豊州家家臣餅原宮内左衛門女、</p>
---------------------------------------	---

<p>俊年</p> <p>初忠長 又忠竹 助次郎 七右衛門</p>	<p>門</p> <p>忠正</p> <p>○慶安三年庚寅九月十六日誕生、母同前、</p> <p>助左衛門</p> <p>○萬治元年戊戌正月九日誕生、母同前、</p> <p>○延寶五年丁巳九月十三日死、法名月山冷秋居士、</p> <p>松五郎</p> <p>天亡、</p> <p>○母豊州家家臣坂本助三郎女、</p> <p>助七郎</p> <p>天亡、</p> <p>○母同前、</p> <p>女子</p> <p>○母村田五郎左衛門家臣松山甚左衛門女、</p>
-----------------------------------	--

○元祿元年戊辰二月四日誕生、母同前、

女子

○母同前、

忠智

十郎四郎

○元祿十一年戊寅四月十八日誕生、母同前、

○爲豐州家家臣羽島七右衛門之養子、

俊納

初忠文 善八左衛門

○元祿十五年壬午四月十一日誕生、母同前、

忠饒

玄蕃 覺内 善左衛門

○慶長十三年戊申五月二十七日誕生、母新納民部少

輔忠晴女也、

○爲加治木之臣新納一力坊忠長之養子、

忠成

清左衛門

○母同前、

○與兄忠饒俱受新納一力坊忠長之撫育、而后爲忠長

之二男、冒新納氏別樹家、

女子

加治木之臣丸野新兵衛妻、

○母同前、

俊增

初忠致 早右衛門 善右衛門

○承應三年甲午十一月十六日誕生、母加治木之臣法

元次郎左衛門盛時女、

○忠饒・忠成相與爲新納一力坊忠長之養子、故忠昌

之跡將斷絕、以茲相續當家、實忠饒之二男也、

俊濟

初忠濟 藏之丞 藤右衛門

○元祿四年辛未十月二日誕生、母加治木之臣岩崎覺

左衛門長延女、

○俊増依無世子爲猶子、實加治木之臣邦永善左衛門時常之二男也、

日置兵庫久義一流系圖

久義

與市郎 兵部少輔 兵庫

○日置家七代美作守忠鑑之三男、

久道

三河

○爲北郷家家臣知寛大和守久親之後嗣、

忠能

兵庫 齊名道徹、

忠達

越後

○法名宗心、

忠常

大膳

○爲山田某之猶子、

忠明

藏人

久種

左近 齊名急徹、

○初仕島津豐後守、而后爲北郷氏家臣、子孫在都之城、

久根

與市郎 早世、

久之

筑後

○久種一子久根早世而無嗣子、故爲後嗣、實北郷忠

能家臣山田大膳忠常之二男也、

○法名心岩影道上座、

忠躬

初忠親 大學左衛門 齊名清軒、

○實北鄉忠能家臣知覽三河入道之三男也、父久道者依爲日置久義之嫡子願復本姓、爲久種之二男而冒日置氏、

女子

忠雄妻、

○母北鄉時久家臣北鄉長門久堯女、

忠雄

初忠章 兵太 大右衛門

○忠躬依無世子爲智養子、實北鄉久直家臣高橋豐

前義興之男子也、

○寶永五年戊子五月晦日死、法名湖心清涼居士、

忠致

分右衛門

○慶安二年己丑二月二十九日誕生、母忠親女、

○爲北鄉忠能家臣知覽萬吉忠清之後嗣、

俊模

初忠質 又久張 右近兵衛

○萬治二年己亥九月八日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

都之城家臣阿久井利左衛門氏猶妻、

○母都之城家臣相馬助左衛門久遠女、

俊易

初忠陳 孫七

○元祿四年辛未三月十六日誕生、母同前、

祖門

出家、

○元祿十二年己卯閏九月二十九日誕生、母同前、

俊茂

初久辰 三四郎

○寶永二年乙酉三月八日誕生、母同前、

女子

都之城家臣有馬右近兵衛榮欣妻、

○母都之城家臣野邊左馬盛直女、

久利

才七郎 權右衛門

○元和六年庚申誕生、母同前、

○天和三年癸亥正月十四日死、法名梅庵道白居士、

俊滿

初忠等 又忠俱 松萬 六郎右衛門 八郎兵衛

與左衛門

○慶安四年辛卯五月二十二日誕生、母都之城家臣川

越休右衛門重廣女、

○正德五年乙未三月二十七日死、法名明巖清光居士、

女子

都之城家臣本田彌兵衛親興妻、

○母同前、

俊用

初忠里 善吉 次右衛門 伊左衛門

○延寶七年己未三月十日誕生、母都之城家臣內藤善

右衛門利文女、

○忠俱依無世子爲養子、實都之城家臣內藤善右衛門

利文二男也、

俊好

藏松

○寶永六年己丑三月三日誕生、母都之城家臣立山六

右衛門時氏女、

伊集院氏支流麥生田系圖

義久

號麥生田、兵庫頭

○伊集院長門守忠國四代家督四男也、

45『正文在志布志野神村帶刀有之』

○連々申通度雖心底候、『下々』之故乍存相過候、寔所

『下々』外候、仍其元御弓箭之趣、『下々』候哉、承度候、

雖初春之比、『下々』豊州以使僧忠親言上、『下々』夫御國

家御不知案内之、『下々』承候条、親佐吉岡方迄旨趣

被申入候ッ、然處爲上使成本衆差遣候条、御入魂

之首尾候、御本望之儀此節候、委細彼御可被仰達

候、殊光明寺御同道候而歸國候間、不能細筆候、

心緒猶期後喜之時候、恐々謹言、

六月三日

親成

日置源六殿

麥生田兵庫守殿

御宿所

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」二一八二号文書ト同文ナリ)

右書欲記兄日置氏譜、而有美作、無源六、是以
記麥生田氏譜者也、

忠充

助五郎

○法名一霞、

忠房

號有屋田、三郎兵衛

○子孫記左、

○法名久椿、號壽岳、

忠成

久近	久俊 彌三郎	忠行 助右衛門	忠近 助九郎	忠晴 助三郎	忠實 助五郎	助五郎
----	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----

俊哉 初久敬 龜助 助三 徳兵衛	女子 高崎士大始良大休坊盛長妻、	久厚 源彌 ○承應三年甲午六月二十日死、法名一圓月庭居士、	久親 大學之助 ○子孫日州高崎士也、	女子 堯存 ○日州高原地藏院住持、	助彌左衛門
---------------------	---------------------	-------------------------------------	--------------------------	-------------------------	-------

○承應二年癸巳九月六日誕生、母妾、
○久厚無實子故爲養子、實高崎士向井茂左衛門吉
形之長男也、

俊胤

初久兼 龜助 助右衛門

○延寶七年己未五月十日誕生、母高崎士田中藏之

丞良亮女、

俊信

初久矩 千十郎 常右衛門

○天和三年癸亥八月三日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊方

龜助

○元祿十六年癸未八月十二日誕生、母山田新助有

家臣川野次郎兵衛通春女、

俊員

勘左衛門

○寶永六年己丑八月二十二日誕生、母同前、

忠行

助五郎

忠明

初忠時 助五郎

女子

忠友

兵庫頭

久行

彦二郎

久昌

彦二郎

忠尙

山城

○子孫薩州出水士也、

○法名祝山道松居士、

忠脩

十郎 大膳 入道名盛久、

○寛永七年庚午三月十九日死、法名悟翁道三居士、

忠充

助五郎

○無子孫、

忠辰

善左衛門

○寛永十五年壬午五月三日死、年六十一、法名月江隆盛庵主、

女子

出水土原三郎兵衛重秀妻、

○母隅州蒲生士伊地知氏女、

忠常

狩野 十助 清兵衛

○元和五年己未四月十三日誕生、母同前、

○元祿十二年己卯正月二十六日死、法名松雲良鶴居士、

久明

初忠由 又久通 徳千代 佐藤次 吉兵衛

○寛永五年戊辰六月十六日誕生、母同前、

○爲出水士春成右衛門忠泰之養子、

忠尙

久五郎 刑部左衛門

○慶安四年辛卯十二月朔日誕生、母出水士八重尾久兵衛重良女、

○延寶六年十二月七日死、法名香林盛梅居士、

女子

出水士町田伊兵衛俊延妻、

○母同前、

女子

出水士面高長兵衛俊常妻、

○母同前、

女子

善左衛門俊常妻、

○母薩州長島士小田原次郎左衛門女、

俊常

初久昵 又忠記 龜助 大煩 善左衛門

○寛文八年戊申八月五日誕生、母出水士宗像長左衛

門氏榮女、

○忠尙依無男子爲養子、實出水士春成吉兵衛久明二男也、

○正徳三年之夏、受家嫡藏人久矩之令、當家之實名

自今以后避久忠字改俊字、庶族同之、

女子

出水士北村五次右衛門國道妻、

○母薩州長島士宮原木工之助景種女、

女子

出水士宗像助左衛門氏尙妻、

○母清兵衛忠常女、

俊香

初忠次 善五郎

○元祿十一年戊寅正月九日誕生、母同前、

有屋田三郎兵衛忠房一流系圖

忠房

號有屋田、三郎兵衛

○法名久椿、號壽岳、

○麥生田家元祖兵庫頭義久之二男也、

忠村

三郎兵衛

女子

忠俊

助九郎

忠元

又二郎

忠澄

助二郎

久實

助七郎

忠眞

○無子孫、

久枝

助五郎

久耕

加賀

○文祿四年乙未十二月二日死、法名幸玖、

女子

伊東肥後祐辰妻、

○母三原飛彈重長女、

久逸

右衛門 入道名清雲、

○永祿二年己未誕生、母同前、

○慶長五年庚子承 命移居于日州高岡、子孫在彼地、

○寬永十六年己卯正月七日死、年八十一、法名久岳

玄長、

女子

川上休庵妻、

○母同前、

女子

吉左衛門

大煩左衛門

○無子孫、

○隨身于源次郎忠真爲野野見谷城主、莊内亂之時守

城戰死、

與市

早世、

久延

休次郎 治部右衛門 治部少輔

○天正十八年庚寅誕生、母鹿兒島土加世田安房入道

昌家女、

○寬文二年壬寅七月二十六日死、年七十三、法號心

翁清安、

女子

高岡士本田次郎兵衛親昌妻、

○母同前、

久廣

休八 善左衛門

○慶長十年乙巳誕生、母同前、

○延寶三年乙卯九月十七日死、年七十一、法號心

叟良傳、

女子

高岡士本田權右衛門親良妻、

○母高岡士高木五郎左衛門秀成女、

休兵衛

天亡、

○母同前、

久通

百左衛門 善左衛門

○承應三年甲午五月二十三日誕生、母同前、

○貞享三年丙寅十一月十七日死、法名本源自性、

久規

休八 善右衛門

○延寶六年戊午八月二十九日誕生、母高岡士堀齊

宮重治女、

○元祿十一年戊寅九月十九日死、法名紅山霜葉、

俊宗

初久武 休八 助之進 孫左衛門

○元祿十年丁丑正月二十四日誕生、母高岡士市來清

右衛門女、

久氏

豐龜 右衛門兵衛

○元和二年丙辰二月二十三日誕生、母高岡士粗木平

右衛門家重女、

○延寶八年庚申七月十三日死、法號轉巖元心、

久佐

萬右衛門

○元和四年戊午八月二日誕生、母同前、

○爲高岡士松下七左衛門久長之養子、

女子

高岡士宇都八彌宗俊妻、

○母同前、

俊長

初久員 又久道 豐龜 仲左衛門

○寛永二十年癸未八月二十六日誕生、母高岡士指宿
十郎右衛門忠利女、

牛龜

夭亡、

俊重

初久重 八藏

○明曆元年乙未七月二十三日誕生、母同前、

俊昭

初久建 又久年 豐龜 久二郎 右衛門兵衛

治部右衛門 治兵衛

○寛文七年丁未二月八日誕生、母鹿兒島士相良主計
頼堯女、

女子

高岡士中村半七貞朗妻、

○母同前、

久二郎

夭亡、

俊貞

初久矩 豐龜 九郎右衛門

○元祿七年甲戌八月十六日誕生、母高岡士本田次郎
兵衛親昌女、

助十郎

夭亡、

○母同前、

俊成

初久村 長龜

○寶永元年甲申十月二十八日誕生、母同前、
俊直

伊集院氏

初久昌 龜德

○正徳元年辛卯七月七日誕生、母同前、

(表紙)

伊集院氏

一流

第三

新編島津氏世錄支流系圖

伊集院氏支流大重系圖

忠秀

號大重、彌三郎

○伊集院長門守忠國四代家督五男也、

○於加治木土器園戰死、

女子

久兼妻、

久兼

彌二郎 左京亮

○忠秀有一女未產男子之際遂戰死、故妻一女連續彼跡、實桑波田某子也、

忠晴

彌二郎

忠成

彌九郎

久益

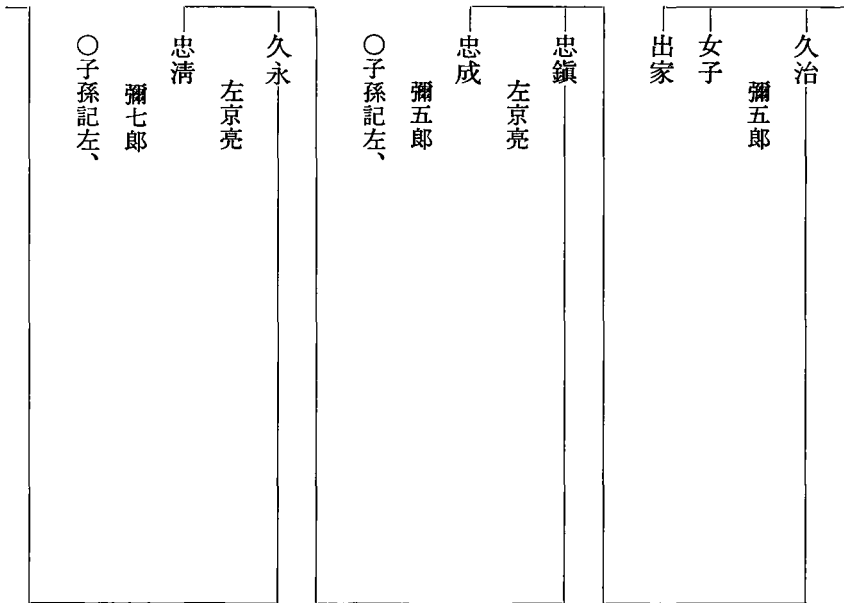
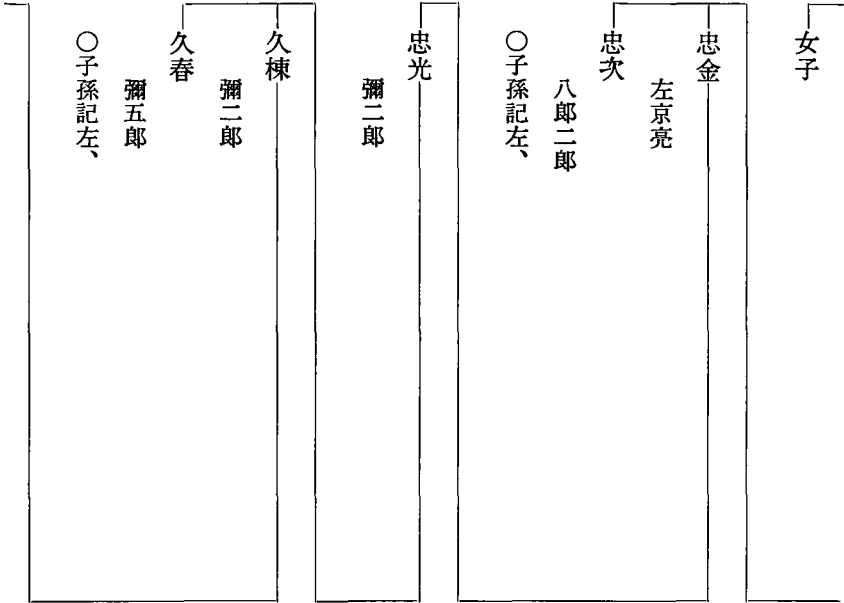
彌五郎

○無子孫、

久友

左京亮

伊集院氏



久澄

左京亮

忠廣

對馬守

○子孫記左、

久咸

加賀守

和光院

後爲霧島座主、

女子

忠貞妻、

忠貞

阿房助

○久咸有一女無男子故爲智猶子、實吉留某之子也、

久實

主馬 五郎右衛門

○慶長五年美濃州關之原合戰西國方軍敗 惟新尊君

下國之時、警衛於御臺所船而乘之、不計會黑田如

水番船之守豐之前後州海浦、於豐前州森江挑戰于

海上遂戰死、

久行

吉兵衛

久永

傳左衛門

○子孫記左、

久次

主馬

○子孫斷絕矣、

大重八郎二郎忠次一流系圖

忠次

八郎二郎

○大重家四代左京亮久友之二男也、

忠行

二郎左衛門

○子孫隅州帖佐士也、

忠次

吉右衛門

忠里

源兵衛

○子孫隅州帖佐士也、

忠陳

筑後

○子孫隅州山田士也、

○慶長三年戊戌九月十一日死、年八十三、法名巖了宗石居士、

久重

重右衛門 土佐

○文祿元年壬辰三月朔日誕生、母隅州山田士山

口總兵衛篤致女、

○寛文三年癸卯五月九日死、法名淨室道清居士、

久元

源左衛門

○文祿三年甲午十月二日誕生、母同前、

○爲隅州山田士山崎與市左衛門安周之猶子、

女子

隅州溝邊土溝口平右衛門金年妻、

○母加治木之家臣横山助七貞次女、

久軒

太郎右衛門 帖右衛門

○元和三年丁巳十一月五日誕生、母同前、

○明曆二年丙申六月二十日死、法名淨安傳清居

士、

久高

平吉 二郎左衛門

○寛永元年甲子正月七日誕生、母同前、

○寛永四年甲辰十月十五日死、法名雪窓休安

居士、

俊明

初久良 乙二郎 彌右衛門

○寛永十年己亥十月十六日誕生、母隅州山田

士山崎與市左衛門安周女、

○久高依無嗣子爲養子、實隅州山田士山崎源

左衛門安伸之二男也、

女子

奥附足輕木廻瀉助金宣妻、

○母隅州山田日吉社人鶴田右近長俱女、

女子

隅州山田士山崎源左衛門安貞妻、

○母同前、

俊茂

初久知 市兵衛 市左衛門

○延寶元年癸丑十一月十日誕生、母同前、

俊存

源兵衛

○元祿九年丙子六月十六日誕生、母隅州山田士

中馬軍兵衛重直女、

俊恆

二郎右衛門

○元祿十四年辛巳正月二十三日誕生、母同前、

女子

○母同前、

久次

太郎 帖右衛門

○寛永五年戊辰八月三日誕生、母島津兵庫頭忠朗

家臣黒木彌五右衛門隆行女、

○延寶三年乙卯八月九日死、法名洞雲仙巖居士、

俊盈

初久陣 長二郎 長右衛門

○正保二年己酉三月十日誕生、母同前、

○受兄久次讓相續當家、

久次

長助 長左衛門

○慶安四年辛卯六月八日誕生、母同前、

○元祿三年庚午三月四日死、法名讚阿玄明信士、

俊胤

慶兵衛 伊左衛門

○明曆三年丁酉十一月十三日誕生、

○俊盈未産實子之際、爲養子相續當家、實隅州

山田土郡山徳右衛門政能之二男也、

俊輔

初久起 長兵衛 筑右衛門

○天和二年壬戌十月十七日誕生、母隅州加治

木之家臣丸山喜右衛門重有女、

○先是俊盈依無實子、令俊胤爲養子連續當家、

其後俊輔出生矣、故爲當家二男也、

女子

○母島津左衛門久健家臣寺尾半六清竹女、

俊備

長七

○正徳三年癸巳二月二日誕生、母同前、

俊房

慶助

○元祿十年丁丑二月二十五日誕生、母隅州山田士

池田助右衛門兼博女、

俊名

松之助

○元祿十三年庚辰六月九日誕生、母同前、

忠元

助右衛門

○忠元及老年所帶衰微墮凡下、故削除子孫、

忠根

帶刀

○兄忠元墮凡下、故相續家督、

○法名栢岩霜雪居士、

忠有

傳兵衛

○忠根依無實子爲猶子、實助右衛門忠元之三男也、

○寶永六年己丑七月九日死、法名鑑舌道機居士、

女子

隅州帖佐士中馬七郎兵衛重方妻、

○母覺府善聚院門前者時崎四郎兵衛女、

忠長

吉右衛門

○萬治三年庚子二月二日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰十月二日死、法名量山一無居士、

女子

隅州曾木士酒匂平馬景鄰妻、
(44)

○母同前、

俊美

七右衛門 彌左衛門

○貞享二年乙丑七月十三日誕生、母傳兵衛忠有女、

○忠長依無嗣子爲養子、實帖佐土中馬七郎兵衛重

方之二男也、

忠次

傳左衛門

○寶永七年庚寅十月二十四日誕生、母帖佐土永井孫

七實興女、

○正德三年癸巳五月四日早世、法名心空童子、

忠晴

二郎左衛門

忠榮

藏之丞

○延寶二年甲寅十一月二十九日死、法名常翁宗盤居

士、

出家

伊集院諏訪座主

女子

帖佐土有馬五右衛門純慶妻、

女子

帖佐土山口源右衛門重房妻、

俊清

初忠澄 仲右衛門

○寬永十四年丁丑三月九日誕生、母隅州山田土木原

平兵衛姉、

○忠榮依無男子爲養子、實帖佐土東郷爲右衛門重良

之二男也、

○正德三年之夏受宗家之令改實名俊字、庶族同之、

忠榮

伴助

○寛文五年乙巳三月三日誕生、母隅州山田土森外記

女、

○貞享四年丙寅九月十四日死、法名楓山清葉居士、

忠興

覺左衛門

○寛文十二年壬子六月二十六日誕生、母同前、

○元祿九年丙子九月晦日死、法名覺源宗本居士、

女子

鹿兒島土牧仲左衛門胤昌妻、

○母同前、

俊程

初忠以 又俊貞 龜彌 伊兵衛

○元祿三年庚午十一月二十五日誕生、母隅州加治木

之家臣萬膳仁兵衛弘光女、

○俊清之二子蚤死、故爲養子、實帖佐土村岡武兵衛

良充之二男也、

俊名

龜彌

○寶永七年庚寅十二月十六日誕生、母隅州山田土森

善兵衛童徳女、

大重彌五郎久春一流系圖

久春

彌五郎

○大重家六代彌二郎忠光之二男也、

○子孫隅州吉松士也、

忠爲

八郎左衛門

○法名養心常安居士、

忠次

五郎右衛門

○法名常林、

女子

早世、

忠行

助次郎 伊右衛門

○文祿四年乙未二月八日誕生、

○天和三年癸亥五月三日死、法名大義盛重居士、

女子

吉松士前田七郎左衛門吉重妻、

○母吉松士高原市左衛門篤次女、

女子

吉松士川田休右衛門國貞妻、

○母同前、

女子

吉松士村岡舍人良廉妻、

○母同前、

俊盈

初忠倚 又忠致 長次郎 貞左衛門

○寛永十一年甲戌三月朔日誕生、母同前、

俊能

初忠禰 又忠珍 加左衛門 治右衛門 快巖

○寛永十七年庚辰二月四日誕生、母同前、

○初雖爲武元善兵衛之猶子、其後違變復大重、

教俊

初忠爲 助十郎 助之進 八郎左衛門

○延寶八年庚申三月六日誕生、母山田民部有榮家臣

内村滿右衛門常政女、

女子

島津將監久當家臣田中四郎左衛門重林妻、

○母同前、

忠烈

大珍 式部 治左衛門

○貞享三年丙寅八月九日誕生、母同前、

○寶永三年戊戌八月十八日於武州江戸死、法名月岩

圓桂居士、

俊厚

初忠直 彌三郎 彌五左衛門

○元祿十三年庚辰六月十二日誕生、母同前、

女子

吉松土中原吉左衛門慶明妻、

○母吉松土愛甲萬仙坊元久女、

俊倉

初忠株 長千代 孝左衛門

○寛文五年乙巳正月十日誕生、母同前、

○受宗家之令改實名俊字、庶族同之、

俊千

初忠鎮 久次郎 十郎左衛門

○寛文八年戊申二月朔日誕生、母同前、

俊高

初忠利 伊右衛門 伊兵衛

○元祿七年甲戌六月二十七日誕生、母吉松土門松權

左衛門重清女、

俊子

初忠寄 彌右衛門

○元祿十一年戊寅十一月五日誕生、母同前、

俊三

初忠廉 休八

○元祿十四年辛巳十一月二十五日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊士

初忠喬 與助 孝兵衛

○元祿四年己未八月十一日誕生、母吉松士愛甲彌左

衛門女、

女子

吉松士加治木字右衛門兼次女、母同前、

俊孫

初忠意 彌次右衛門

○元祿十四年辛巳十二月二十四日誕生、母同前、

忠成

大重彌五郎忠成一派系圖

彌五郎

○大重家八代彌五郎久治之二男也、

○子孫日州高崎士也、

忠眞

采女

忠弘

四郎右衛門

久尙

采女

久昌

四郎右衛門

○寛永十五年戊寅八月八日死、法名月心良花居士、

女子

久榮妻、

○母日州高原士山本丹後兵衛重續女、

久榮

采女

○寬永十一年甲戌八月三日誕生、母高崎土田口貞右

衛門重行女、

○久昌依無男子嫁一女而爲猶子、實高崎土田口新右

衛門重元之嫡男也、

○元祿九年丙子七月二十九日死、法名智一道宗居士、

女子

高崎土田口孝左衛門重方妻、

○母久昌之女、

俊孫

初久實 次郎 五郎左衛門

○延寶三年乙卯五月十八日誕生、母同前、

○受宗家之令改實名俊字、

俊昭

十左衛門

○元祿十年乙丑九月八日誕生、母高崎土岡田正左衛

門女、

俊常

熊助

○元祿十四年辛巳正月十七日誕生、母同前、

俊盈

次郎左衛門

○寶永四年丁亥三月十日誕生、母同前、

俊乙

半左衛門

○寶永六年己丑四月十二日誕生、母同前、

女子

○母同前、

大重彌七郎忠清一流系圖

忠清

彌七郎

○大重家九代左京亮忠鎮之二男也、
○子孫隅州曾於郡士也、

忠友

彌七郎

忠元

次左衛門

久成

久續

治部左衛門

久敬

主馬

出家

號賴長、霧島華林寺住持、

久矩

初久祇 次左衛門

○寛文十二年壬子五月二十一日死、法名清雲了心、

女子

霧島山門前者川本正吉妻、

出家

號雲海、日州都於郡黑貫寺住持、

女子

霧島山社人藤崎休藏宗則妻、

久基

次兵衛

○正保元年甲申三月九日誕生、母霧島門前者福崎掃

部女、

○寛文二年壬寅七月十九日死、法名秋月道清、

女子

曾於郡士馬場有性院篤順妻、

○母同前、

俊盛

初久恭 次左衛門

○承應二年癸巳十月誕生、母同前、

久俱

治部左衛門

○延寶五年丁巳二月十五日誕生、母霧島山社人藤崎

休藏宗則女、

○元祿十四年辛巳十月二十七日死、法名冬岳素光、

女子

村田藤兵衛家臣松田甚五兵衛爲成妻、

○母同前、

俊晴

初久屋 長助

○元祿六年癸酉八月七日誕生、母同前、

俊毅

初久晴 諸右衛門

○元祿十三年庚辰十二月二十九日誕生、母鎌田藤四

郎政純家臣岩本吉左衛門光能女、

俊則

初久佳 權左衛門

○寛文二年壬寅二月二十五日誕生、母曾於郡士池田

藤左衛門祐長女、

○受宗家之令改實名俊字、

久盛

次兵衛

○貞享四年丁卯誕生、母御小者藤波孝兵衛女、

○元祿十四年辛巳六月八日死、法名香桂琢月、

大重對馬助忠廣一流系圖

忠廣

對馬助

○大重家十代右京亮久永之二男也、

○隅州帖佐士也、

忠光

八郎左衛門

忠安

次郎太郎 內藏丞 大藏

○法名用峯、

女子

帖佐士上野勘解由妻、

女子

隅州蒲生士野本五兵衛妻、

忠修

平六 大炊兵衛 五郎右衛門

○天正十二年甲申誕生、

○朝鮮國及濃州關原之役供奉于 太守義弘公矣、

○忠修有故後嗣石原喜之助之一子平右衛門附屬家號

及宅地、而如自己去帖佐爲蒲生之士、家居之寢大

重之號而號薄間野、

○子孫隅州帖佐士也、

○寬文六年丙午八月二十九日死、年八十三、法名康

甫久安居士、

忠長

平七 采女

○天正十六年戊子二月二十三日誕生、

○子孫隅州帖佐士也、

○寬文二年壬寅十二月二十九日死、年七十四、法名昌山惟桂上座、

忠修

平六 大炊兵衛 五郎右衛門

○忠修一旦去大重號而稱他氏薄間野、既而又復本氏、故準采女忠長之弟以爲當家之三男、

○子孫隅州蒲生士也、

○寬文六年丙午八月二十九日死、年八十三、法名康甫久安居士、

女子

蒲生士宮之原不動院妻、

女子

蒲生士久保傳左衛門妻、

忠安

與左衛門 五郎左衛門

○忠修無實子故爲養子、實蒲生士森田織部之二

男也、

女子

蒲生士山元五兵衛重次妻、

○母帖佐士日高良音坊女、

忠親

與市左衛門 五郎左衛門

○延寶二年甲寅九月十四日誕生、母同前、

○元祿十六年癸未正月六日死、法名梅顔久芳居

士、

女子

○母同前、

俊易

五左衛門

○元祿四年辛未八月十日誕生、母忠安女、

○忠親無嗣子、故爲養子、實蒲生士山元五兵衛重

次之子也、

忠清

太郎 喜四郎 小右衛門

○慶長十三年戊申八月三日誕生、

○寛文十二年壬子七月二十九日死、法名松友惟高

居士、

忠次

吉左衛門

○寛永七年庚午十二月五日誕生、母帖佐土字都宮

傳左衛門女、

○爲鹿兒島士東郷仲右衛門之猶子、

女子

鹿兒島士木藤字左衛門武傳妻、

○母同前、

女子

鹿兒島士湯地主右衛門定行妻、

○母帖佐土竹之下十郎右衛門頼信女、

俊堅

初忠守 又忠尙 内藏之助 平六 萬左衛門

○寛永十九年壬午正月二十八日誕生、母同前、

○正德五年乙未六月二十九日死、法名一吼了然居

士、

女子

帖佐士山路五右衛門種勝妻、

○母帖佐土皆越新右衛門經祇女、

俊矩

初忠眞 又忠香 彌三郎 善助

○寛文六年丙午九月十四日誕生、母同前、

忠行

彌五郎

○延寶元年癸丑三月二十五日誕生、母同前、

○元祿七年甲戌二月二十二日死、法名朝岩白露居士、

女子

帖佐土隈元市郎右衛門宗重妻、

○母鹿兒島土川野久齊女、

俊經

喜四郎

○元祿十一年戊寅五月十八日誕生、母同前、

俊

善四郎

○寶永三年丙戌七月二十八日誕生、母同前、

忠康

平右衛門

○元和九年癸亥誕生、

○忠修無男子以故忠修爲帖佐土之時、爲猶子相續當

家之家督、實帖佐土石原喜之助之男也、

○元祿六年癸酉八月三日死、年七十一、法名鶴松良龜居士、

忠盛

助左衛門 筑右衛門

○正保元年甲申六月十五日誕生、母隅州山田土宅間

與三左衛門女、

○元祿十七年甲申二月五日死、法名石室源橋居士、

女子

帖佐土山路平右衛門種良妻、

○母蒲生土川北嘉兵衛女、

女子

帖佐土瀬戸口助左衛門重次妻、

○母同前、

俊寧

初忠道 助左衛門 喜兵衛

○貞享三年丙寅六月朔日誕生、母同前、

○受宗家之命實名改俊字、

俊名

平六

○元祿二年己巳七月二十七日誕生、母同前、

女子

○母帖佐士新原權右衛門重將女、

大重傳左衛門久永一流系圖

久永

傳左衛門

○大重家十四代五郎右衛門久實之二男也、

子孫鹿兒島士也、

○明曆三年丁酉七月十七日死、年六十一、法名の雲

宗端居士、

久延

仲兵衛

○元和八年壬戌十一月九日誕生、母大寺源左衛門女、

○貞享四年丁卯九月一日死、年六十六、法名逸叟宗

俊居士、

女子

龜澤源七左衛門儀安妻、

○母同前、

經親

三傳次 喜左衛門

○寬永十五年戊寅十二月二十一日誕生、母同前、

○爲村田五後右衛門經重之養子、

久昭

彌三郎 傳左衛門

○承應三年甲午六月九日誕生、母美代五兵衛清次女、
○寶永二年乙酉二月六日死、年五十二、法名圓知喜
法居士、

女子

○母同前、

女子

田中吉左衛門國寧妻、

○母薩州伊作土田邊某女、

久次

体右衛門

○寛文七年丁未四月十四日誕生、母同前、

○貞享二年乙丑八月四日死、法名淨庵道清居士、

久武

吉右衛門

○延寶二年甲寅十一月二日誕生、母同前、

○寶永元年甲申十二月二十七日死、法名昌山自久居

士、

女子

隈元太市左衛門宗明妻、

○母坂本知閑坊女、

俊共

初久捷 仲左衛門 仲兵衛

○貞享三年丙寅五月二十七日誕生、母同前、

○受宗家之命改實名俊字、

俊興

初久有 新左衛門 傳左衛門

○元祿五年壬申十月二十五日誕生、母同前、

女子

他腹、

伊集院支流大重氏之庶族忠清系圖

〔從是上世不知所自出〕
忠清

右近

平右衛門

俊全

曾右衛門

○承應三年丙午十一月三日誕生、母栗野之士神田橋

助兵衛義秀女、

○養子、實同所之士古川曾右衛門重次之男也、

長作

○父平右衛門相續家督於養子俊全、而後生長作、已

成長、則作之家貧乏甚而以生理不續、故請爲栗野

士列之暇免、以爲几下、是以子孫依例不記之、

俊郷

源十郎 源右衛門

○元祿五年壬申五月十七日誕生、母本城町人通統女、

女子

○母同前、

伊集院支流黒葛原系圖

俊久

號黒葛原、初依鎮 伊豫守

○伊集院長門守忠國四代家督六男也、

久直

伊賀守

久順

孫太郎 伊豫守 ○子孫記左、

久長

孫二郎 ○子孫記左、

久信

伊賀守

久元

讚岐守

○久元與讚岐守之交二三代闕如未知也、

忠次

周八

○讚岐守依無世子爲養子、實伊集院宮內少輔忠昭之

次男也、

○慶長五年庚子九月十五日於濃州關原戰死、年二十

一、

忠重

長次郎 筑後守

○兄忠次依無世子爲繼子、實伊集院宮內少輔忠昭三

男也、

忠清

惡之丞 周右衛門

○慶長七年癸卯八月二十六日誕生、

○忠重無世子之際死亡而有年矣、仍爲彼跡連續當家、

實伊集院助右衛門忠春次男也、

○奉仕 太守光久公、賜隅州櫻島之地頭職、

○隅州國分之川流漸漸而損士民之居、依之寬文年間

太守光久公令喜入久右衛門與忠清爲奉行、別鑿一

河而爲新流、故爲其賞拜領采地五十斛、

○寬文八年戊申八月十九日死、年六十六、法名悟空

了頓居士、

女子

川上與右衛門久行妻、

○母鎌田彌右衛門女、

俊宗

初忠澄 彌藏 周八 左近 周右衛門 入道號
可水、

○寬永十二年乙亥九月十九日誕生、母同前、

○萬治二年被補勘定奉行、其後轉任于船奉行・納戸奉行・奏者番等、

○賜隅州平松・同州踊・同州馬越等之地頭職、

○頃年伊豫守久順之孫源左衛門忠雄、憑于家嫡伊集

院十右衛門忠覺、以忠澄之家、曰非嫡流、其所以疑者伊賀守久信之子孫之有乎、然則忠澄之家者二

男久元之流也、忠雄之家亦二男家也、共無甲乙之

差云爾、忠澄云、以久信無嗣久元相續家統、踵至

于忠澄矣、忠覺不決、故訴諸 公家、國老命記錄

館正斷之、遂爲忠澄之家嫡宗之證、今茲寶永三年

九月九日、以平田清右衛門純旨傳 命曰、忠澄之

家素黑葛原之嫡流也、汝宜案堵莫疑矣、忠澄欽奉

謝恩裁之快決也、

○正德三年癸巳十月十五日死、年八十、法名洞雲院

山心了月居士、

女子

黑田賀兵衛賴重妻、○母同前、

俊昌

初忠辰 勝吉 善助

○寬文三年癸卯九月二十二日誕生、母他腹、

女子

湯地甚右衛門定安妻、○母同前、

忠盈

勝吉 源助 喜右衛門

○元祿四年辛未十月七日誕生、母石神宗兵衛重期女、

○正德二年壬辰九月十九日死、年二十二、法名道三

日教居士、

忠朝

萬千代 周八

○萬治三年庚子正月二十一日誕生、母藥丸刑部左衛門兼陣入道如水女、

○寬文八年十二月二十八日拜謁 太守光久公、獻上御太刀青銅、

○天和二年壬戌七月三日死、年二十三、法名秋山新月居士、

女子

早世、

○母岩切彥兵衛實信女、

俊賢

初忠長 或武兼 周助 伴助 守左衛門 周右

衛門

○寬文三年癸卯十月十二日誕生、母同前、

○初爲外叔父藥丸大炊兵衛之養子、而號藥丸伴助武兼、雖然兄忠朝早世、故辭彼家復本氏相續家督、

○補薩州野田之地頭職、

○任目附役先之名、吟味役

○寶永四年四月十三日拜謁 太守吉貴公、奉獻御太

刀青銅、是依相續家督也、

○正德三年夏、受家嫡伊集院藏人久矩之令、當家之

實名自今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

○此家勤小番、

女子

相良四郎兵衛賴繼妻、

○母同前、

女子

肝付甚兵衛年兼妻、

○母同前、

兼慶

周次郎 長左衛門

○延寶元年癸丑四月十三日誕生、母同前、

○爲藥丸刑部左衛門兼福之養子、

俊春

初忠隣 惡袈裟 市助

○延寶七年己未八月三日誕生、母同前、

— 女子

○母本田次左衛門親興女、

○天亡、

— 俊眞

初忠次 藤太

○正徳二年壬辰二月二十一日誕生、母同前、

— 女子

藥丸權兵衛兼矩妻、

○母相良源五左衛門頼安女、

— 忠次

仙十郎

○元祿八年乙亥三月十六日誕生、母同前、

○同十年丁丑七月二十一日天亡、法名玉顔香露童子、

— 俊將

初忠堯 權太郎

○元祿十二年己卯十二月十七日誕生、母同前、

— 女子

○母同前、

— 俊盛

初忠次 袈裟次郎

○寶永四年丁亥八月十九日誕生、母同前、

— 久順

黑葛原伊豫守久順一流系圖

孫太郎 伊豫守

○黑葛原家元祖伊豫守俊久之二男也、

— 忠慶

孫太郎

忠家

伊豫守

忠辰

孫太郎 治部少輔

忠光

大學助

○忠辰依無世子爲猶子、實川上信濃守久直之二男也、

忠明

吉左衛門

忠守

千兵衛

○天正九年辛巳誕生、

○寛文十一年辛亥二月十八日死、年九十一、法名

鶴縁道龜居士、

女子

肥後長左衛門盛行妻、

忠利

本兵衛 十兵衛

○元和九年癸亥正月十一日誕生、母牧之瀬内匠女、

○元祿元年戊辰正月七日死、年六十六、法名無屋

道山居士、

女子

家村次郎右衛門住充妻、母同前、

女子

○母藤島民部左衛門良隆女也、

○實龜山四郎兵衛久察子也、久察死去之後母攜此女

子再嫁忠利、故養而爲子也、

女子

俊相妻、母同前、

俊相

初忠洪 萬太郎 千兵衛

○貞享元年甲子九月十六日誕生、母隅州牛根土隈

元藏之助宗次女、

○忠利依無男子爲養子、實牛根土二川傳右衛門賴

宥之三男也、

俊香

龜千代

○寶永元年甲申十月五日誕生、母忠利女、

千助

○母同前、早世、

忠知

虎千代 孫太郎 治部右衛門

○慶長二年丁酉誕生、母桑畑氏女、

○寛文九年己酉九月二十八日死、年七十三、法名高

叟圓才居士、

孫右衛門

○爲西之原某之猶子、

忠通

虎千代 大學 吉左衛門 治部

○元和六年庚申十二月六日誕生、母中村志摩丞安信

女、

○轉任于納戸奉行・吟味役・用人役等之職、

○轉補薩州郡山・日州小林等之地頭職、

○元祿十一年戊寅十二月十五日死、年七十九、法名

梅峯宗雪居士、

久白

彦兵衛

○爲若松助左衛門久昌之養子、

祐長

三左衛門

○爲八代權右衛門祐益之養子、

忠以

初忠雄 虎千代 孫太郎 吉左衛門 源左衛門

○承應三年甲午二月十一日誕生、母宮之原内藏之助

重商女、

○任吟味役・用人役等之職、且賜日州小林之地頭職、

○正德三年癸巳二月二十日死、年六十、法名定巖快

通居士、

女子

山口甚九郎直張妻、母同前、

俊興

初忠興 彦次郎 三七 彦右衛門 半右衛門

○寛文四年甲辰八月九日誕生、母同前、

俊増

初忠増 半助 源左衛門

○元祿十年丁丑六月十四日誕生、母隅州國分土木工

田藤左衛門信宜女、

○爲伯父忠以之後嗣、

(ナシ)

助五郎

○寶永元年甲申十月十四日誕生、母同前、

○兄俊増爲忠以之後嗣、故爲嫡子、

(ナシ)

助八

○寶永八年辛卯二月二十四日誕生、母同前、

○兄助五郎爲嫡子故爲二男、

忠壽

虎千代 孫太郎

○延寶八年庚申十一月十七日誕生、母長崎爲右衛門

義智女、

○元祿十一年戊寅四月十日早世、法名松嶽自青居士、
長千代

○元祿五年壬申十一月二十一日誕生、他腹、

○同十二年己卯十二月六日早世、法名無心幻相居士、

女子

○母本田次郎左衛門苞親妹、

俊增

初忠增 半助 源左衛門

○元祿十年丁丑六月十四日誕生、母國分土木工田藤

左衛門信宜女、

○忠以無繼子而既死、故為養子連續彼跡、實半右衛

門俊興之嫡子也、

○此家至初及家督等之拜謁 太守公、則奉獻御太刀、

且勤小番是家格也、

黑葛原孫二郎久長一流系圖

久長

孫二郎

○黑葛原家元祖伊豫守俊久之三男、

久成

孫二郎

久元

孫四郎

女子

久行

木工助

久常

越中守

久明

越中守

忠行

初忠秋 木工之助 肥後守

○正保四年丁亥十月十一日死、法名越山常久、

忠清

縫殿助

○初薩州阿多士而后爲同州田布施士、子孫在彼地、

○忠清所帶衰微而無便奉仕矣、故讓家督於久佳、

久佳

長左衛門 木工之助

○薩州阿多之士也、子孫在彼地、

○受兄忠清之讓相續家督、

○延寶三年乙卯四月二十三日死、年八十三、法名

直岩久正居士、

久德

長兵衛

○薩州阿多之士也、子孫在彼地、

○元祿三年庚午七月二十日死、法名全喜道清、

久清

治左衛門

○田布施士、

○慶長十八年癸丑十一月二十六日誕生、

○忠清依無嗣子爲養子、實阿多士谷山清右衛門

二男也、

○貞享元年甲子八月十六日死、法名梅岑有香居

士、

久軌

休次郎 喜左衛門

○阿多士、

○元和七年辛酉十一月十五日誕生、

○忠清初依無嗣子、使久清爲猶子繼家統、其

後久軌出生故爲久清之弟、

○元祿十六年癸未十月十四日死、法名自觀、

兵左衛門

○母厩附中間黒松甚左衛門女、早世、

俊庸

初久甫 右京 喜左衛門

○寛文三年癸卯二月二十三日誕生、母同前、

俊祐

甚左衛門

○延寶三年乙卯十二月二十六日誕生、母同

前、

俊貞

市之助

○正徳二年壬辰二月朔日誕生、母阿多士岩下

郷左衛門女、

俊勝

初久言 萬平 木工太夫 吉左衛門 八

兵衛

○天和二年壬戌六月五日誕生、

○俊庸無男子爲故養子、實阿多士同氏孫次郎

俊尙之二男也、

女子

○母鎌田藤四郎政純家臣森田源之允女、

俊成

孫四郎

○寶永三年丙戌五月二十六日誕生、母阿多士大

津新左衛門安信女、

俊行

十郎 長左衛門

○寬永十六年己卯六月十五日誕生、母阿多士山

下千助女、

○依爲盲目讓家督於弟久行、

俊儀

初久行 五郎助 治右衛門

○寬永十九年壬午八月二十三日誕生、母同前、

○受兄之讓相續家督、

千助

○承應二年癸巳十一月十六日誕生、母同前、

○延寶六年戊午十二月三日死、法名休室清生

居士、

女子

薩州加世田土味坂慶淳妻、

○母同前、

女子

加世田土有馬源兵衛純之妻、

○母同前、

俊定

千助

○貞享四年丁卯五月朔日誕生、母薩州穎娃士

山内清助女、

女子

○母同前、

俊雉

十郎

○元祿十一年戊寅七月二日誕生、母同前、

清右衛門

○母同前、早世、

俊脩

初久倚 治左衛門

○寛文十一年辛亥八月十一日誕生、母加世田士尾辻分右衛門女、

俊迢

清十郎 吉右衛門

○延寶三年乙卯六月三日誕生、母同、

女子

○母同前、

俊維

市兵衛

○天和二年壬戌十月十八日誕生、母同前、

俊元

市之助

○寶永六年己丑四月八日誕生、母田布施士河野長右衛門女、

女子

○母田布施金藏院門前者川野五左衛門女、

俊都

吉左衛門

○寶永六年己丑五月十五日誕生、母同前、

俊綿

源七

○正徳二年壬辰正月十五日誕生、母同前、

俊知

五郎助 政右衛門

○元祿八年乙亥五月二十五日誕生、母田布施士川野長兵衛女、

俊成

彌七 五郎兵衛

○元祿十三年庚辰十二月二十七日誕生、母同前、

俊邑

彌七兵衛

○寶永三年丙戌三月朔日誕生、母同前、

久行

六左衛門 主馬

○母田布施土中村彦左衛門女、

○延寶五年丁巳十月二十五日死、法名心岩傑傳、

女子

加世田士久松軍兵衛勝當妻、

○母同前、

女子

阿多士兒島新兵衛妻、

○母同前、

久義

休五郎

○母同前、

○慶安二年己丑九月晦日死、法名秋山嶺葉、

俊尙

初久宣 五太夫 八兵衛 木工助 孫二郎

○慶安元年戊子四月十五日誕生、母阿多士西田

清右衛門女、

女子

鹿兒島士野村藤左衛門義張妻、

○母加世田士長井勘左衛門女、

女子

薩州川邊士大山喜兵衛金武妻、

○母同前、

俊國

初久英 八十郎 孫七

○延寶四年丙辰正月二十八日誕生、母同前、

俊勝

初久言 萬平 木工太夫 吉左衛門 八兵

衛

○天和二年壬戌六月五日誕生、母同前、

○爲阿多士同氏喜左衛門俊庸之養子、

俊商

木工七

○元祿十一年戊寅九月二十一日誕生、母阿多士敏

島六兵衛宗英女、

女子

○母同前、

俊顯

八十郎

○寶永三年丙戌六月二十六日誕生、母同前、

俊常

初久標 勘右衛門 左近 吉兵衛

○寛永十年癸酉四月八日誕生、母阿多士田島郷兵

衛重實女、

清長

長左衛門

○寛永十六年己卯二月二十日誕生、母同前、

○爲阿多士池之原長右衛門之養子、

女子

阿多士有馬利右衛門妻、

○母同前、

久近

長三郎 覺左衛門

○萬治二年己亥十月七日誕生、母阿多士山本段兵

衛女、

○元祿三年庚午十一月十七日死、法名自天慶雲、

俊珍

勘之助 長兵衛

○寛文五年乙巳九月十日誕生、母同前、

俊員

覺太夫 長助

○元祿二年己巳八月五日誕生、母阿多士有馬利右

衛門女、

俊雅

龜助

○元祿八年乙亥十月二十日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊房

萬平

○元祿十一年戊寅十月二十五日誕生、母同前、

俊善

勘右衛門

○寶永元年甲申十一月七日誕生、母同前、

俊兼

七右衛門

○寶永三年丙戌正月十日誕生、母同前、

俊長

六郎

○寶永五年戊子二月十五日誕生、母同前、

俊共

初久兩 彌三郎 木工兵衛

○元祿二年己巳四月十九日誕生、母川邊士末弘五郎

右衛門女、

女子

阿多士竹之下與右衛門妻、

○母阿多士野本五郎右衛門女、

俊充

初久恆 六左衛門 孫右衛門

○寬永十八年辛巳二月七日誕生、母同前、

久徵

源八 權助

○寬永二十年癸未八月二十一日誕生、母同前、

○爲阿多士川村七右衛門之養子、

俊信

初久由 權六 金左衛門

○寛文八年戊申三月二十一日誕生、母阿多士松山藤

兵衛清延女、

女子

阿多士松山藤七清竝妻、

○母同前、

俊辰

初久品 權八 孫兵衛

○貞享元年甲子五月九日誕生、母同前、

女子

鹿兒島士渡邊作内務妻、

○母同前、

俊明

六左衛門

○元祿九年丙子九月二十四日誕生、母阿多士山下休

左衛門清正女、

女子

○母同前、

俊親

權七

○寶永二年乙酉三月二十一日誕生、母同前、

女子

○母同前、

不知自所出
(ママ)

黒葛原左近忠次一流系圖

忠次

左近

○日州綾土也、

○法名心庵元空居士、

忠公

滿右衛門

○忠次依無嗣子爲猶子、實綾土上井甚右衛門兼滿之
二男也、

○元祿十一年戊寅正月二十二日死、法名春屋全正居士、

忠屋

甚兵衛

○母綾土今吉豐前兵衛女、

○元祿十二年己卯九月四日死、法名不安久傳居士、

俊近

初忠次 甚八

○寛文十年庚戌十二月五日誕生、母岡元傳助家臣也、不詳主人女、

俊滿

甚七

○寶永四年丁亥十二月二十七日誕生、母日州野尻士
西田利右衛門女、

俊治

八郎左衛門

○寶永七年庚寅十月十七日誕生、母同前、

不知所自出

黑葛原十左衛門久矩一流系圖

久矩

十左衛門

○子孫日州倉岡士也、

○貞享二年乙丑八月六日死、法名寶山珠琳居士、

俊從

五左衛門

○正保二年乙酉八月十二日誕生、母日州綾土日高九郎右衛門女、

—女子

日州高城士丸尾六七兵衛重良妻、

○母日州高城士加治木勘右衛門兼純女、

—俊伸

嘉右衛門

○正保四年丁亥三月十日誕生、母妾、

○俊從有一女而無男子故爲養子、實倉岡士加藤丹波

景軌二男也、

—女子

日州高岡士大山甚左衛門(ト)繼昌妻、

○母日州倉岡士岡本總右衛門義次女、

—俊安

權八

○天和三年癸亥二月二十日誕生、母同前、

伊集院氏支流忠治系圖

—忠治

信濃守

○伊集院長門守忠國四代家督第八男也、

—女子

—忠成

信濃守

—忠行

信濃守

—忠延

甚左衛門

忠兼

次郎左衛門尉

忠明

甚左衛門尉

忠弘

信濃守

忠充

次郎左衛門尉

忠清

加左衛門尉

○承應二年癸巳十一月十八日死、法名寶屋常珍居士、

忠晴

市左衛門尉

○自 太守綱貴公御幼稚之時勤御守役、奉仕于江武者數年也、

○天和二年壬戌十二月二十四日死、法名隱安落月居士、

久寛

始忠昭 加兵衛 仲太齋

○承應二年癸巳七月二十七日誕生、母伊地知四郎兵衛重賢女、

○忠晴依後嗣爲猶子、實者日州高岡士本田吉右衛門親直二男也、

○元祿九年丙子八月二十四日死、法名普覺自圓居士、

俊準

始久卓 久陳 次郎四郎 市左衛門

○延寶四年丙辰十一月十日誕生、母牧仲右衛門胤時女、

○正德三年癸巳六月家嫡伊集院藏人久矩示曰、於久陳家者自今以往避久忠之兩字、以俊之字可爲實名通字、仍改俊準者也、

女子

鹿兒島之士貴島源右衛門妻、

○母鹿兒島之士加世田金右衛門景親女、

俊玄

始久知 次郎吉 次郎四郎 嘉兵衛

○元祿四年辛未九月五日誕生、母同、

女子

○母鹿兒島士福島玄佐親方女、

女子

○母同前、

(表紙)

伊集院氏

一流

第四

新編島津氏世錄支流系圖

伊集院氏支流今給黎系圖

久俊

號今給黎、長門守

○伊集院長門守忠國四代家督九男也、世人謂之伊集院給

黎、

○法名賀山、

久慶

民部少輔

○於清水爲 勝久公被害、年八十五、法號月冷宗心
居士、

久昌

號伊集院、右衛門佑

○子孫記左、

久綱

號伊集院、初久成 源七郎 助八郎 長門守

○子孫記左、

久延

號伊集院、民部少輔

○父久慶爲 勝久公被害、故蟄居于薩州指宿、

女子

喜入攝津守忠譽妻、

久乘

兵部少輔

○依緣座受喜入攝津守忠譽之撫育住薩州喜入、其後為喜入家之臣、子孫在夫家、

久道

又十郎 伊賀守 入道名清雲、

○與兄久乘俱為喜入家之臣、子孫在夫家、

○依致忠節 太守貴久公賜長刀一柄於久道、

○天正十六年戊子六月二十九日死、年八十二、法

號善應堯良居士、

久重

惣兵衛尉 伊賀守 齊名宗壽、

○天正十四年丙戌十二月十三日死、年五十、法號

雲嶽道慶、

久利

新助 越中守

○天文九年庚子誕生、

○於廻野 龍伯尊君賜寶刀脇指也、

○天正十六年戊子六月二十八日死、年四十二、法

號代益良忠、

忠家

監物

○母喜入家家臣森壹岐女、

忠知

新助 彌左衛門

○天正三年乙亥誕生、母同前、

○寬永十九年壬午十二月十三日死、年六十八、法

號昌悅淨久、

久次

喜右衛門

○無子孫、

忠典

與四右衛門

○慶長十年乙巳誕生、母山鹿氏女、

○延寶三年乙卯四月十六日死、年七十一、法

號雪窓梅心、

久寬

初久辰 源三郎 入道名少庵、又名意

春、

○慶長十八年癸丑誕生、母同前、

○寬文九年己酉十月十一日死、年五十七、

法號心外意春、

久貫

源三郎

○慶安三年庚寅五月十五日誕生、母島津中務

久輝家臣長野吉左衛門女、

○元祿二年己巳正月朔日死、年四十、法號即

空是心、

俊通

初久通 六郎 紹甫 六郎左衛門 新助

○明曆元年乙未十月朔日誕生、母同前、

○兄久貫無世子故相續家督、

○家嫡伊集院藏人久矩之屬士也、

忠盈

新右衛門 平右衛門

○寬永九年壬申八月八日誕生、母喜入家家臣

伊集院彥兵衛久信女、

○元祿十四年辛巳十月二十日死、年七十、法

號一相理圓、

女子

田代彌左衛門清辰妻、

○母同前、

俊純

號末野、初久中 新助 一鈞

○正保元年甲申十二月二十二日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

女子

喜入家家臣渡邊五右衛門綱年妻、

○母薩州久志浦人森彌右衛門信安女、

俊清

初久次 孫太郎 木工右衛門

○元祿五年壬申正月晦日誕生、母同前、

俊常

號末野、初忠焉 又久盈 作内 新右衛門

門

○明曆元年乙未正月六日誕生、母喜入家家臣

田代惣右衛門清賢女、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

○正德五年十月二十二日依願蒙恩免、相續於

越中久利嫡孫仲兵衛久盛入道道悟之家、免

許伊集院号、且兼帶父平右衛門忠盈之家矣、

貞堅

半平 權兵衛

○母同前、

○爲喜入家家臣有川權之丞之猶子、

久兼

新九郎 納右衛門

○寛文四年甲辰二月十四日誕生、母同前、

○寶永元年甲申八月二十七日死、年四十一、

法號家庭壽仙、

俊生

號末野、初久定 新左衛門 五右衛門

門 越右衛門

○寛文八年戊申九月十五日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

俊央

初久次 半六

○寶永元年甲申五月二十日誕生、母喜入家

家臣中嶋善長住次女、

俊將

號末野、初久次 熊助 六郎右衛門

○元祿四年辛未九月十四日誕生、母喜入家家

臣田代惣左衛門清秀女、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

女子

○母同前、

俊相

初久希 新四郎

○元祿五年壬申十月晦日誕生、母喜入家家臣長

野六右衛門祐次女、

○俊常無嗣子故爲養子、實喜入家家臣有川權兵

衛貞堅之二男也、

忠房

采女

○母小牧氏女、

久重

治左衛門

○法號梅久道雪、

忠辰

藤右衛門

○無子孫、

女子

喜入家家臣神田甚兵衛盛兼妻、

忠知

千吉

○無子孫、

久次

傳右衛門

○無子孫、

久譽

勝太 少左衛門

○母薩州坊津土宮田甚右衛門信昌女、

○寛文八年爲薩州坊之津一乘院之徒從、

○貞享五年戊辰即元祿元年也三月六日死、法號花岳永

春、

女子

薩州川邊土菊野平内左衛門妻、

俊治

初久次 長助 少左衛門

○天和三年癸亥五月六日誕生、母薩州泊津浦人

小田七兵衛女、

○正德四年之春、至寺門前之輩削除 御家氏

族之家號法制也、以故當家之一流自今以後

除伊集院號、

俊

勝太

○寶永五年戊子六月三日誕生、母薩州泊津浦人小

田氏女、

久盛

仲兵衛 入道名道悟、

○母喜入家家臣田代三左衛門清友女、

○久盛已死無後嗣、故庶族新右衛門俊常奉訴爲久

盛之後嗣、正德五年十月二十二日蒙恩免、俊常

兼帶實父忠盈之家而相續當家矣、

女子

喜入家家臣長野帶刀妻、

久友

雅樂介 伊賀

○正保二年乙酉八月十七日死、年七十一、法號榮

山宗壽、

久信

彥兵衛

○天正八年庚辰十二月二十八日誕生、

○萬治二年己亥七月六日死、年八十、法號東岳

淨西、

女子

喜入家家臣伊集院與四右衛門忠典妻、

久次

宇右衛門

○無子孫、

○慶長十九年甲寅十一月十五日誕生、

○元祿五年壬申七月三日死、年七十九、法號本

室忍清、

女子

女子

薩州永吉家臣上原源右衛門妻、

久時

藤十郎 千助 與左衛門

○慶長九年甲辰十一月二十二日誕生、

○元祿五年壬申八月二十日死、年八十九、法號鐵

心幼生、

久良

十兵衛 大藏 清右衛門

○慶長十四年己酉誕生、

○元祿四年辛未八月十四日死、年八十二、法號

松巖永青、

久次

傳七

○早世、

俊英

號末野、初久森 又久知 長菊 七郎兵衛

友右衛門

○慶安四年辛卯十月十八日誕生、母喜入家家臣

久木田九郎右衛門重儀女、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

女子

喜入家家臣長野市右衛門妻、

○母同前、

俊行

初久長 長菊 清七 清右衛門

○延寶八年庚申四月八日誕生、母喜入家家臣四

本朴用俊武女、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

俊弘

初久次 清七

○寶永二年乙酉二月八日誕生、母喜入家家臣小城

仁右衛門祐高女、

女子

○母同前、

久持

德次郎 千助 與右衛門

○寬永八年辛未十月四日誕生、母長濱氏女、

○元祿十三年庚辰十月七日死、年七十、法號善壽

良心、

俊員

號末野、初久爲 藤十郎 主膳 勘左衛門

○寬永十九年壬午七月三日誕生、母喜入家家臣

四本六兵衛久繁女、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

久次

萬菊

○母同前、

○早世、

女子

○母同前、

女子

喜入家家臣田代惣右衛門清親妻、

○母喜入家家臣四本彌兵衛忠清女、

俊曉

初久次 半七

○元祿十一年戊寅四月十七日誕生、母喜入家家臣

長野六右衛門祐次女、

○俊員依無世子爲猶子、實喜入家家臣有川權兵衛

貞堅之三男也、

女子

○早世、

俊筠

初久近 德次郎 十助 木工右衛門 與左衛

門

○萬治元年戊戌十一月二十五日誕生、母喜入家家

臣伊集院嘉兵衛忠重女、

○正德四年之春家嫡藏人久矩命曰、於俊筠家者嫡

子代代如元冒伊集院號、至二男以下之家者、自

今以后可避伊集院號改末野云爾、

俊平

號末野、初久家 又久隅 龜菊 與兵衛

與三左衛門

○寛文四年甲辰八月二十二日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

女子

喜入家臣長野五右衛門祐持妻、

○母同前、

女子

○母喜入家家臣藤田覺兵衛經次女、

女子

○母喜入家家臣前田源太左衛門政次女、

俊成

初久次 十兵衛

○元祿十一年戊寅九月二十一日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊恆

初久次 二之助

○寶永七年庚寅九月四日誕生、

俊昌

初久達 又久好 德次郎 與市兵衛 盛兵衛

○貞享二年乙丑七月六日誕生、母喜入家家臣四本

見卜忠爲女、

女子

○母喜入家家臣有川權兵衛貞堅女、

女子

○母同前、

俊玄

德次郎

○正德元年辛卯七月九日誕生、母同前、

○正德四年甲午五月十七日早世、法號藤室幼本、

忠吉

宮内左衛門

○於根占戰死、

僧

鹿籠神護院住持、

忠連

宮内左衛門

○於豐後岩屋戰死、

僧

忠滿

壹岐 九左衛門

○寛文六年丙午十二月二十日死、年八十五、法號天

翁全長、

忠重

初久常 賀兵衛

○慶長十四年己酉三月十五日誕生、

○慶安二年己丑十一月九日死、年四十、法號寒窓雲月、

忠勝

初忠友 彦右衛門

○萬治元年戊戌十一月十三日死、年四十五、法號

月嶺淨心、

久戡

初忠英 休助 宮内左衛門 次郎兵衛 次兵

衛

○寛永二十年癸未九月二十日誕生、母喜入家家臣
久保田與兵衛信利女、

○寶永八年辛卯四月二十三日死、法號洞屋壽仙、

久次

菊松 領右衛門

○母同前、

○天和四年甲子即貞享元年也三月二十二日死、法號香山

林清、

俊親

號末野、初久利 五郎兵衛 領右衛門

○久次無世子故爲猶子、實喜入家家臣田代五右

衛門清房之三男也、

女子

○母喜入家家臣池内仁右衛門孝宗女、

女子

○母同前、

俊信

號末野、初久隆 彌四郎 平兵衛

○延寶四年丙辰二月二十二日誕生、母喜入家家臣

高城半右衛門重次女、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

女子

喜入家家臣長野武右衛門祐盈妻、

○母同前、

俊恆

號末野、初久昭 萬次郎 次七 勘兵衛

○貞享五年戊辰即元祿元年四月四日誕生、母同前、

○與兄俊信同改末野、

女子

○母喜入家家臣田代惣右衛門清親女、

○早世、

俊苗

萬次郎

○寶永五年戊子八月九日誕生、母喜入家家臣四本六

兵衛俊春女、

○正徳四年(マダ)午四月十六日早世、法號碎岩權露、

女子

○母同前、

○早世、

女子

肝付家家臣肝付領右衛門兼良妻、

○母喜入家家臣藤田覺右衛門經次女、

女子

喜入家家臣伊集院與右衛門久持妻、

○母同前、

久行

初忠辰 千熊 十助 九兵衛 民部左衛門 治

右衛門

○寛永十六年己卯四月八日誕生、母同前、

○貞享四年丁卯二月六日死、年四十九、法號花窓淨

心、

女子

喜入家家臣鮫島權右衛門宗次妻、

○母同前、

女子

喜入家家臣久木田佐左衛門重澄妻、

○母喜入家家臣久木田仲左衛門女、

久呂

十千代 主水 賀兵衛

○寛文十二年壬子二月十一日誕生、母同前、

○元祿八年乙亥七月十七日死、法名了明、號清庵、

女子

喜入家家臣小城慶右衛門祐寛妻、

○母同前、

俊映

號末野、初久林 千次郎 十郎 治右衛門

○延寶八年庚申十一月五日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之命、避伊集院改末野、

俊如

千次郎

○寶永三年丙戌十一月晦日誕生、母喜入家家臣池内

仁右衛門孝宗女、

女子

○母同前、

俊榮

初久軌 千熊 賀兵衛

○元祿五年壬申六月十四日誕生、母喜入家家臣岩田

市兵衛兼次女、

○正德三年之夏、受嫡家藏人久矩之命、當家之實名

自今以後避久忠字改俊字、庶族同之、且正德四年

之春於俊榮家者嫡子代代如元冒伊集院氏、至二男

以下之家者避伊集院而可改末野號、是亦因家嫡之

命也、

女子

○母同前、

伊集院右衛門佑久昌一流系圖

久昌

號伊集院、初久次 右衛門佑

○今給黎家元祖長門守久俊之二男也、

○久昌與魯笑之交二三代闕之、再可考之、

久通

右衛門兵衛 治部少輔 下野守 入道名魯笑、

○轉補隅州牛根及踊等之地頭職、

○天正十五年丁亥九月十二日死、法號圓和性通居士、

久實

伊賀守

○蒙 相模守忠良入道日新公之命而、爲島津右馬頭

忠將之家臣矣、

○子孫記別紙、

○法名花雲善香、

久次

備後守 入道名宗玉、

女子

池袋越後妻、

久成

市右衛門尉 備後守

久堅

孫次郎 土佐守

○久成依無世子爲猶子、實寺山土佐守子也、

○寬永七年庚午七月三日死、法名仲岩全昌居士、

女子

久堅妻、

○母福崎某女、

女子

伊集院左近久清妻、

○母同前、

女子

鹿島太郎兵衛國豐妻、

○母同前、

女子

弟子丸右京宗茂妻、

○母久成女、

久榮

初久明 虎松 孫次郎 仁右衛門

○寬永五年戊辰十月二十二日誕生、母同前、

○元祿十三年庚辰十二月七日死、法名眞室道如居士、

士、

久次

松千代

○承應二年癸巳誕生、母山田主計有尊女、

○寬文二年壬寅四月二日早世、法名花散涼園居士、

女子

伊集院甚兵衛忠次妻、

○母同前、

久次

孫次郎

○寬文八年戊申三月十七日誕生、母同前、

○貞享四年丁卯九月晦日死、法名月岩了心居士、

俊矩

初久矩 兵右衛門 仁左衛門

○寬文十一年辛亥八月二十五日誕生、母同前、

○此家勤小番矣、

俊盈

龍之助

○元祿十五年壬午八月二十八日誕生、母石原千右衛

門信昌女、

久英

八郎

○母新納左京亮忠祐女、

○十二月十八日不傳年号死、年十九、法名梅寒清香居士、

久治

三郎兵衛 下野守 入道名抱節、

○天文三年甲午誕生、母同前、

○丁 太守義久公之代任家老職、

『正文在伊集院右衛門』

▽①伊集院下野守殿

義久△

○隣國之凶徒依防戰、致粉骨忠節之段、尤以神妙者也、弥可勵軍功之狀如件、

天正九年三月九日

義久(花押)

伊集院下野守殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」一一九三号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽①伊集院下野守殿

義久△

○累年軍忠之儀神妙之處、殊更去冬於豐州歲滿表一戰之刻、別而粉骨之段、謹令感早、倍不易之鬱憤

○轉補日州福島院及隅州櫻島・同高山・薩州市來・

同出水等之地頭職、

○自 義久公・義弘公・忠恆公所賜之文獻等有數通、
左記焉、

可爲專愉者也、仍狀如件、

天正拾五年三月十七日

義久(花押)

伊集院下野守殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」二六〇号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○熊用壹封候、仍可上洛之由候条、此節者先と被

相留、京都御用等以使節可被申上候事肝要候由、

先日申越候、然者當國立柄諸事心遣迄候、鹿之老

名兼よりも頻申留候へと被申越候、案中候、云裕

云恰此節者上洛是非以可有停止候、於無相違者、

向後可爲祝着候、恐と謹言、

三月^⑥二日

義弘(花押)

伊集院下野入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」二七六号・二九六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽④伊集院下野入道殿

義弘△

○爰元之仕合無替儀、義久様御下向之儀可爲近之由候之条、目出候、仍其元辛勞之躰押計笑止存候、併其方於進退之儀者、我等ニまかせ候へく候、雖爲少所、居所等悉皆可相存候之間、被得其意肝要候、好便之条、先染筆候、猶追而可申候、恐々

謹言、

『天正十六年』

八月十九日

義弘(花押)

伊集院下野入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編」二五〇六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○魯笑已來到于今、内外共別而被致奉公、尤神妙之至也、殊今度深々以神載被顯心底、頼母數令欣悅早、弥可被抽忠貞之狀如件、

天正拾七年七月二日

(義久) 龍伯(花押)

伊集院下野入道殿

(久治)

(本文書ハ「旧記雜錄後編」二五九五号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○奥州伊達上洛致遅々ニ付て、可被指御人衆敷之由候之處、去四日与風令上洛、京都弥御靜謐之躰候、然者屋形作之事、彼是 竜伯様御下向已前雖御談合申上候、弥在京之始末不大方仕合ニ候之条、鎌田出雲守差下候、各遂熟談別而馳走頼入候、從御前可被仰出儀候之間、不能一二候、猶追而可申候也、謹言、

『天正十九年』

二月十六日

義弘(花押)

伊集院下野入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編」二七四一号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽④伊集院下野入道殿

義弘△

○以神載甚深被顯心底趣、條々尤神妙候、誠爲當家

之、爲我等父子之、感悅之至難謝儀候、

春日・八幡・天滿大自在天神御照覽、爲拙者者不

可有別儀候間、弥無相違、向後對忠恆別而添心、

可被拙忠節事、偏頼入之狀如件、

文祿四年二月廿二日 義弘(花押)

伊集院下野入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」一四六五号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽伊集院下野入道殿

龍伯△

○今度三ヶ条以神載深甚被顯心底、誠爲當家之、爲

我等、旁神妙候、春日・八幡・天滿天神茂御照覽、

何様同心之儀毛頭不可有忘却者也、

文祿四年 二月廿八日 竜伯(花押)

伊集院下野入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」一四六九号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○猶々朝鮮京都之上墨之繪圖差越候、彼圖之こ

とく候する墨心懸候て所持仕、進上有へく候、

惡墨ハ彼圖之ことく候共無望候、爲心得候、

累年之在陳辛勞之至候、然者半右衛門尉事、一節

名代憑度之由、今度言上候、可然存事ニ候、彼仁

此中召仕候、別儀有ましき様ニ見得候間、分別次

第ニ候、兼又御哥會、花見など之詠哥書付差越候、

一覽有へく候、仍樽壹荷進之候、可有賞翫候也、

恐々謹言、

文祿四年 五月廿日

(伊集院久治) 抱節

竜伯(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」一五二〇号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○猶々 龍伯様致御供下國候通、先条ニ申候へ

共、此度御取亂ニ各在京候之条、先我等一人

可罷下由、石治少より承候、斟酌深重ニ候へ共、任公儀罷下候、已上、

其表永く在陣辛勞之至、不及是非候、併別成事も無之由候、尤珍重候、京都無吳儀候、其地御番御普請等之儀、弥不可有由斷候、就中切く本陣へ罷出令勤仕之由、從忠恆所被申越候、神妙存候、尙以可入念儀肝要候、兼又國中人數之事所替之儀、大閣様被仰出候間、應其旨 龍伯様致御供令下國事に候、猶於様子者此使可申候、謹言、

『文祿四年』
七月十三日

義弘(花押)

伊集院抱節(久治)

〔本文書ハ「旧記雜錄後編二」一五六六号文書ト同文ナリ〕

『正文在伊集院右衛門』



(角印文義久)

○薩州・隅州之内を以目錄別紙在之事、今度幽齋老任御吳見被宛行候、被全領知、可被抽奉公忠節由

候、恐く謹言、

九月廿七日 町田出羽守
久倍(花押)

(伊集院久治)
抱節老

〔本文書ハ「旧記雜錄後編二」九六七号文書ト同文ナリ〕

『正文在伊集院右衛門』

▽伊集院下野入道殿△

○今度國本就改易、諸侍知行支配等之儀、一切無案内候条、始末之首尾萬端不審之至候、雖然 龍伯様 武庫様以御在國被仰付候間、定各之儀宜可被加御意候、若不可然御沙汰雖在之、連く不顧身上之安危、奉公之忠節無比類儀、片時も無忘却候条、縱 御兩殿雖不被成御同心、頻申調、別而知行可宛行候条、於進退之儀者無氣遣、弥可被抽忠貞候、仍證狀如件、

文祿五年正月十四日 (家久)
忠恆(花押)

伊集院下野入道殿(久造)(本文書ハ「旧記雜錄後編三」五号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○累年被持來候知行、檢地以後忽なみ相替、無便返地、剩少分之由、堪忍跡可難成儀推量前候、内々如測底、今度知行沙汰之儀、一圓雖無案内候、向後國家可相守儀候間、龍伯様 武庫様へ得御意、諸侍安堵させへき鬱憤候、就中各事、別而知行等可令入魂之旨、兼日遣證文置候、乍去分量之儀未申出候、國之様子ニより多少之儀、此刻雖難計候、先三千石程可申付内意候、以此旨、一節悴者以下相抱、忠儀簡要候之狀如件、

文祿五年 六月廿四日 (家久) 忠恆 (花押)

(伊集院久造) 抱節

(本文書ハ「旧記雜錄後編三」七六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽①以上△

○永々在番辛勞之儀、中々申も疎ニ候、仍大明勅使無吳儀來朝、誠珍重之至候、大閣様被成御對面候者、追付被爲歸帆、其表之儀も可爲引陣之由候之処、去月十二大地震、以之外之儀にて、地下之事ハ不及申、大坂・伏見 御殿令破損候、御普請已下御取亂ニ付而、勅使御對面之儀、于今御延引候、定急度可相濟候条、各歸朝不可有程候、不及申候へ共、勤番之儀油斷有間敷候、恐々謹言、

『慶長元年』 八月十日 義弘 (花押)

伊集院下野入道殿(久造)(本文書ハ「旧記雜錄後編三」九九号文書ト同文ナリ、但シ九九号文書ニハ「文祿五年カ」トアリ)

『正文在伊集院右衛門』

○其表へ永々軍勢不及是非候、殊更赤國入之儀、重疊心遣たるへく候、然者 又八郎殿若輩ニ御座候

間、軍法之儀に入魂頼入候、定而義弘^〆可被仰付候へ共、涯分頼入候、仍任見來鞆壹懸茶色進之候、

猶期後音之時候、恐^〆謹言、

『慶長二年』
七月三日

(伊集院久治)
抱節

(義久)
竜伯 (花押)

(本文書ハ「旧記雜録後編三」二五〇号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○今度於高麗得大利候爲御褒美、御知行拜領、殊被

任少將候之儀、寔以播面目候、然処從 竜伯様去

廿日ニ御重物被成御渡、打續慶事不可過之候、然

者御國之儀 龍伯様・武庫様得御意、種々申付候、

就其出水地頭之儀、其方へ可頼申旨、 御兩殿へ

申入候、寔從 龍伯様可被仰聞候間、隨 御意弥

可被入精候、出水表之儀者別而心遣候故、如此候

間不可有辭退候、謹言、

『慶長四年』
二月廿四日

(家久)
忠恆 (花押)

伊集院下野入道殿^(久治)

(本文書ハ「旧記雜録後編三」六六二号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○其地在番之由、辛勞之至候、時分柄之儀候間、無

緩勤番簡要候、此方へ可被相越儀、此節者無用候、

用段於有之者、從是可申越候、仍庄内之儀先差越

使者、下城之儀申聞候、於無承引者、可及發向地

盤候、猶追而可申候、謹言、

『慶長四年』
五月八日

(久治)
抱節

(家久)
忠恆 (花押)

(本文書ハ「旧記雜録後編三」七三八号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○其表爲見廻、于今滞留之由、誠辛勞之至候、時分

柄之儀候間、弥無^{⑨油}由^{⑨者}斷候^{⑨而}、可爲祝着候、就

中普請等之儀も相應ニ被申付肝要候、猶期後音候、

謹言、

『慶長四年』

七月十三日

維新(義弘)
(花押)

伊集院下野(久治)
入道殿

(本文書ハ、「旧記雜錄後編三」一八〇号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

▽の以上△

○庄内表江在陣之由、寒中之苦勞察存計候、然者其

元御置目・諸法度已下、無緩於被仰付者、御勝利

之儀者案中候、雖不及申候、諸事油斷有間敷候、

就中山口勘兵衛丞殿爲 上使御下向候間、其元弥

無狼之様被申付専用候、上方一段御無事候、猶追

々可申候、謹言、

『慶長四年』
十一月廿五日

維新(義弘)
(花押)

抱節(久治)

(本文書ハ、「旧記雜錄後編三」一九六号文書ト同文ナリ)

『正文在伊集院右衛門』

○ 猶くいんろう・香箱雖無然々候、指道候、以

上、

別府舍人佐上洛之刻、一段見事之卷臺到來、令祝

着候、涯分秘藏此事候、仍 内府様近日御上國候

間、御目見得相濟次第、吉左右可申下候、於爰元

之儀者、御仕合無殘所候条、可心易候、謹言、

『慶長七年』
十二月廿三日

忠恆(家久)
(花押)

抱節(伊集院久治)

(本文書ハ、「旧記雜錄後編三」一七五号文書ト同文ナリ)

○慶長十二年丁未十月二十八日死、年七十四、法名

龍岳盛眞居士、

久寛

源七郎 又左衛門

母同前、

○二十五歳而死、法名峯山淨仙居士、

女子

早世、

久元

七郎三郎 伴右衛門

○爲伯父久治入道抱節之猶子、

久清

左近

○母伊東權之頭女、

○久元爲伯父抱節之猶子、故久清相續久寬之家、

實伊勢平左衛門貞成之二男也、

○延寶五年丁巳閏十二月二十日死、法名梅岩玄香

居士、

久武

又右衛門

○母曾我淡路祐等女、

○久清無世子故爲養子、實甲斐掃部助重則之三男

也、

○元祿十年丁丑六月二十六日死、法名三了源達居

士、

俊盛

初重有 久倍 次左衛門 半左衛門

○寬文三年癸卯十一月二十日誕生、母薩州中鄉土

坂元民部左衛門重元女、

○久武無嗣子而死、故正德二年七月三日蒙恩免爲

後嗣、實薩州中鄉土河島彌左衛門重宣之三男也、

女子

○母中鄉土石野田次郎右衛門重盈女、

女子

○母同前、

俊長

初久有 次太夫

○元祿十六年癸未正月二十八日誕生、母同前、

女子

喜入攝津守忠政妻、

○母福島院黃體先達女、

男子

字千代次丸 又三部丸

○天正十年壬午誕生、母同前、

○文祿三年甲午五月十六日早世、年十三、法名心岳

玄芳居士、

男子

五歲夭亡、

○母同前、

男子

孫太郎

○母同前、

○正月二十一日不傳年號死、年十六、法名松山貞公上座、

久元

七郎三郎 伴右衛門

○伯父抱節依無世子以爲猶子連續富家、實同氏又左

衛門久寬之嫡男也、

○轉補隅州財部・薩州大口等之地頭職、

○元和四年戊午四月六日於武州江戶死、法名月岑宗

印居士、

忠榮

初忠廣 右馬助

○慶長十二年丁未八月五日誕生、母上井伊勢守覺兼

女、

○久元無一子之續家者而死亡矣、以故爲後嗣連續當

家、實北鄉加賀守三久之二男也、

○寬永八年辛未四月二十七日死、法名月憲淨心居士、

久治

熊千代 掃部助

○寬永八年辛未八月朔日誕生、母大久保備前忠將女、

○爲北郷久次郎久純之猶子也、

久國

初忠良 藤松丸 右衛門佐

○寬永三年丙寅十一月二十六日誕生、母鎌田播磨守

政重女、

○忠榮早世矣、雖有一子未出襁褓也、是以爲忠榮之

後嗣、實 太守黃門家久卿之庶子也、

○任與頭、

○轉補薩州田布施及川邊等之地頭職、

○寬文元年辛丑六月二十五日死、法名芳岩永春居士、

男子

藤松丸

○萬治二年己亥十月九日誕生、母迫田八兵衛女、

久孟
○寬文二年壬寅十月二十四日死、法名幽室泡煙童子、

初久利 又忠敦 兵吉郎 伴兵衛 將監 入道

名意漸、

○寬永十八年辛巳十月十二日誕生、母山田民部少輔

有榮女、

○久國一子早世以故爲猶子連續當家、實島津兵庫頭

忠朗之二男也、

○延寶五年十二月爲拜領御鷹之鶴謝禮、使久孟赴江

府、依之翌年二月奉拜謁

將軍家綱公拜戴御時服矣、

○天和二年七月 光久公歸國、故久孟爲使節赴東武、

仍奉拜

將軍綱吉公頂戴御衣服矣、

○貞享二年八月 綱貴公歸國、故久孟勤使節、此般

亦奉拜謁

將軍家賜御衣服矣、

○任番頭及與頭、

○轉補薩州川邊郡山田及隅州清水・同踊等之地頭職、

女子

○母町田勘解由忠代女、

○早世、

女子

○母同前、

○早世、

男子

兵吉郎

○延寶四年丙辰八月五日誕生、母同前、

○延寶六年戊午七月九日夭亡、法名紅露心蓮童子、

久盈

德千代 監物 內記 伴右衛門

○延寶七年己未十月二日誕生、母同前、

○元祿三年十一月十五日元服、太守綱貴公爲加冠、

加之拜領寶刀、理髮平田新左衛門宗正也、

○正德三年之春、肝屬主殿兼柄傳 高命曰、於久盈

家嫡子代代免許久之字、二男以下不許焉、同年之

夏家嫡藏人久矩受 命傳曰、當家之氏族不免許久

之字之家者避久忠字、以俊字可爲實名之字、云尔、

故久盈之庶族皆用俊字矣、

○此家至家督等之時謁 太守公、則奉獻御太刀二種

一荷、且一所持格之家格也、

女子

○母同前、

○早世、

久富

德千代 德之丞 伴太夫

○元祿十七年甲申即寶永元年也二月二十八日誕生、母新納主

稅久品女、

○正德三年正月二十八日元服、太守吉貴公辱加冠、

加焉賜寶刀、理髮肝屬主殿兼柄也、

俊

袈裟德

○寶永三年丙戌十二月十日誕生、母同前、

伊集院伊賀守久實一流之系圖

久實

伊賀守

○伊集院右衛門佑久昌家之二男、

○天文十年十月四日、蒙 島津相模守忠良入道日新

公之 嚴命、爲島津右馬頭忠將之家臣也、

○文祿三年甲午二月十五日死、法名花雲善香、

神祇

○母調所兵部少輔女、

○早世、法名賀翁常慶、

久教

吉左衛門

○母同前、

○慶長九年甲辰、從右馬頭以久讓家嫡於嫡子久乘、

携二男忠光住日州佐土原矣、

○寬永二年乙丑五月五日死、法名蘭馨全忠、

忠增

三郎右衛門

○母同前、

○子孫島津又四郎久敏之家臣而在隅州垂水、

○明曆二年丙申五月十二日死、法名丹安宗山、

忠行

十左衛門

○母垂水家臣島田郷右衛門基長女、

○延寶四年丙辰十一月十六日死、法名朔心宗三、

忠盈

藤左衛門

○母同前、

○元祿四年辛未十一月二十日死、法名起外全昌、

女子

垂水家臣樺山吉兵衛久榮妻、

○母同前、

女子

垂水家臣町田源太兵衛俊尊妻、

俊映

初久倫 彦兵衛 藤左衛門

○正保四年丁亥六月朔日誕生、母隅州高山士小

野原九郎左衛門女、

俊清

號末野、初久基 佐左衛門

○寛文十年庚戌二月十七日誕生、母垂水家臣園

田源兵衛實堅女、

○正徳四年三月八日、受家嫡藏人久矩之令、避

伊集院氏號末野、

俊常

號末野、初久職 藤兵衛

○延寶二年甲寅三月二十二日誕生、母同前、

女子

垂水家臣梅本權五右衛門俊政妻、

○母同前、

女子

垂水家臣梅本十郎兵衛俊尊妻、

○母同前、

俊盛

熊之助

○元祿十一年戊寅三月十四日誕生、母垂水家臣

有馬郷右衛門純長女、

俊倫

彦右衛門

○寶永二年乙酉六月十九日誕生、母同前、

女子

○母垂水家臣德田太郎左衛門女、

女子

○母同前、

俊高

虎助

○正德四年甲午八月二十六日誕生、母同前、

久利

與右衛門

○忠行無實子故爲養子、實伊集院善之丞久武之二

男也、

○元祿十四年辛巳十月二十七日死、法名虎巖玄風、

俊昌

號末野、初忠佐 藤内 權左衛門

○貞享元年甲子二月二十六日誕生、母隅州國分士

蓮香次郎右衛門義昌女、

○久利無世子故爲養子、實伊集院善之丞久之之二

男也、

○正德四年三月八日受家嫡藏人久矩之令、避伊集

院氏號末野、

俊純

藤内

○寶永五年戊子正月二十三日誕生、母垂水家臣樺山

傳兵衛資因女、

俊武

次郎助

○正德元年辛卯十一月二十一日誕生、母同前、

久乘

八兵衛 丹後 吉左衛門

○母垂水家臣町田周防忠房女、

○島津又四郎久敏之家臣而、子孫在隅州垂水、

○慶安三年庚寅六月十七日死、法名雄山全英、

忠光

權之助

○母同前、

○慶長年間從島津右馬頭以久移日州佐土原、

○子孫記別楮、

○法名大椿昌元、

女子

佐土原家臣樺山清右衛門久敦妻、

○母妾、

久堅

茂兵衛

○母同前、

○與兄忠光相俱住日州佐土原、

○子孫記別楮、

○法名功岩宗泉、

久武

善之丞

○慶長六年辛丑三月十三日誕生、母垂水家臣和田源

左衛門家元女、

○寛文三年癸卯十二月八日死、法名月山宗桂、

久代

半左衛門

○慶長十三年戊申六月十三日誕生、母同前、

○元祿四年辛未九月八日死、法名慶傳來喜、

久賢

治右衛門

○元和五年己未誕生、母同前、

○天和二年壬戌十一月二十五日死、法名道恕一
要、

久祇

七右衛門 茂次右衛門

○寛永二十年癸未誕生、母薩州谷山土岩永與助
女、

○元祿九年丙子九月二十日死、法名傑岑存英、

出家

學峯

○母同前、

女子

隅州櫻島土有村喜左衛門女、

○母同前、

女子

垂水家臣中条木工太兵衛義昌妻、

○母垂水家臣奥正兵衛秀延女、

俊岑

號末野、初忠房 勘之助 治右衛門

○延寶三年乙卯九月十二日誕生、母同前、

○正徳四年三月八日、受家嫡藏人久矩之命、避

伊集院氏改末野、

俊候

號末野、初久意 八兵衛

○貞享四年丁卯十一月四日誕生、母同前、

俊澄

七右衛門

○元祿十五年壬午四月八日誕生、母垂水家臣前田

九郎兵衛清次女、

俊守

茂左衛門

○寶永三年丙戌十一月三日誕生、母同前、

久生

覺左衛門

○寬永十七年庚辰四月十二日誕生、母隅州高山士

永峯大炊左衛門女、

○延寶七年己未八月十二日死、法名峯雲全孤、

久辰

傳左衛門

○寬永二十年癸未十月六日誕生、母同前、

○正德元年辛卯十一月十九日死、法名超翁淨然、

女子

垂水家臣梅本覺左衛門俊益妻、

○母垂水家臣小原兵右衛門久及女、

俊計

號末野、初久遠 助太夫

○延寶二年甲寅正月六日誕生、母垂水家臣小原

清之丞久康女、

○正德四年三月八日、受家嫡藏人久矩之令、避

伊集院氏改末野、

俊助

權次郎 次兵衛

○元祿十三年庚辰七月二十七日誕生、母垂水家臣

安藤仁左衛門宗益女、

俊代

熊次郎

○正德元年辛卯二月二日誕生、母同前、

俊興

號末野、初久傳 權太郎 孝左衛門

○寬文六年丙午二月二十七日誕生、母垂水家臣川

上六太夫久浪女、

○正德四年三月八日、受家嫡藏人久矩之命、避伊

集院氏改末野、

女子

島津圖書久方家臣鎌田休右衛門妻、

○母同前、

女子

垂水家臣鞍岡彌三左衛門重通妻、

○母垂水家臣高野市左衛門重昌女、

俊述

權太郎 半左衛門

○元祿十年丁丑二月四日誕生、母同前、

女子

垂水家臣江藤長左衛門爲盈妻、

○母隅州國分士伊瀨地勘解由義秀女、

久之

勘太郎 八兵衛 吉左衛門 善之丞

○寬永十五年戊寅三月十二日誕生、母同前、

○正德三年癸巳四月二十二日死、法名五通方便、

久利

與右衛門

○寬永二十年癸未十二月二十五日誕生、母同前、

○爲垂水家臣伊集院十左衛門忠行之養子、

俊眞

初忠貞 勘太郎 權右衛門 吉左衛門

○寬文三年癸卯十一月十五日誕生、母隅州國分士蓮

香次郎右衛門義昌女、

○此家者 相模守忠良入道日新公所附屬島津右馬頭

忠將之士也、以故此家自今以後、嫡子代代如元冒

伊集院氏、二男以下避伊集院氏當改末野、正德四

年三月八日家嫡藏人久矩受法制傳之、故庶流號末

野矣、

久寧

勘八

○寛文九年己酉三月四日誕生、母同前、

○天和三年癸亥十一月十四日死、法名空山露身、

女子

垂水家臣安山七郎右衛門親彌妻、

○母同前、

俊昌

號末野、初忠佑 藤内 權左衛門

○貞享元年甲子二月二十六日誕生、母同前、

○爲垂水家臣伊集院與右衛門久利之猶子、

俊親

初久明 勘太郎 吉太夫

○元祿十一年戊寅二月十七日誕生、母隅州國分土楠

本利兵衛重信女、

俊信

號末野、吉次郎 八十右衛門

○元祿十三年庚辰七月二十四日誕生、母同前、

女子

○母同前、

伊集院氏庶流

伊集院權之助忠光一流系圖

△忠光

善之丞 權之助

○天正十九年辛卯三月八日誕生、母不詳、

○忠光者伊集院久昌之二男伊賀守久實二代吉左衛門

久教之二男而、子孫延爲島津淡路守惟久之家臣、

住日州佐土原、

○元和八年壬戌恩賜父久教祿、爲三納外城地頭職、

且勤旅家老、

○寛永十七年庚辰十一月十九日死、享年五十、法名

大椿昌元大居士、

女子

樺山清右衛門久敦室、

久堅

藏二郎 茂兵衛

○慶長十七年壬子二月十二日誕生、母不詳、

○寬永十六年己卯七月十一日死、享年二十八、法名

功岩宗泉居士、

久尙

佐左衛門 權之助

○慶長十八年癸丑五月十八日誕生、母飢肥之住矢野

河内入道閑清齋女、

○寬永十八年辛巳續父忠光遺跡、且爲三納外城地頭

職勤旅家老、

○寬文八年戊申六月十六日死、享年五十六、法名本

有要源居士、

通春

初忠常 熊之助 吉右衛門

○爲三島平右衛門養子、

○元和二年丙辰五月十七日誕生、母右同、

○延寶二年甲寅六月二十一日死、享年五十九、法名

淨圓了覺居士、

久達

初忠房 彌次右衛門

○爲町田隼人久康養子、

○元和四年戊午八月二十八日誕生、母右同、

○元祿二年己巳七月二十九日死、享年七十二、法名

道勝瑞現居士、

女子

樺山清右衛門久主室、○母右同、

久亮

善一郎 熊之助 吉左衛門

○寬永九年壬申二月九日誕生、母者自伊集院新右衛

門忠利家來嫁、實忠利不骨肉親、養爲女者也、

○家傳曰、伊集院幸侃孫也、都之城降後漂泊於民間、時忠利在佐土原、以故主好憐密呼來隱深闔處、及年長以吾女妻久尙云云、

○寬文三年癸卯父久尙羅病不起、久亮恩賜父久尙祿爲三納外城地頭職勳旅家老、

○寬文九年己酉五月十六日死、享年三十八、法名運州良籌居士、

通尊

初久尊 周防 采女 權右衛門

○爲富田清左衛門養子、

○寬永十八年辛巳八月十日誕生、母右同、

○寬文九年己酉五月二十二日死、享年二十九、法名

德源常堪上座、

女子

島津右京久退室、○母右同、

久屋

八右衛門

○慶安元年戊子四月十三日誕生、母右同、

○寬文十三年癸丑五月十二日死、享年二十六、法名實叟元參居士、

女子

神宮寺外記純正室、○母宇宿吉左衛門久際女、

久次

金太郎

○明曆三年丁酉二月十五日誕生、母右同、

○寬文九年己酉七月二十五日死、享年十三、法名華

葉性權居士、

女子

伊集院半左衛門久林室、○母右同、

久主

善之丞 主稅

○寬文六年丙午正月八日誕生、母右同、

○貞享二年乙丑正月十一日死、享年二十、法名芳岩

良春居士、

教道

初久治 千代猿 丹後 吉左衛門 權之助

○寛文八年戊申九月二十五日誕生、母三雲半右衛門

種重女、實者伊集院茂兵衛久近二男爲久主養子、

○正德三年癸巳十一月九日惟久應三州 太守吉貴公

命令諸士、其元祖 御家系庶流而、其脉派遠疎者

避會稱來 御諱字可代以在累祖字是者爲冠字云云、

因茲吾字以教字爲冠者也、

○正德元年辛卯九月十五日勤番頭、

○正德二年壬辰二月二十三日爲三才地頭職、

教當

初久重 源太郎 善之丞

○元祿四年辛未二月七日誕生、母澁谷清太夫重泰女、

女子

○母右同、

房恭

初久次 教宅 熊次郎

○爲町田權七郎房卿養子、

○元祿十六年癸未三月十六日誕生、母右同、

教次

初久次 三五郎

○正德二年壬辰四月十一日誕生、母日高七左衛門重

記女、

伊集院氏庶流

伊集院茂兵衛久堅一流系圖

久堅

藏次郎 茂兵衛

○慶長十七年壬子二月十二日誕生、母不知、

○久堅者伊集院久昌之二男伊賀守久實二代吉左衛門

久教之三男而、延爲島津淡路守惟久之家臣、在日

州佐土原、

○元和八年壬戌父久教隱居、時忝賜新恩地百石於久教、而後以彼百石讓久堅、故久堅別樹家、

○寬永十六年己卯七月十一日死、享年二十八、法名功岩宗泉居士、

久近

權十郎 善之丞 茂兵衛

○寬永十四年丁丑正月十日誕生、母上田作左衛門常際女、

○寶永三年丙戌十二月十七日死、享年七十、法名大用道了居士、

堅昵

初久林 善一郎 數馬 吉右衛門 半左衛門

○萬治三年庚子正月五日誕生、母三雲半右衛門種重女、

久治

千代猿 丹後 吉左衛門 權之助

○寬文八年戊申九月二十五日誕生、母右同、

○爲伊集院主稅久主之養子、而改權之助教道、

女子

米良休左衛門武實室、

○母右同、

堅保

初久寬 虎千代 九左衛門 次右衛門

○天和二年壬戌十月九日誕生、母右同、

女子

狩野太郎右衛門安之室、

○母日高七左衛門重記女、

堅慶

初久賢 丹後 熊之助 吉左衛門

○貞享三年丙寅九月二十八日誕生、母右同、

○正德三年癸巳十一月九日、惟久應 太守吉貴公命
令諸士、其元祖 御家系庶流而其脉派遠疎者避會
稱來 御諱字、可代以在累祖字是者爲冠字云云、
因茲吾字以堅字爲冠者也、

堅廷

初久暢 善三郎 與右衛門

○元祿二年己巳十月二日誕生、母右同、

女子

日高大炊左衛門重次室、

○母右同、

堅德

初久次 八十郎

○寶永四年丁亥二月十六日誕生、母右同、

伊集院長門守久綱一流系圖

久綱

號伊集院、初久成 源七郎 助八郎 長門守
○今給黎家元祖長門守久俊之三男也、

久安

助三郎

久敏

助八郎 藏人頭 長門守

○久敏與久宗之交一二代闕之、故官途受領諱以下共
以不得記之、家珍系圖會回祿災之故也、再考焉以
有全其脉絡者是幸、

久宗

助八郎

女子

海晏和尚

○薩州伊作多寶寺住持、

○文祿三年甲午十一月二十九日遷化、

久次

助八郎

○二十一歲而死、

久信

初久春 千代 源助 肥前守 入道名元巢、

○天文十二年癸卯誕生、母伊地知左近將監重貞女、

○當 太守義弘公之代補家老職、

○天正十五年丁亥八月二十七日、 太守兵庫頭義弘

主賜感牘、記左、

66 『正文在當家』

○度々高名、殊今度於豐州切加部・坂梨粉骨軍勞之

段、無比類候、弥可抽忠勲事肝要、仍馬一疋青毛印 飛雀

遣之候也、

天正拾五

八月廿七日

伊集院肥前守殿久信

義弘(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄後編二」三七一号文書ト同文ナリ)

○補日州蓬原志布志之内之地頭職、且轉補隅州清水及横川

等之地頭職、而後賜日州飯野地頭職移住飯野、

○久信迨三五之歲、則手于戈與弧矢、從東西之戰場、

既迄老體、而不顧軍務之勞、有勇敢譽者其數多矣、

正興現住文之和尙、聞元巢之武功所流布之實、書

一紙以昇予、全記左方、

○ 決勝記運籌帷幄、決勝千里、故以此言名此書云云

原夫島津高祖忠久公者、

日本右大將賴朝第三公子、而知薩・隅・日三州也

尙矣、於是世世臣事我、

島津氏者有同姓、有異姓、皆是累世譜代之臣也、

雖然其家家有不肖孫子、則爭虞芮之地、以有不君

我君者、甚則不奪

邦君之賦稅、不以爲繫矣、是以一治一亂反覆相尋、然則

邦君豈可不征代之乎哉、雖欲鑿弓矢、而可得乎、因茲

邦君據德游藝之暇、修治攻具砥礪兵器者、不得已也、爰有元巢者、一門之同姓、而自少之時事於貴久、義久兩君之朝、漸迨三五之歲、親手戈矛與弧矢、從軍於東西者、匪翅一日矣、時我島津氏家臣有肝付者、久懷不臣之心、橫掠我廻之城者三五年矣、既而又奪牛祢村、於茲爲討其罪、艤軍艦於牛祢之地、不臣之賊徒、對我義兵、爭鬪者半日、我軍艦之士卒中其流矢者十三人、時元巢十七歲也、在我諸軍之中執弓抽矢、射之以貫強敵臂者、數人竟全師而歸矣、其翌年發義兵於橫川、立陷其城矣、於此之時元巢與強敵鬪、而身中鋒刃流血漂楯矣、其後伊東不道、而掠取我飯野大河平要害、

此時伊東乘勝欲侵我梅木崎村、元巢與前大善坊共提三尺、自間道突出、敵軍塞其膽而弃甲曳兵奔、不得劫奪我村落矣、

永祿丁卯之冬、

貴久 義久兩尊君募數萬勇士、討不臣菱刈、於其攻馬越城之時元巢與賊兵相鬪、身中兵刃矣、

貴久尊君屯陣於湯之尾、有尊命、而元巢率輕勇士卒、徒渡其河發乘矢於賊兵軍中、此時亦有流矢中其肩矣、

貴久尊君即有一戎衣之賜、較其厚恩、則太山何高、滄海何深、令此戎衣傳之孫子、孫子縱雖不肖、而豈可不蒙遺澤、而抽至忠哉、

貴久 義久兩君親著甲冑守馬越藩籬之城、元巢時從軍焉、此時

義久尊君之舍弟兵庫頭義弘守飯野城、伊東屯陳於田原、義弘告

兩君、令元巢從軍於飯野矣、一日有官軍之暇歸於

清水私宅、於此之時不臣肝付遣賊兵我敷祢城、放兵火村村至於上井山郭、一時焦土矣、此日隅州東西之勇士、雲集對於賊兵、賊兵平日運謀於帷幄、有權變權術者匪止一端、以故我軍漸將敗去、元巢親手干戈於敷祢民居、於是賊兵不得搖動我軍、我軍中有脛山者、斬肝付禮部之首、禮部肝付親族、而爲廻城主將、於是賊兵撓敗、輿尸而歸、我軍功成凱奏者元巢之力也、是亦家村若狹守・黑田石見守所得而能知也、

或時肝付率數千之賊兵攻我敷禰城、於此之時濱田民部・德持舍人與元巢三人堅守城門、賊兵不得伺之、敷禰家臣大藏助不幸而雖中鐵炮、而賊兵不得鹹其耳者三人之力也、一日揚數千之義兵刈廻城下之麥苗、是亦軍中之常事也、賊徒亦據嶮岨之固、對我義兵、義兵遂脩而不得敢進、賊兵特險而欲攻擊之、我軍將至覆敗、此時元巢發矢而殪賊兵二人、而身亦中數箭、氣息奄奄、若微家村若狹守、殆至

結其纓矣、賊兵氣焰如然、而其執衝我義兵、義兵亦輝軍容終日相鬪、及夕陽而班師於我地矣、或時我義兵攻祢答院長野城、將師揚旂、威險秋霜、於是澁谷一黨烏合蟻聚、而急追我軍、我軍不得已而覆敗矣、此日元巢在其軍後、全軍而歸矣、此時亦爲流矢所中矣、元巢廿八九之年令我官軍攻下大隅荒平要害、元巢與賊兵鬪而身中鋒鏑、此日

義久尊君顧元巢草庐、親撫其疵、且復有一鋒之恩賜、恩賜之厚千金未以爲重、萬戶未以爲富、元巢頓首血泣以陳謝、丁斯時也、薩州義虎公朝於覺府、此日隨

尊君之駕、賜之弓矢賞其軍功、當疵漸痊、於下大隅提三尺劍、執一人誡、友野甲斐守於今詳記之、甲斐亦執數人之誡、播名譽於國中矣、

鎌田出雲守爲櫻島放崎主將之時、將有事於牛根二河、元巢率數人之諸士、繫船於二河渚邊燒七八之茅屋、出雲守見中流矢、元巢與諸士力勞軍務、全

帥而歸矣、其年九月晦日屯陣於下大隅早崎、即日破濱邊要害、元巢與賊兵戰身中流矢、歸於私宅之時、義久尊君奇

尊駕於元巢草庐、深有恩顧、獨愧未得討賊興復之效矣、是歲肝付賊徒據二河河邊、是亦牛禰與廻城之間、爲通其軍糧也、時

邦君令弟左金吾爲軍艦主將、將攻賊徒、我軍未整部伍、元巢不隨一麾號令突出而賊徒瓜潰、義久尊君以元巢之忘其身而赴敵兵、以爲不知其宜有放遂之命、遁在南林寺者三月矣、其忘身赴敵之一件、東鄉安房守至今詳能記焉、

元巢守日州穗北城之時、伊東之燼長倉勘解由據石之城、將禍於我國家、此時薩隅精兵徒渡大河欲攻石城、石城之固不屑崎函所謂百二山河是也、此日邦君從弟圖書頭手提三尺、將破城門身中鋒鏑、我軍漸將覆敗、此時元巢與賊兵強勇者、交兵相鬪者在我軍諸士之先、卽斬勇士平原左衛門之首、身雖

中鋒刃、全我數百諸軍、於是坂本越後守・白坂佐渡守續元巢共交兵、而執其馘、其聲譽聳動國中矣、肥之前州有有馬者、世世住安德城、州之龍造寺與有馬有隙、是故屯陣於安德者非一朝一夕之故、有馬請救於我

島津氏、素修鄰好也、^(A)遭六千餘騎而救之、一日賊兵將攻安德城、元巢單騎而突然入於二千餘軍中、我軍士福崎新兵衛尉至今詳記之、是日不得攻其城者、元巢單騎之力也、匪啻我州諸軍士知之、肥之前後州人士所明知也、我黨有谷山播磨守・樺山刑部、有許多軍功、非筆舌之所述也、或時我諸軍據肥之後州堅志田之邊地花山、一將未定、元巢守其藩籬者一暮矣、元巢回於私宅之後、阿蘇家臣不從我主之命、私心橫發詐攻我花山城、城不幸而已陷矣、此時木脇刑部丞・鎌田左京亮鬪而死矣、尔來不得運糧於堅志田、一日出我軍士於三舟之境下豐田、元巢亦率橫河數百之兵士、出挑賊兵來、此日

從三舟地數百賊兵、烏合蟻聚欲敵我兵、是亦乘花山之勝也、元巢手提三尺直赴賊兵、賊兵一時爪潰、斬賊兵首者六十三級、此時福崎新兵衛尉大有軍功矣、肥之後州堅志田・高佐陷之時、敵軍七百有餘隔河而交矢、元巢父子馮河而振其勇力、源左衛門尉直前斬強敵首、此時河田大膳亮一手執三人賊、聲響喧動六國矣、

三舟隈之莊仇於我義兵者、匪翅一日鬱憤之餘大揚兵旗、於是人民之歸我義兵者、如草之偃風、商賈農夫亦歌於市扞於野、此時肥筑之境有田尻者、久屈於龍造寺兵、請救於我

邦君、此地有堀切・江之浦兩要害、豐州大友之黨也、此時大友家臣戶次道雪・高橋紹雲屯陣於高良山與寶滿岳、因茲兩要害如狐之假虎威、而猶未屬我幕下、於是元巢爭先誅數十之賊兵、兩要害亦力盡矢竭漸及將陷、雖然

兵庫頭義弘與諸將相議曰、竊兵黷武先賢之所戒

也、事時其中則退亦進也、先完帥而歸於肥之後州、或時有

義久奪君之命制津守・健軍兩城兵事、一日元巢回於隅州橫河私宅、此時阿蘇家臣有光永者、時元巢之亡也、頓起賊徒來竟陷津守・木山兩城、元巢聞賊兵蜂起、即日命駕信宿而至津守城、斬蜂起之將於高森城、且復斬首數十級、源左衛門尉親手戈矛執二人賊、童男童女爲其俘囚者不知幾百、嗚呼一將之殘暴延及民間可不戒乎、元巢在津守之日、將有事於筑紫城、是時

邦君從弟圖書頭爲其主將、時禪山權左金吾提三尺劔親殲渠魁、身雖中鋒刃不膚撓不目逃、其勇氣浩然聳動六國矣、此後率數千兵、十重圍岩屋城、元巢親子與北鄉譜岐守同圍一陣、一日攻岩屋城、我諸兵輝軍容而壯麗奪目、就中宮原左近將監軍容輝日、識與不識無不注其目矣、相良日向守勇氣衝人、諸軍之勢如泰山壓累卵、此日元巢力勵軍功者

不一、河田大膳亮・北郷從者福富織部佐所見明知也、元巢之黨坂本越後守終日勞軍務、手戈矛而殺數人賊徒矣、七月十五日圍岩屋城、至於二十七日陷其城矣、不記其年惜矣、

或時元巢戎於豐之後州切加部城之日、從同州日田郡勇士二千餘欲攻其城、元巢率數百軍士、而單騎而突入於敵軍中、追亡逐北斬首者七十餘級、其後我軍士去切加部欲屯北之里、賊兵追我軍者三里餘、此時源左衛門尉在軍後而賊兵不得追之、就中福崎助兵衛尉在其後而終日勞其軍務、今住薩州和泉一庵、號山內寺者其形僧而其氣猛、雖空門士能鬪而屈人之兵、所謂隨時之宜者也、此時新納武藏守・町田出羽守在北之里、俱共相議曰、見可而進知難而退帥之常也、諸軍同退於湯之浦、其晚屯於坂梨城、樺山權左金吾・弟子丸右京亮整其部伍不量敵、不慮勝、能無懼而全養其勇、誰敢敵之乎、此時相良軍七有羽檄書、書曰、豐州岡之城主志賀

親次率數千騎、圍兩陣於此地、於是我諸軍欲退無路、誠危急存亡之秋也、惟坐而待亡孰焉代之、元巢前爭其先橫赴一陣、陣爪潰矣、我諸軍六伐七伐而止齊焉、於此之時斬首者三百餘級、源左衛門尉亦執三人馘、從僕者鬪而死者七人矣、因茲我軍唱凱歌、然後退於肥州津守城、丁此時也、

太閤殿下秀吉公欲進軍馬我薩州、以故我諸軍左次於八代莊、我軍士宮原筑前守與義虎公從士同守隈之莊、莊內者皆袒肩於畿內諸軍、不得已而宮原亦鬪而死矣、此日桂山城守・新納武藏守・相良日向守共元巢率數百之勇士至於隈之莊城門、令我薩隅諸軍士之在隈之莊者數百人、一麾一呼俱共同歸於八代庄關之城矣、此時松浦筑前守有叛逆心據谷山城固、我軍攻谷山城、城不終朝而陷焉、斬逆心之徒數十人之首、且復俘數百男女矣、八代東西亦袒肩於畿內諸軍、皆以爲逆徒、是故我諸軍假道於求麻、全帥而歸薩州矣、

太閤殿下駐 尊駕於薩州河內泰平寺、請成於我
義久公、公出會於

殿下泰平寺、然相親輔散軍而歸洛陽矣、

太閤殿下秀吉公征伐朝鮮之初、我

兵庫頭義弘率薩・隅・日三州數萬之勇士從軍於

殿下、是時元巢雖老病日薄、而爲

義弘公供奉在朝鮮者七年矣、我日本關西士率有奪

其財、而獨潤身者、有劫其人而用爲僕者、或破書

卷以補其衾、或裂章甫以薦其履、逆理亂常之者、

豈止一人、是故十而三四陷身於鋒刃、以爲鬼而已、

元巢不一從之、無晝無夜不離 義弘尊君之膝下、

其志在見危致命見得恩義、而俟兵家之勝敗者也、

尊君之在朝鮮殆乎七年、當其散軍之日也、匪翅我

幕下之軍士令日本諸將陷於賊中而危身者、一一救

之乃載與俱歸於日本矣、尊君之威武、匪翅喧於日

本雖大明朝鮮無不偃其風者、 義弘尊君爲令兄義

久公之嗣子 義弘世子有 久保公、雖嗣其位、不

幸而蚤薨於朝鮮之地、然後奧州殿下家久公嗣爲世
子、從 貴久尊君至於

家久尊君事於五朝者元巢也、元巢有子有孫、孫又

有子、世世全君臣之義者也、千秋萬歲萬歲千秋、

右此決勝記者爲

伊集院前肥前守沙彌元巢拮據其軍功之一・二以

書之、是故不及諸將諸士之軍功、觀者察焉、

慶長辛亥臘月吉辰

前建長見正興文之玄昌涉筆於隅州正興古寺、

『正文在當家』

○先年於方々之弓箭、因勵軍功 惟新樣御感狀之趣、

名譽無比類候、至子々孫々不相替可抽忠貞旨可被

申讓更、可爲喜悅候也、謹言、

慶長十七年

五月十日

家久（花押）

伊集院肥前入道殿

（本文書ハ「旧記雜錄後編四」九〇〇号文書ト同文ナリ）

○元和二年丙辰九月四日死、年七十三、法名一雄元
巢庵主、

久族

初久時 又久洪 源助 源左衛門尉 遠江守

○永祿六年癸亥十二月二十一日誕生、母奈良原長門
守女、

○寬永五年戊辰家嫡筑前守忠能讓與家督之系圖、是
以為忠能之後嗣委曲記家督之譜中也而兼帶父久信之家、

女子

寂上土佐妻、

○母同前、

久望

延壽坊 小左衛門尉 備後守

○天正十一年癸未四月十日誕生、母川上武藏守女、

○慈父久信附屬采地三百斛於久望、

○慶長五年為加增地、以薩州川邊之内采地百餘斛賜

久望、因茲辭飯野移鹿兒島、為當家二男之仕務
矣、

○寬永十一年賜日州山之口地頭職、且拜領采地二百
斛而移住于山之口、

○正保三年丙戌四月八日於山之口死、年六十四、法
名宗梅、

久往

長千代 小右衛門 主計 源右衛門

○慶長十年乙巳十二月六日於飯野誕生、母中原般若

院慶心女、

○正保三年續父久望賜山之口地頭職移住彼地、

○同四年十一月十三日、太守光久公於武州王子村

張行犬追物、被奉備

將軍家之台覽、此時久往勤喚次冒御稱號、同月十

六日數輩射土相共登 玉城奉拜謁

將軍家、忝賜時服、同十二月二日於西之丸奉拜

儲君家綱公拜戴時服、

○萬治元年戊戌十二月四日於山之口死、年五十四、
法名宗堅、

久能

長兵衛 休右衛門

○慶長十七年壬子四月二十六日誕生、母同前、

○元祿十四年辛巳九月二十二日死、法名昌屋源隆

居士、

超然

僧也、字良俊、

○元和五年己未十一月二十五日誕生、母伊地知駿

河女、

○鹿兒島大興寺之住持也、

○寶永四年丁亥十月二十八日死、法名法印權大僧

都超然大和尚、

隆宣

僧也、童名宮千代 文春

○元和九年癸巳五月六日誕生、母同前、

○正保四年丁亥三月二日於江州三井寺僊化、法名
隆宣大德、

俊民

初久武 源太兵衛 三右衛門 休右衛門 庭

山

○慶安四年辛卯三月十六日誕生、母山之口土原澤

監物重廣女、

久如

權兵衛 半七

○明曆三年丁酉十一月十五日誕生、母同前、

○寶永二年乙酉十一月廿六日死、法名照如一夢

居士、

女子

新納宗祝久現妻、

○母同前、

俊行

初久峯 半平 權左衛門

○元祿二年己巳九月二十八日誕生、母山之口土尾
上藤左衛門重陣女、

俊安

休次郎

○元祿八年乙亥九月二十五日誕生、母同前、

女子

伊集院源右衛門俊通妻、

○母伊集院源右衛門久往女、

女子

新納長右衛門時喜妻、

○母同前、

俊常

初久明 源八

○元祿五年壬申五月九日誕生、母同前、

俊盈

長壽

○寶永元年甲申八月二十日誕生、母薩州田布施土遠
矢六郎右衛門成重女、

女子

伊東六右衛門祐重妻、

○母大島休左衛門忠盈女、

俊亮

初久亮 長千代 龜壽 主計 休左衛門

○正保二年乙酉十月十日於山之口誕生、母同前、

久次

八兵衛

○慶安元年戊子六月誕生、母同前、

○寛文五年乙巳四月八日死、法名松屋宗岩禪定門、

久貞

十左衛門 五左衛門 平太

○承應三年甲午七月十日誕生、母同前、

○延寶三年乙卯七月十日於江戶死、法名瑞雲憐昌居士、

女子

伊集院三右衛門久武妻、

○母同前、

女子

新納太右衛門時庸妻、

○母伊東覺兵衛祐雪女、

女子

伊東兵右衛門祐良初之妻、

○母同前、

俊通

初久通 源七 源右衛門

○延寶五年丁巳十月十八日誕生、母同前、

○正德三年家嫡藏人久矩傳 公命曰、當家之實名自

今以後避久忠之字可用俊字、故改俊字、庶族同之、

○此家至初及家督等之時拜謁 太守公、則奉獻御太刀且勤小番、是家格也、

俊雪

初久雪 善助

○天和元年辛酉五月十二日誕生、母同前、

俊

助七

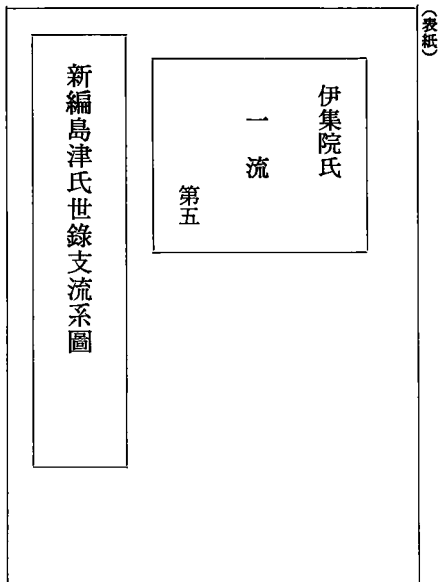
○正德元年辛卯十一月十日誕生、母妾、

(カ)

久守
加賀守

○伊集院長門守忠國四代家督第十四男也、

忠光
號土橋、初久光 大和守
伊集院氏支流土橋系圖



忠増

女子
久成 助五郎

久純
市右衛門

女子
久益 初久成 助右衛門 ○子孫記左、
久金 市右衛門 加賀守

久純
市左衛門 ○子孫記左、

助五郎 加賀

忠次

二郎太郎 ○子孫記左、

忠重

市右衛門

○慶長七年壬寅十一月七日死、法名淨心神祇、

忠晴

市右衛門

○正保三年丙戌十一月四日死、法名眠室久閑上座、

忠次

五左衛門

太胡

石山寺住、

忠豐

主馬助

○兄忠次非家督之器、故忠豐相續當家、

○寬永十六年己卯十一月十六日死、法名雲影壽伯居士、

忠成

隼人

○寬永九年壬申二月十日誕生、母市來士萩原傳助兼

貞女、

○薩州市來士也、子孫在彼地、

○萬治二年己亥十一月十日死、法名玄室良參居士、

忠辰

正兵衛 市來士、

○寬永十三年丙子六月二十三日誕生、母同前、

○元祿十三年庚辰七月十五日死、法名法師可全房、

俊重

初忠榮 伊兵衛

○寛文四年甲辰十二月七日誕生、母伊勢兵部貞昭

家臣東條民部左衛門女、

俊賀

與七

○元祿八年乙亥三月十日誕生、母本田六左衛門親方

家臣肝付主稅女、

俊記

初忠許 市右衛門

○明曆二年丙申正月五日誕生、母市來土字都縫殿親

常女、

○正德三年之夏受家嫡藏人久矩之令、當家之實名自

今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

俊親

初忠堯 市之丞 與三右衛門

○天和二年壬戌三月晦日誕生、母市來土南郷六郎兵

衛忠清女、

女子

薩州伊集院土宮原次右衛門景苗妻、

○母同前、

俊爲

初忠厚 源右衛門

○元祿五年壬申十二月十八日誕生、母同前、

俊信

金之助

○寶永二年乙酉七月二十日誕生、母市來土重信勦兵

衛實廣女、

俊中

鐵右衛門

○寶永六年己丑正月九日誕生、母同前、

土橋市左衛門久純一流系圖

久純

市左衛門

○土橋家元祖大和守忠光之二男、

忠行

市左衛門

忠稠

忠信

忠

城之助

○從隅州國分移居日州內山、

○天正六年戊寅正月十一日於豐後州臼杵郡戰死、

法名場運光弓居士、

女子

日州綾土田口藤七兵衛妻、

忠重

監物

○永祿十二年己巳十月十四日誕生、母矢上道股女、

○子孫日州穆佐土也、

○寬永十四年戊丑十一月二十五日死、法名實參元

眞信士、

女子

穆佐土永山九郎左衛門妻、

○母穆佐土高木清右衛門女、

女子

日州勝岡土久木早太妻、母同前、

女子

伊右衛門忠順妻、○母同前、

女子

日州高岡士入田新左衛門親賢妻、

○母同前、

忠順

伊右衛門

○元和二年丙辰二月四日誕生、母穆佐士上野隱岐

女、

○忠重無實子故嫁妹、以爲養子相續家、實穆佐士

高木主馬之嫡男也、

○寛文七年丁未三月二十四日死、法名過翁金透居

士、

忠曉

源太左衛門

○正保元年甲申三月八日誕生、母穆佐士山内軍兵

衛女、

○忠順無男子故爲智養子、實穆佐士吉野監物家定

之二男也、

○延寶四年丙辰八月二十二日死、法名別外良傳居

士、

女子

忠堯妻、

○母忠重妹也、

女子

早世、○母同前、

女子

高岡士中嶋彌兵衛妻、○母同前、

俊茂

平馬・伊右衛門

○寛文六年丙午五月二十二日誕生、母忠順女、

俊樹

喜右衛門

○延寶三年乙卯七月十六日誕生、母同前、

俊庶

犬千代

○正徳二年壬辰三月二十二日誕生、母穆佐土高木
彌右衛門女、

女子

穆佐土野村市之丞頭高妻、

○母高岡土佐藤吉左衛門親信女、

俊眞

五左衛門

○元祿十三年庚辰十二月十日誕生、母同前、

長四郎

○寶永二年乙酉八月十八日誕生、母同前、

○穆佐土兒玉大兵衛實壽之養子、

俊意

平之丞

○寶永五年戊子七月二十六日誕生、母同前、

忠明

玄蕃亮

忠安

源六

女子

忠弘

兵左衛門

女子

忠晴

玄蕃允

忠成

玄蕃允

忠純

玄蕃允

忠次

彦八郎

忠成

甚左衛門

○子孫島津兵庫久住家臣而在隅州加治木、

○寛永三年丙寅六月二十九日死、法名雲宗道浮禪定

門、

女子

加治木家臣德田六郎左衛門盛秀妻、

女子

隅州帖佐土石原助兵衛妻、

忠朝

六右衛門

○元和五年己未三月十三日誕生、母甚左衛門忠成女、

○忠成依無男子爲猶子、實加治木家臣德田六郎左衛

門盛秀之嫡子也、

○寶永七年庚寅十月二十四日死、法名茂松宗繁居士、

俊露

初忠兼 龜之丞 六兵衛

○寛永十九年壬午十月十三日誕生、母加治木家臣枝

元大内藏重則女、

女子

加治木家臣前田佐太夫盛謙女、

○母加治木家臣木佐木孝左衛門景近女、

女子

加治木家臣河内五郎兵衛重利妻、

○母同前、

俊積

初忠知 諸右衛門

○延寶五年丁巳四月十六日誕生、母同前、

俊精

龜之丞 六右衛門

○元祿十一年戊寅八月十三日誕生、母加治木家臣森

山亨庵親賢女、

俊完

吉次郎

○寶永二年乙酉五月十五日誕生、母同前、

俊方

金千代

○寶永五年戊子三月朔日誕生、母同前、

女子

○母同前、

土橋助右衛門久益一流系圖

久益

初久成 助右衛門

○土橋家二代加賀守久守之二男、

久行

初久純 助太郎

久幾

助右衛門

久秋

助左衛門

伊集院氏

久眞	助二郎	○子孫日州高岡士也、	久重	助三郎	○子孫隅州大始良士也、	忠常	佐渡守	忠張	新左衛門	忠正	勘解由左衛門	○承應二年二月十六日死、法名物外全一上座、
----	-----	------------	----	-----	-------------	----	-----	----	------	----	--------	-----------------------

忠友	治部左衛門	○寛永三年丙寅三月朔日誕生、	○元祿十六年癸未九月十二日死、法名觀室良音信士、	女子	○母始良士中俣主膳女、	俊名	長十郎 治右衛門	○寛文六年丙午正月二日誕生、母同前、	女子	○母同前、	女子	○母相良權太夫長規家臣馬渡瀨兵衛女、
----	-------	----------------	--------------------------	----	-------------	----	----------	--------------------	----	-------	----	--------------------

俊芳

龜之丞

○元祿十五年壬午十一月二十四日誕生、母同前、

久正

助左衛門

忠次

新右衛門

宗吉

掃部兵衛

○爲春田某猶子、

忠倚

初久倚 加右衛門

○宗吉爲春田家猶子故相續當家、實高岡土柚木崎善

右衛門之弟也、

○元祿四年己未五月十六日死、法名大翁吞慶居士、

忠次

主左衛門

○母高岡土日高源右衛門女、

○忠次者雖爲忠倚之嫡子、生一女一男而早世、且俊次弱齡也、忠倚亦老年而乏家資、仍使養俊知相續當家、實者高岡土黑木吉兵衛之二男也、

女子

高岡土西郷權兵衛重豐妻、

俊次

新左衛門

○寛文七年丁未二月十三日誕生、母同前、

○祖父忠倚老年、父忠次亦早世、仍使俊知相續當家、故俊次者爲當家庶流矣、

俊貞

初忠知 吉左衛門

○正保三年丙戌六月二十七日誕生、母高岡士八重尾

土佐重則女、

女子

高岡士大岐彦左衛門廣繩妻、

○母高岡士新原藤左衛門利息女、

忠次

吉之丞

○貞享元年甲子三月八日誕生、母同前、

○寶永七年庚寅十月二十二日死、法名本覺源性居士、

土橋二郎太郎忠次一流系圖

忠次

二郎太郎

○土橋家五代助五郎久成之二男、

○子孫鹿兒島士、

忠祇

二郎右衛門

忠實

助九郎 次郎右衛門

忠次

彌兵衛

○文祿四年乙未正月七日誕生、

○慶安二年己丑四月十二日死、法名觀室常山居士、

忠洪

彌七

○寬永十二年乙亥正月十五日誕生、母達野駿河女、

○元祿二年己巳八月朔日死、法名清心宗鏡居士、

忠光

初忠清 與五郎 正左衛門

○寛永十四年丁丑正月七日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰九月七日死、法名傳山覺心居士、

女子

仁禮六左衛門頼宣妻、

○母同前、

俊貴

初忠皎 八兵衛

○寛文七年丁未七月朔日誕生、母永長與左衛門金

猶女、

忠智

次兵衛

○寛文十二年壬子七月二十日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰十二月十五日死、法名徧海義周

居士、

俊名

初忠金 伊左衛門

○天和元年辛酉八月二日誕生、母同前、

女子

○母隅州蒲生土野村與七左衛門正綱女、

女子

○母蒲生土緒方武左衛門惟友女、

俊豫

次右衛門

○元祿十六年癸未九月八日誕生、母同前、

女子

○母蒲生土野添休左衛門忠親女、

俊秋

與八郎

○元祿十年丁丑二月六日誕生、母同前、

俊益

正右衛門

○元祿十五年壬午三月五日誕生、母同前、

俊晋

三右衛門

○寶永二年乙酉九月七日誕生、母同前、

俊親

初忠榮 鶴松 彌右衛門

○寛文十一年辛亥十一月九日誕生、母古木彦兵衛宗

直女、

忠秀

次郎右衛門

○貞享四年丁卯五月二十一日誕生、母同前、

○寶永二年乙酉四月十二日死、法名關室淨三居士、

俊易

袈裟市 市兵衛

○元祿十二年己卯六月十六日誕生、母蒲生土嶺崎傳兵

衛重宏女、

女子

○母同前、

俊尹

與兵衛

○寶永四年丁亥七月十六日誕生、母同前、

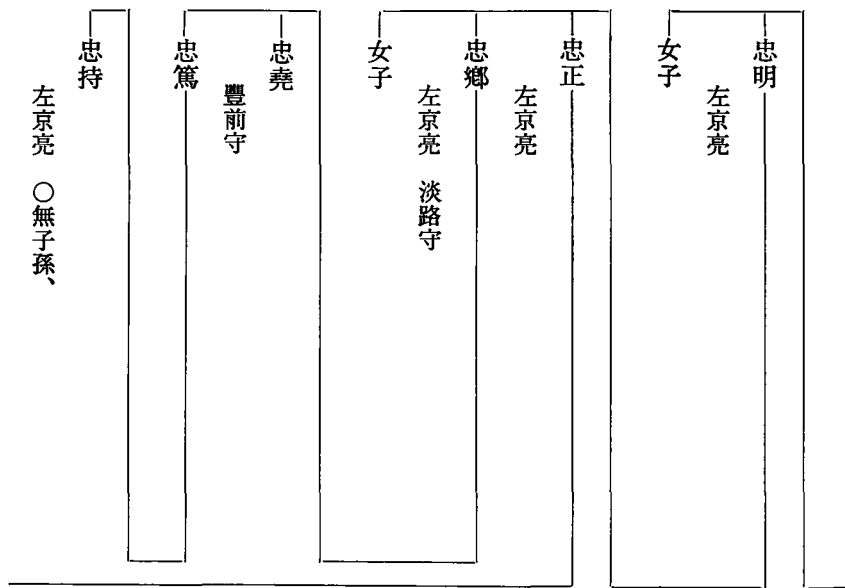
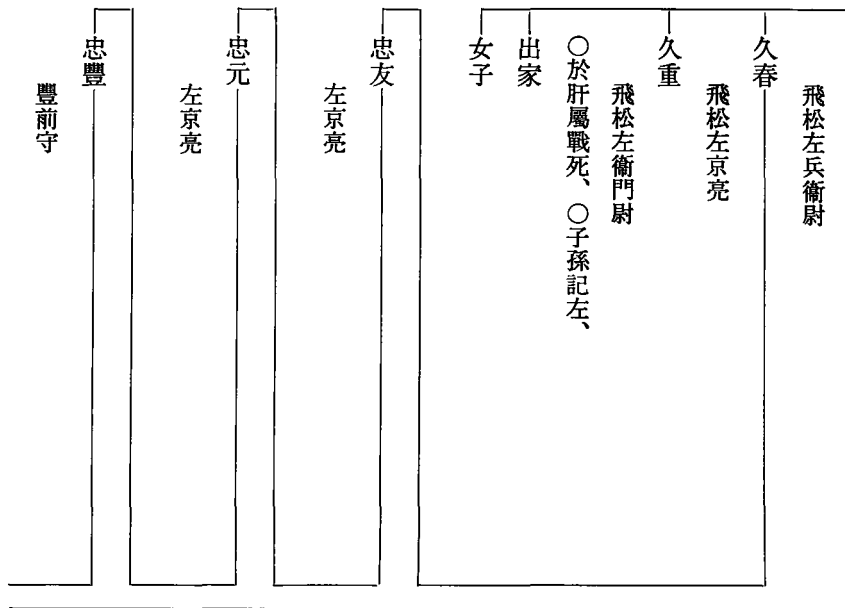
伊集院氏支流飛松系圖

久義

號飛松、相模守 他腹、與土橋一腹、法名道禮、

○伊集院長門守忠國家督四代第十五男也、

久家



忠近

豐前守 ○無子孫、

久根

號伊集院、伊賀守 法名昌琳、

久以

富松左京亮 伊賀守

久時

左京亮

久正

左京亮 伊賀守

久元

初忠元 左京亮

○久正依無繼子爲猶子、實忠友子也、

久友

富松 長松 彌八 左京亮

○日新尊君賜高書於野村兵部與久友、記左、

『正文在野村太郎左衛門』

○嘗弓箭從最前一段被抽忠勤候事、神妙大慶之至候、
至向後茂 尙以可〔憑〕^{⑩頼}存事實也、聊互不可有〔犯〕^{⑩狂}心

候、縱自然雖有讒臣、具可遂相談候、爰以貴久同
篇候、若此義於違背者、任天道所也、仍狀如件、

五月十三日

日新 ^(忠良)
(花押)

富松左京亮殿

野村兵部少輔殿

(本文書ハ「旧記雜録前編二」二〇九〇号文書ト同文ナリ)

○日新君欲陷加世田城、其三日已前進加世田、島津

八郎左衛門尉實久之旗下有稱大山宮内少輔之勇士、與之刺違共死、又十二月廿九日陷加世田城之時、猿渡氏與加世田之市來氏刺違共死、兩士之墓在城門之左右、稱之富松・猿渡墓也、

○法名久林道昌居士、

久次

善次郎

久次

善次郎

久朗

號伊集院、善次郎 善左衛門

○日州高城士也、

○寶永二年乙酉十月二十六日死、法名覺知久朗居士、

俊武

彌六

○貞享四年丁卯八月朔日誕生、母日州高城士石川次兵衛長恆女、

○久朗依無世子爲猶子、實高城士和田休右衛門純時之子也、

俊

善七

○正徳元年辛卯九月二十二日誕生、母日州末吉士黒木慶右衛門重房女、

久利

號伊集院、初久刑 長松 彌七 左京亮 中長

門守 筑前守 入道名宗徳、

○大永六年丙戌誕生、母吉留某女、

○先川邊・高城地頭、後日州蓬原地頭也、

○慶長十二年丁未八月十五日於隅州加治木死、年八十二、法名久才桂昌居士、
四郎兵衛

號伊集院、○母同前、

○子孫日州志布志士也、

玄蕃

號富松、○母同前、

○子孫隅州串良士也、

女子

日高甚四郎妻、○母同前、

久元

吉右衛門 ○法名安山守泰禪定門、

久重

大炊介

○慶長十一年乙巳三月十三日誕生、母鹿兒島士

牧之田藤兵衛祐正女、

○延寶七年乙未十一月二十一日死、法名喜翁常山居士、

久治

初久直 半右衛門

○寬永十五年甲寅六月十五日誕生、母串良士安

莊志摩助宗定女、

○元祿十年癸丑五月二十日死、法名桂林秀月居

士、

俊芳

初久喬 九兵衛

○慶安四年丙戌四月六日誕生、母同前、

俊道

初久敬 彌市郎 彌七兵衛

○萬治四年辛丑三月二十日誕生、母串良士中島

戸右衛門近乃女、

俊篤

初久基 彌左衛門 半右衛門

○寛文五年乙巳六月十八日誕生、母同前、

女子

申良士野村吉左衛門重貞妻、

○母同前、

俊陽

彌右衛門

○元祿六年癸酉八月十八日誕生、母申良士脇田

市左衛門貞國女、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

俊昉

彌十郎

○元祿八年乙亥正月十五日誕生、母申良士原田源

左衛門定興女、

俊博

彌市郎

○元祿十三年庚辰六月四日誕生、母同前、

久宣

四郎左衛門 ○法名心月宗順上座、

忠辰

彦兵衛

○久宣依無繼子爲養子、實志布志士有馬伊右衛門

之二男也、

○慶安二年己丑三月晦日死、法名隨庵良緣居士、

久盈

四郎兵衛 五右衛門

○寛永六年己巳正月十一日誕生、母申良土田中利右衛門女、

○正徳二年壬辰八月十八日死、法名直源了心、

伊左衛門

○爲志布志士清水三郎兵衛之養子、

女子

志布志士秋元伊右衛門妻、

俊文

初久文 彦兵衛 五郎右衛門

○慶安四年辛卯二月二十六日誕生、母志布志士田

原彦左衛門女、

俊英

伊兵衛 彦左衛門

○承應三年甲午三月二十二日誕生、母同前、

女子

日州大崎土山下甚之丞妻、

俊繁

五左衛門

○元祿十六年癸未三月五日誕生、母志布志士河野

茂左衛門女、

女子

俊蕃

初久英 彌市 彦兵衛

○延寶八年庚申八月二十六日誕生、母志布志士牧

之瀨諸兵衛女、

俊番

菊之丞

○寶永七年庚寅十二月二十六日誕生、母志布志士酒

勾善左衛門女、

女子

女子

初川上十郎次郎範久妻也、範久戰死而后再嫁市

來玄蕃左衛門家親、

○母鮫島宗月之第三女、

女子

伊地知三河守重正島津豊後
旗下也妻也、

○母同前、

久朝

長松 彌七 左京亮

○永祿二年己未誕生、母同前、

○美濃州關之原合戰、西國方軍敗、惟新尊君下國之時

薩摩州之所質、悉以見攜下焉、有官女乘船二艘、

左京・有川大炊左衛門・宅萬與八左衛門爲警衛乘

之不計、會黑田如水番船之守豐之前後州海浦、挑

戰於海上、然而衆寡天地懸隔、故遂戰死、法號養

月存孝居士、

久行

休兵衛 ○母同前、

○出水之士春成主殿爲猶子、

忠成

備中 彌七 左京亮 筑前守

○天正八年庚辰誕生、母市來清十郎女、

○寬永十年癸酉二月二十九日死、法名雄林宗舌居士、

女子

眞幸院內尾野寺愛甲秀眞妻、

○母同前、

久重

仲助

○文祿二年癸巳誕生、母同前、

○初爲鎌田勝右衛門之後嗣、後復本家、

○寛文五年乙巳正月七日死、年七十三、

女子

寺師某妻、

○母鎌田勝右衛門女、

久政

米千代 彌八郎 七右衛門

○天正十四年丙戌誕生、母伊地知河内守女、實春

成休兵衛久行之嫡子而久朝之甥也、故令弟彌八

郎繼春成家、久政者準久朝之三男而冒伊集院氏、

○明曆元年乙未二月十五日死、法名日山春白居士、

女子

左近允六右衛門妻、

○母竹之内土佐女、

兼政

善次郎 爲左衛門

○寛永九年壬申誕生、母同前、

○爲谷山士肝付縫殿兼任之智養子、

女子

○母丹生備前恆信女、

○奉仕 太守家久公、於江戸早世、

久眞

長松 彌七 左京

○慶長十四年己酉九月三日誕生、母同前、

○延寶七年己未八月十三日死、法名龍山長虎居士、

久建

幼名留主 休兵衛

○元和二年丙辰十一月二十九日誕生、母同前、

○元祿四年辛未十一月二十二日死、法名月峯淨心

居士、

久與

菊千代 彌右衛門

○寛永二年乙丑誕生、母同前、
○延寶八年庚申二月二十日死、法名極圓心太居士、

— 女子

大寺新五左衛門妻、

○母出水土野村市郎右衛門直綱女、

— 清兵衛

○明曆二年丙申誕生、母同前、

○二十七歳而死、

— 女子

伊瀬知某妻、○母同前、○早世、

— 女子

○母同前、○早世、

— 久廉

宮松 彌兵衛 善内

○寛永十六年己卯五月六日誕生、母壹岐五兵衛幸

— 正女、

○元祿十六年癸未十月二十九日死、法名雲外祖岫

— 居士、

— 女子

上原源右衛門妻、○母同前、

— 俊經

初久中 筑右衛門 周右衛門

(……ノ部分ハ「伊集院一流惣系図」ヨリ補フ)

○慶安二年己丑九月四日誕生、母同前、

— 女子

隈元四郎兵衛宗恆妻、○母同前、

— 俊盈

初久庸 休右衛門

○寛文二年壬寅十一月二日誕生、母同前、

— 俊矩

良右衛門 ○薩州市來士也、

伊集院氏

○慶安二年己丑正月二十九日誕生、

○久建爲市來噉而居彼地時、令俊矩爲養子
準四男冒伊集院氏、實市來士兒玉主馬利
次之二男也、

俊喬

平八 助市

○貞享三年丙寅八月五日誕生、

女子

俊純

米德 慶兵衛

○元祿五年壬申五月十一日誕生、

俊重

初久年 休太郎 喜兵衛

○元祿四年辛未三月十四日誕生、母久保笹右衛
門之連女、

女子
女子

久清

善彌

○貞享四年丁卯四月二十五日誕生、

○寶永三年丙戌正月二十八日早世、法名梅心良秀

居士、

女子

河野甚七妻、

俊貞

初久儔 周八 藤兵衛

○元祿四年辛未十二月十六日誕生、

女子

初爲川崎角兵衛祐直妻、而后嫁家村造右衛門重
香、

○母伊集院左京久眞女、

俊房

初久近 彌十郎 友右衛門

○寛文十二年壬子二月二十二日誕生、母同前、

俊住

初久篤 松助 八左衛門

○延寶四年丙辰二月十二日誕生、母同前、

女子

川上孫市親繪妻、

○母同前、

俊

彌十郎

○寶永四年丁亥四月十七日誕生、母樺山四郎左衛門

資門女、

久明

長松 彌七 七左衛門 主水 入道名松林、

○寛永九年壬申十月九日誕生、母山田土佐有定女、

○寛文二年勤 綱久公之御近習役、

○天和元年冬任 眞修院國夫人之御年寄役、

○貞享五年秋任京大坂藏奉行、

○正德三年癸巳十月朔日死、法名本源淨心居士、

忠朝

源十郎 彌左衛門

○寛永十五年戊寅十一月六日誕生、母同前、

○爲丹生善良之智猶子、

女子

伊集院善内久廉妻、 ○母同前、

忠張

龜鶴 五右衛門 刑部左衛門 市之丞

○正保二年丙戌三月二十二日誕生、母同前、

○元祿十五年壬午九月十三日死、法名喜庵久悅居士、

士、

女子

新原久馬妻、○母同前、

女子

吉田文右衛門清方妻、

○母岩切秀悅信門女、

女子

竹原甚右衛門清親妻、○母同前、

俊香

初忠寄 吉太郎 市助 平右衛門 孫市

○貞享三年丙寅六月晦日誕生、母同前、

久峯

初久根 長松 彌七 七左衛門 多宮

○明曆元年乙未四月四日誕生、母出水土中馬兵部左

衛門重辰女、

○元祿十三年庚辰正月二十四日死、法名自運玄心居

士、

俊國

初久金 松千代 兵右衛門

○明曆三年丁酉九月九日誕生、母同前、

女子

弟子丸與次右衛門宗武妻、○母同前、

女子

神戸五左衛門妻、○母同前、

女子

山田玄哲行賀妻、○母同前、

女子

伊東傳右衛門祐真妻、○母同前、

女子

天亡、

○母今井舍人兼慶女、

女子

肱岡總左衛門賴利妻、○母同前、

俊章

初久曉 松千代 助七

○元祿五年壬申二月五日誕生、母同前、

俊友

初久鎮 頭次郎 藤六

○元祿十一年戊寅三月十二日誕生、母同前、

俊堅

初久暉 長松 彌七

○延寶六年戊午九月十八日誕生、母岩切仁右衛門信

秀女、

○正德三年之夏、受家嫡藏人久矩之令、當家之實名

自今以後避久忠字改俊字、庶族皆同之、

○此家至于初及家督等之時者奉獻御太刀且勤小番、

是家格也、

俊武

初久貫 是七 主左衛門

○延寶八年庚申八月二十四日誕生、母同前、

女子

吉田藤右衛門清春妻、○母同前、

久文

小膳 仁右衛門

○元祿五年壬申六月三日誕生、母同前、

○爲隅州高山土川俣喜角家明之養子、

女子

鳥丸伊右衛門重治妻、○母同前、

俊春

初久利 長松 七左衛門

○元祿十一年戊寅十一月二十四日誕生、母田中吉左

衛門國寧女、

女子

○母同前、

俊

大六

○正德三年癸巳二月十三日誕生、母同前、

飛松左衛門尉久重一流系圖

久重

號飛松、左衛門尉

○飛松家元祖相模守久義之三男也、

○於肝付戰死、

久成

左衛門 ○子孫隅州財部土也、

久次

助三郎 ○子孫隅州財部土也、

久次

助之允

久純

甚助

女子

田島隱岐妻、

久次

勘解由

女子

井之上長右衛門妻、

久存

仲助 虎之丞 仲左衛門

○寛永十二年乙亥十月二日誕生、母井之上治部左

衛門女、

○元祿十四年辛巳六月六日死、法名本覺良心居士、

勘十郎

○母妾、早世、

俊包

號富松、初久包 仲八 權右衛門

○寛文十一年辛亥正月九日誕生、母同前、

女子

鹿兒島土肥田木半左衛門妻、

○母同前、

俊教

初久教 仲之丞 覺左衛門

○延寶六年戊午正月七日誕生、母同前、

○爲市來土植木太郎左衛門正富之養子、

俊

仲八

○元祿十六年癸未三月二十四日誕生、母鹿兒島土竹

之下彌左衛門女、

女子

○母同前、

久守

左兵衛尉

久實

大和守

久音

勘解由左衛門

久深

與右衛門

○久音依無繼子爲猶子、實都之城家臣池田但馬義張之子也、

○慶安三年庚寅九月七日死、

久敬

榮右衛門

○慶長十年乙巳十二月六日誕生、

○元祿十三年庚辰七月二十三日死、年九十七、法名

月山常心居士、

俊益

號飛松、初久矩 正兵衛 與右衛門

○寛文二年壬寅七月十日誕生、母薩州大口土園田休

二郎女、

女子

財部土福島七郎左衛門重長妻、

○母都之城家臣立元織右衛門正存女、

俊存

覺左衛門

○元祿三年庚午三月十三日誕生、母同前、

俊盈

正兵衛

○元祿九年丙子正月二十八日誕生、母同前、

俊寶

與三左衛門

○正徳二年壬辰十一月十八日誕生、母財部土弓削藏

右衛門則存女、

伊集院氏支流四本系圖第十

爲吉

號四本、伊賀守

○伊集院長門守忠國四代家督末子也、

<p>忠直</p> <p>初忠清 民部左衛門</p>	<p>忠重</p> <p>勘解由</p>	<p>爲安</p> <p>又五郎</p> <p>爲勝</p> <p>孫右衛門</p>	<p>爲道</p> <p>孫右衛門</p> <p>爲春</p> <p>孫右衛門</p>	<p>忠明</p> <p>對馬守</p>	<p>爲晴</p> <p>二郎五郎</p> <p>爲滿</p> <p>太郎五郎</p>	<p>爲成</p> <p>彥三郎 伊豆守</p>
----------------------------	----------------------	--	---	----------------------	---	--------------------------

<p>忠儀</p> <p>源太左衛門 甚兵衛</p> <p>○延寶五年丁巳五月十七日死、法諱一應淨泉居士、</p>	<p>忠次</p> <p>太兵衛 宇左衛門</p> <p>○法名常安照讚居士、</p>	<p>忠吉</p> <p>初忠善 勘左衛門 九郎右衛門</p> <p>○明曆三年七月二十二日死、壽七十五、法名寶樹淨珍居士、</p> <p>○申良士、</p>	<p>忠成</p> <p>新左衛門</p>
---	---	---	-----------------------

俊筠

初忠秀 萬千代 利左衛門

○寛文四年甲辰十月二十一日誕生、母大崎

之土四元字左衛門忠次女、

○養子、實大崎之土二見半左衛門安益之三男、

女子

大崎之土二見半左衛門妻、

忠倚

米助 佐左衛門

○母内之浦土高橋安右衛門女、

○寶永五年戊子八月六日死、年六十四、法名

昌屋詠順居士、

女子

大始良之土瀨口孫右衛門妻、

女子

高山士日高彌右衛門妻、○母同、

俊武

初忠宜 佐千代 休右衛門

○延寶九年辛酉正月二十四日誕生、母串良之土

村岡五左衛門時宗女、

俊員

初忠次 甚平 佐左衛門

○貞享元年甲子六月十一日誕生、母同、

女子

串良之土松永喜右衛門凡宗妻、

○母串良之土竹下久馬助頼芳女、

忠貞

勘右衛門

○慶長十八年癸丑誕生、

○忠重無繼嗣故爲養子、實谷山士古垣伊賀忠尙

之二男也、

○延寶四年丙辰三月十一日死、法名自性常心信士、

忠次

榮右衛門

○寬永十五年戊寅十二月二十日誕生、

○爲谷山之土澁江九左衛門養子、

忠次

伊兵衛

○寬永十七年庚辰十一月十六日誕生、

○兄榮右衛門爲澁江氏之繼嗣時、隨順兄而往澁江

家、乞冒澁江號遂爲谷山之土、

女子

○盲人

忠正

初忠昌 助八郎 木工之助

○寬永十年癸酉五月二十一日誕生、母鹿兒島之

士鎌田右兵衛政英女、

○勘右衛門忠貞之實子兄弟共爲澁江氏、故忠貞

養忠正而爲嗣子、實指宿之土市來覺兵衛家利

之三男也、

○元祿八年乙亥八月晦日死、享年六十三、法名

自性了源居士、

忠次

仲之丞 勘左衛門

○萬治二年己亥九月七日誕生、母指宿土萩原覺左

衛門貞恆女、

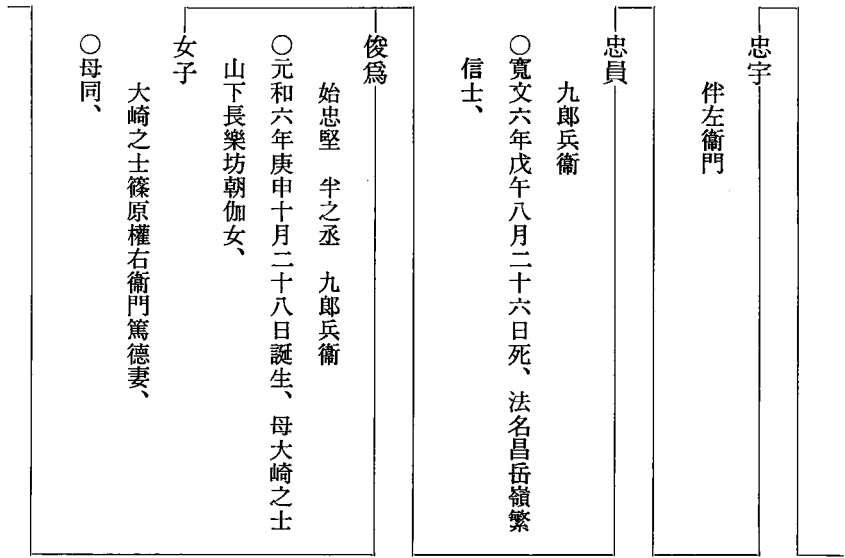
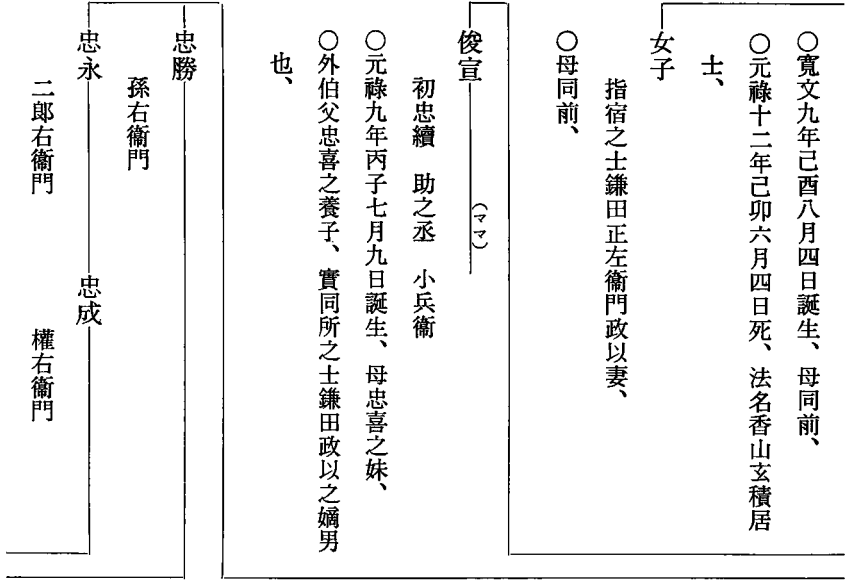
○爲指宿之土伯父市來助左衛門家尙嗣子、

○正德元年辛卯五月十一日死、壽五十三、法名徹

山宗禪居士、

忠喜

松助 勘右衛門



女子

大崎之士柏原寶仙公典妻、

○母大崎之士山本次郎兵衛重次女、

俊常

始忠高 半左衛門

○寛文六年丙午四月十七日誕生、母同、

俊種

始忠次 松右衛門 宅右衛門

○延寶六年戊午三月二十八日誕生、母同、

俊直

源内

○寶永元年甲申九月五日誕生、母大崎之士藥丸

段兵衛兼次之女、

女子

大崎之士川北幸左衛門兼氏妻、

○母大崎之士中島仲右衛門氏利女、

俊親

始忠次 半之丞

○元祿十三年庚辰八月七日誕生、母同、

俊章

始忠次 喜介

忠重

七郎左衛門

忠直

七郎

秀次

淨慶

秀屋

伊豫

秀堅

主税介

○天正十年於肥前島原戰死、

秀貞

主税

女子

單人之妻、

忠

單人

○秀貞無男子故爲智養嗣、實小根占之土神之脇守

左衛門嫡子、

○寛文二年壬寅二月十五日死、法名心翁良清居士、

女子

忠由之妻、

忠由

爲右衛門

○依無單人男子忠由爲智養子、實四本彦兵衛忠堯

二男也、甥四本彦右衛門忠友死而無嗣、故忠由

辭當家而爲忠友後嗣、

女子

早世、

俊峯

初忠盈 中忠寬 平兵衛

○忠由辭當家而訴 公以忠盈爲嗣、實古後七郎右

衛門親秋之二男也、

○承應二年癸巳十月十八日誕生、母古後但馬秋親

女、

俊武

初忠紀 平七 孫右衛門

○天和二年壬戌二月九日誕生、母伊作之土坂本爲
右衛門女、

俊香

初忠篤 龜德 半右衛門

○貞享三年丙寅八月五日誕生、母同前、

女子

母同、

俊門

平七

○寶永七年庚寅六月二十一日誕生、母峯崎傳左衛門

重貞女、

俊次

孫七

○正徳二年壬辰七月二十日誕生、母同前、

忠行

彦三郎 五郎兵衛尉 伊豆守

○對家督彈正少弼頼久忠功異于他矣、由是赦免忠字
也、

女子

忠安

彦三郎 伊豆守

忠晴

五郎兵衛尉 伊豆守

忠次

二郎左衛門

爲行

助二郎 伊豆守

忠乘

助三郎

<p>忠正 助三郎 伊豆 忠次 彦三郎</p>	<p>忠成 彦三郎 忠守 後藤兵衛</p>	<p>忠成 仲左衛門 ○法諱經阿彌陀佛、</p>	<p>忠兼 藤七兵衛 法名達叟芳了居士、 ○母竹下土佐女、</p>	<p>忠清 初忠安 良俊 法諱彈弦琴聲庵主、 ○母竹下玄蕃丞女、</p>
-------------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	---	--

<p>忠次 虎千代 早世、</p>	<p>忠灼 初後藤 休兵衛 ○貞享元年甲子二月六日誕生、母水引士岩元長左衛門女、 ○虎千代早世、故爲後嗣、實水引士寺田孝左衛門永榮之二男、 ○寶永三年丙戌八月二十七日死、法號禪道不著居士、</p>	<p>俊方 初忠次 半十郎 ○寶永二年乙酉八月二十二日誕生、母北郷作左衛門家來北郷吉兵衛資祥女也、</p>
-----------------------	--	---

忠明

二郎左衛門

忠益

五郎右衛門

忠續

孫太郎

忠繁

彌太郎 彌五右衛門

○弘治二年丙辰誕生、

○寛永二十一年甲申六月十八日八十九歲死、法

號月船龍心、

久繁

彌九郎 大藏 六兵衛

○文祿二年癸巳八月十五日誕生、母鹿島氏女、

○萬治三年辛丑四月十四日六拾九歲死、法號圓

月道味、

女子

長濱助左衛門友次妻、

○母實吉大藏女、

女子

伊集院與左衛門久時妻、○母同前、

忠清

萬菊丸 彌兵衛

○寛永五年戊辰十月十四日誕生、母同、

○元祿九年丙子十二月十三日六拾九歲死、法名

隆岳安盛、

忠爲

彌助 薙髮名見朴、

○寛永十年癸酉誕生、母同、

○元祿十年丁丑八月二十七日六十五歲死、法

名龍山了哲、

女子

伊集院與左衛門俊筠妻、

○母藤田藤兵衛經次女、

女子

○母同、

俊武

初忠持 覺內 六右衛門 薙髮名朴用、

○寬永十二年乙亥九月十四日誕生、母同、

女子

伊集院友右衛門俊英妻、

○母鮫島六左衛門宗利女、

女子

樋渡次右衛門清長妻、○母同、

女子

有川喜兵衛貞長妻、○母同、

忠知

益右衛門 ○母同、○早世、

忠次

六左衛門 ○母同、○早世、

女子

有川平右衛門貞苗妻、○母同、

俊眞

用左衛門

○忠知・忠次踵蚤死而無實子、故俊眞爲後嗣、

實安樂軍兵衛兼貞二男也、

俊左

初忠成 爲右衛門

○寬永十四年丁丑八月十四日誕生、母同、

女子

喜入岩之助久峯家臣日高次郎兵衛爲純

妻、

○母久峯家臣矢野三右衛門女、

俊影

初忠重 彌十郎 伴三郎 總兵衛

○寛文二年壬寅四月三日誕生、母同、

忠貞

長三郎 長右衛門 ○母同、○早世、

女子

久峯家臣伊集院勘左衛門俊員妻、

○母久峯家臣山下掃部秀次女、

忠次

萬作 彌太右衛門

○母同前、

○延寶三年乙卯五月十六日死、法名悟了宗頓、

俊春

初忠向 喜助 左京 六兵衛

○承應三年甲午正月二十七日誕生、母同、

○忠次早世、故俊春嗣忠清之家、

女子

久峯家臣濱田太兵衛義元妻、

○母同、

女子

久峯家臣上野七右衛門重張妻、

○母同、

祐與

菊千代 勘之助 勘七 五左衛門

○久峯家臣長野勘兵衛之養子、

俊盈

初忠隆 萬六 彌兵衛

○延寶九年辛酉誕生、母久峯家臣長濱助左衛門

友次女、

女子

久峯家臣伊集院平兵衛俊信妻、

○母同、

<p>忠鎮</p> <p>忠包</p> <p>二郎太郎 壹岐守</p>	<p>忠之</p> <p>二郎太郎 壹岐守</p>	<p>忠充</p> <p>二郎太郎</p> <p>女子</p>	<p>俊賢</p> <p>彌市左衛門</p> <p>○寶永八年辛卯正月十二日誕生、母久峯家臣藤田兵左衛門經次女、</p> <p>女子</p> <p>○母同、</p>
-------------------------------------	---------------------------	---------------------------------	--

<p>秀遇</p> <p>覺左衛門</p> <p>○寬永十四年丁丑七月十八日死、法諱心岳宗安居</p>	<p>秀昌</p> <p>筑前</p>	<p>秀續</p> <p>主水</p> <p>秀綱</p> <p>覺左衛門</p>	<p>爲清</p> <p>越中</p> <p>女子</p> <p>孫右衛門</p>
---	---------------------	---	---

士、

忠僚

宮千代 甚七 志賀助

○元和元年乙卯八月二十五日誕生、

○養子、實谷山孫右衛門忠通二男、

○貞享元年甲子五月七日死、享年七拾歲、法諱仙

翁空洞庵主、

女子

清水彌三右衛門妻、

○母薩州河邊土四本主水女、

俊盈

初忠親 宮千代 監助 二郎左衛門 甚七

入道名中心、

○寛永十八年辛巳三月九日誕生、母同、

○延寶七年十一月二十四日任御納戸奉行、

○貞享三年十月忠親於江府獻二種一荷而奉謝賜家

督之忝、是家元獻中紙、獻二種一荷、始于此、

○元祿二年二月六日補日州馬關田地頭職、

女子

上井五郎左衛門朗善妻、○母同、

重隆

勘七 清左衛門 角助 權兵衛 ○母同、

○爲川口覺兵衛重好智養子、

俊寅

初忠盈 宮千代 監物 次郎左衛門

○寛文七年丁未十一月十四日誕生、母法元宇左衛

門盛常之女、

○寶永三年忠盈獻弓而、拜 太守吉貴公奉謝賜家

督之忝、

重常

甚六 甚兵衛

○母同、○川口權兵衛重隆之後嗣、

女子

黑田喜左衛門妻、○母同、

俊恆

初忠榮 孫六 ○母同、

女子

○他腹、

俊易

初忠豫 宮千代 監助

○貞享四年丁卯八月十七日誕生、母清水彌三右衛門

義昌女、

○是家俊盈以來家督及初拜謁以獻弓而爲嘉例、

女子

母同、

俊賢

初忠倚 宮鶴 甚五左衛門 ○母同、

忠尙

太郎兵衛尉 伊豆守

○日新尊君加世田在城之際被補小浦之役、居住彼地也、

忠助

越中守 齊名一鈞、

○太守貴久公御代被召移鹿兒島也、

忠眞

伊豆

忠次

半八郎

○天正四年丙子八月十九日於日州高原戰死、

忠滿

半左衛門 伊豆

○師于朝鮮國、慶長三年歸、

○寬永四年丁卯十一月二十一日死、

女子

加世田士西掃部兵衛忠充妻、

○母加世田士奈良佐左衛門宗清女、

女子

美代主殿清親妻、

○母泊士山下宗悅女、

忠實

半九郎 六左衛門

○慶長五年庚子十月二十日誕生、母同、

○同氏八兵衛忠次後嗣、

忠近

半左衛門 ○他腹、○早世、

忠清

初忠昌 慶兵衛

○慶長十六年辛亥誕生、

○兄忠近早世、故奉 公命而為後嗣、

○萬治元年戊戌四月二日死、法名常心月宗居士、

忠次

半左衛門

○母加世田士岩本平左衛門秀重女、

○明曆四年戊戌四月七日死、法名正林禪定門、

女子

加世田士大迫曾右衛門重時妻、○母同前、

忠次

半十郎 ○早世、○母同前、

忠尚

長兵衛

○正保元年甲申二月十七日誕生、母同前、

○兄忠次早世、故家督、

○元祿六年癸酉二月二十九日死、法名道春禪定門、

俊道

初忠道 松千代 甚五左衛門

○元祿元年戊辰八月十六日誕生、母加世田土二野
仁藏宗隆女、

俊富

(マ)

初忠次 松之助

○正徳三年癸巳三月二十七日誕生、母加世田土宮原
喜兵衛景定女、

忠次

彦兵衛尉

○於筑前州岩屋戰死、

半九郎

○兄彦兵衛尉依無世子爲後嗣、

女子

半九郎

○兄半九郎依無世子爲繼嗣、

女子

忠次

半九郎

○兄彦兵衛依無世子爲猶子、

○於日州根城戰死、

忠次

半九郎

○兄半九郎戰死、無世子故爲後嗣、

○於朝鮮國戰死、

忠次

八兵衛尉

○半九郎戰死、無世子由是爲後嗣、實鹿島七右衛門

子也、

忠實

六左衛門尉

○八兵衛尉依無世子爲後嗣、實四本半左衛門尉子也、

忠守

半兵衛 八郎兵衛

○元和六年庚申九月十九日誕生、母泊之士鹿島太郎

兵衛國明女、

○元祿十年乙丑閏二月十二日死、法名涼雲俊清居士、

清宣

權兵衛 ○母同、

○美代主殿清親養子、

忠榮

半之丞

○寛永七年庚午三月二十日誕生、母同、

○延寶九年丙辰九月六日死、法名鐵山了心居士、
女子

伊藤了右衛門祐道妻、○母同、

俊方

初忠明 千熊 半左衛門

○寛文七年丁未五月十三日誕生、母久留萬左衛門

景教女、

俊次

千九郎

○寶永七年庚寅十一月六日誕生、母市來士鮫島長左

衛門宗晴女、

忠洪

半九郎 半兵衛

○寛永十八年辛巳六月誕生、母二階堂十左衛門宣行

女、

○寛文七年丁未九月二十二日早世、法名松岩寅長居

士、

女子

吉田四郎兵衛清毘妻、○母同、

久近

初忠休 松千代 五郎兵衛 六左衛門

○兄忠洪早世故家督、

○承應二年癸巳六月十三日誕生、母同、

○元祿十年丁丑正月二十一日死、法名鐵山盤柱居士、

俊辰

初忠珍 彌八 與左衛門 佐五右衛門

○寛文九年己酉十二月十五日誕生、母小根占土黒

木玄蕃重憲女、

忠智

三左衛門 彦兵衛 八兵衛

○延寶元年癸丑二月十九日誕生、母久保平内左衛

門之昌女、

○中村與七左衛門義頼後嗣、

俊眞

八之丞 彦兵衛

○元祿十一年戊寅十二月二十九日誕生、母奈良原助

左衛門女、

女子

木脇賀左衛門祐盛妻、

○母松本昌庵光總女、

女子

肝付八郎右衛門經兼妻、

俊爲

初久道 八太郎 八郎兵衛 八郎

○元祿七年甲戌正月十五日誕生、母同前、

○正徳三年五月、嫡家伊集院藏人久矩奉 公命、一

家庶族避久忠之兩字以俊字爲實名通字、於是隨久
矩亦改俊爲、吾家之庶子依之皆改俊字、